

資料

メコン河開発調査10年の歩み

昭和45年7月

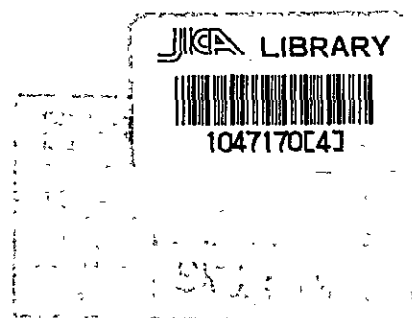
海外技術協力事業団

メコン河開発調査10年の歩み 昭和45年7月 海外技術協力事業団

100
61.7
SD

メコン河開発調査10年の歩み

——いわゆる「協力効果のエヴァリュエーション」の見地から
わが国開発調査に焦点を当てて——



国際協力事業団	
受入 月日 84. 5 18	F-0010
登録No. 05583	67.7 SID

はじめに

わが国がメコン河主要支流踏査を担当して第一次踏査団を現地へ派遣したのは1959年1月のことである。したがって、それ以来すでに満10カ年の歳月が経過した。この機会にエヴァリュエーションの観点からわが国のメコン開発調査の足取りを振り返り、そのなかから一定の評価と教訓を引き出すことは今後のメコン開発協力の方向を求めるうえに有意義なことと思われる。

そこで、これまでのメコン河開発調査を振り返るとき、実績追跡の足掛りとなる膨大な関連データが必ずしも十分に整理分析されていない状況に鑑み、まず作業の第一段階としてこの既存資料の整理とりまとめに重点をおいて概ねつぎのような方針にもとづいて調査を行なうこととした。

- (1) メコン河開発計画が策定された経過およびその計画の概要
- (2) 開発計画推進のための調査計画の概要（メコン河長期開発計画と調査計画、業務の概要）
- (3) わが国の役割と実施した調査の概要（技術的要点を含む）
- (4) すでに行なわれた全ての調査について国別、機関別、プロジェクト別のカード・システム（一定様式）による整理
- (5) 実施された開発事業の概要（事業内容、規模、効果等）

以上の各項目について、時間的経過を追って分析し、また、この作業を通じて各種調査報告書、関連データ等1ヶ所に集積、整理した。

なお、このような国内既存データの追跡を主とする作業のみでは、

わが国メコン調査の全体を客観的に評価するための資料としては完全とはいえないが、しかし、この基礎的作業が求めた内容は、それ自体それぞれ評価的要素をも内包するものであり、それらの可能な分析を通じて将来この種協力の方向を求めるうえに有益な一つの基礎的データを得ることができたと思われ、広く関係各位の参考の資となれば幸いである。

最後に、この困難かつ膨大な作業に対し惜しまず協力支援を下されたメコン調査団員等作業メンバー各位に深謝申し上げる次第である。

昭和45年4月

海外技術協力事業団

総務部長 田中秀穂

開発調査部長 階堂佳次

目 次

序	「メコン河開発調査10年の歩み」とりまとめ作業について…………… 2
第1章	メコン開発年表…………… 4
第2章	メコン開発調査及び事業の項目別分類表(プロジェクト別・援助国・援助機関別等)…………… 別冊附録
第3章	カード分類による各開発調査プロジェクトの概況……24 (調査項目:①調査カード番号,②プロジェクト名, ③援助国又は機関名,④調査年度又は期間,⑤調査金額, ⑥調査対象プロジェクトの種類,⑦備考, ⑧調査対象プロジェクトの概要,⑨報告書の構成, ⑩備考,⑪プロジェクト地点の国名,⑫調査が実施される至る経緯, ⑬性格的分類,⑭調査内容,⑮調査評価,⑯調査報告書の概要, ⑰調査地域概略図, ⑱日本が行なったものについて記入すべき事項, ⑳相手国の受入態勢,㉑特記事項)
第4章	カード分類による建設の実施された開発プロジェクトの概況 (調査項目:上記第3章調査項目に準ず)

序 「メコン河開発調査10年の歩み」 とりまとめ作業について

1. 調査の具体的なとりまとめ作業は、このメコン開発調査事業の評価を行なう観点から、概ねつぎのような作業方針にもとづいて行なわれた。
 - (1) およそ10カ年におよぶこれまでのメコン開発調査および事業の実績につき出来得るかぎり情報を集約し将来の利用価値を高める見地からそれぞれカード・システムにて分析・整理を行なった。
 - (2) この調査カードはさらに(i)援助国・援助機関別、(ii)プロジェクト別、(iii)調査段階別、(iv)開発の目的別、の各項目別に検索引用できるように分類した。
 - (3) また、個々のカード分析を積み上げて、これまでの10カ年の動向に関して「年表」型式で整理を行なった。
その結果、
 - (4) 個々の調査カードにおいて、当該調査の具体的内容、事業化(建設実現)との関連等を知ることにより、個々のプロジェクトおよびその調査の評価が可能と考えられる。
 - (5) 個々のカードの横の比較において、わが国の果してきた役割、効果あるいは技術水準等の評価が可能と考えられる。
 - (6) さらには、上記の年表とカードを基礎にこれに現地での効果追跡および評価を加えれば事業の総合的な評価や将来の方向づけの検討も可能であると思われるが、これは今後の検討課題としておく。

2. 本調査作業に直接参加したメンバーはつぎのとおりである。

事業団関係：

総務部企画課

開発調査部実施課，計画課

調査団関係：

電源開発株式会社グループ（徳野 武ほか）

日本工営株式会社グループ（吉田良三ほか）

経済企画庁総合開発局開発調整課

（吉村 彰）

日本水工コンサルタント株式会社グループ

（三宅康夫ほか）

三祐 コンサルタンツ・インターナショナル

（大垣内誠ほか）

メコン河開発年表（開発計画，調査計画，実施事業）

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日	本
1947	国 連	ECAFE (エカフエ) 設立 (The United Nations Economic Commission for Asia and the Far East)	国連の方針と理事会の監督のもとにアジア極東地域内の経済的，技術的，調査研究を援助する。	1954.4	日本参加
1949	エカフエ	洪水調節局 (後に洪水調節・水資源開発局)	洪水調節等の河川問題について，関係政府に助言し，必要な国際援助を行う。		
1951	第7回エカフエ総会 (パキスタン，ラホール)	議 決	メコン河流域開発を国際河川開発のテストケースとして対象にとりあげる。		
1952	エカフエ	報 告 書 (Technical Problems)	国際河川メコン河の開発 洪水調節と水資源開発に関する技術的問題についての予備報告		
1955 (11月)	米国沿岸4ヶ国	特別プロジェクト協定	調査・実施についての特別協定 (ジュネーブ休戦協定後の協議により)		
1955 (12月)	米国国際協力局 (ICA)	メコン河開発可能性調査開始	実施は米国内務省開拓局		
1956	米国開拓局	メコン河下流域踏査報告書 (Reconnaissance Report Lower Mekong River Basin)	勧告内容の主なもの (1) 本流の水路と地形測量 (2) 全流域の地形と地質調査 (3) 本流・支流の流量観測所の設立 (4) 沈澱サンプリング		

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日	本
			(5) 気象観測所の設立		
			(6) 本流・支流すべての発電可能地点の分類 (これには各地点の包蔵水力の見積と全流域の電力市場調査を含める)		
			(7) この地域の多角農業と米作以外の作物の可能性についての調査,研究		
			(8) 輸出価格増大を目標とする水産加工技術改良計画		
			(9) 家庭用,都市用給水施設改善のため公衆衛生と技術専門家の任命計画		
			00 本流計画ダムサイト,例えばPhra Bat (後にパーモン- Fa Mong - と呼ばれる) サイトの如き地点の精密調査のための資料収集		
			01 太湖(Grand Lac)の魚獲量増加のためその貯水量を調節するに必要な調査		
			02 ヴィエトナムのJoncs平原の開発。特に土壌中の塩分問題についての研究		
			03 地域内の輸送,通信の総合的研究		
			04 現在の水路標識その他の施設の維持と再建		
			05 水路の障害物の除去のため浚渫等による水路改善		
			06 河川の施設の運用,維持等のための現地人の技術訓練計画		

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
1956 (4月)	エカフエ	調査計画立案のための顧問団 エカフエによるメコン河現地踏査 (Development of water resources in the Lower Mekong Basin)	沿岸4ヶ国の協力を得て現地調査	科学技術庁資源局が資源局資料第19号(昭和34年1月20日)にてわが国に広く紹介す。 日本人として久保田豊氏(日本工営KK社長), 境田正宣氏(日本工営KK)参加
1957 (10月)	エカフエ第13回総会の勧告	メコン委員会の設立	1957年10月 メコン河下流域調査調整委員会設立 (Committee for Cordination of Investigations of the Lower Mekong Basin) (1) 委員会の業務, 機能等 (イ) 通常会議は年3回(1月, 3月, 8月) (ロ) 議長は任期1年で4ヶ国の輪番制 (ハ) 協力国政府代表及び国連機関の代表はオブザーバー (ニ) 年頭会議で過去1ヶ年の実績及びその年の計画等の全面的検討 (ホ) メコン委員会はエカフエの下部機構ではないが, 国連本部及びエカフエ事務局は委員会に協力することになっている。 (ヘ) 諮問委員会(Advisory Board)がある。	

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
1957 (11月)	国連 TAA	ホイラー調査団 メコン川下流域総合開発調査研究 計画(Program of Studies and Investigation for Com- prehensive Development Lo- wer mekong river Basin)	(1) 調査団の編成 団長 米陸軍中尉(退役) Raymond A. Wheeler 氏 国際復興開発銀行 団員 G. Duval 氏 フランス諮問技術者 久保田 豊氏 日本, 日本工営社長諮 問技術者 John W. Mccammon 氏 カナダ前ケベ ック水力委員会総支配人諮問技術者 Kanwar Saih 氏 インド政府中央水 資源水力委員会議長 団長補佐 米陸軍工兵隊 H. V. Darling 氏 技術員 P. T. Tan 氏 (ECAFE事務局) 情報官 C. O. Tinoco 氏 (") 通 訳 G. Brauh 氏 (") 事務補佐 E. J. Lamache 氏 (") 語 学 員 G. Picard 女史 (国連本部)	久保田豊氏の参加
			(2) 開発計画(5ヶ所) パ・モン ケマラート コーンの滝 サンポール トンレーサップ	久保田豊氏参加
			(3) 調査計画 920万ドル(第一次調査5ヶ年計画)	(わが国の分担分) 主要支流の踏査 24万ドル (後に3万ドル追加)
			(4) 開発効果 発電・洪水防禦・かんがい・舟航・ト ンレサップの漁業	

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日	本			
			(5) 調査項目の年次計画					
				第1年	第2年	第3年	第4年	第5年
		I	主要・支流踏査	120 (43,200)	120 (43,200)			
		II	水文調査	1,140 (410,400)	240 (86,400)	240 (86,400)	C	C
		III	測量および製図					
		A	水準測量	370 (133,200)		170 (61,200)		
		B	航空測量図化	340 (122,400)	330 (118,800)	540 (194,400)	530 (190,800)	
		C	補助地点測量	310 (111,600)	300 (108,000)	180 (64,800)	180 (64,800)	
		D	地形水路調査		150 (54,000)		190 (68,400)	
		E	流水被害調査		50 (18,000)		50 (18,000)	
		F	建設資材調査		50 (18,000)		90 (32,400)	
		G	地質調査 ポ-リソング		240 (86,400)		470 (169,200)	
		H	土壌調査		60 (21,600)		130 (46,800)	
		I	水路調査	30 (10,800)	30 (10,800)			
		IV	関連特別研究費	200 (72,000)	200 (72,000)			
		V	予備設計					
		1.	本流有望地点			900 (324,000)		

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等					日 本
			第 1 年	第 2 年	第 3 年	第 4 年	第 5 年	
								900 (324,000)
			2. その他地点					
			Ⅵ 共同委員会に対する					
			技術顧問費	50 (18,000)	50 (18,000)	50 (18,000)	50 (18,000)	50 (18,000)
			年間経費	2,560 (921,600)	1,820 (655,200)	2,180 (784,800)	1,690 (608,400)	950 (542,000)
			累計経費	2,560 (921,600)	4,380 (1,576,800)	6,500 (2,361,600)	8,250 (2,972,000)	9,200 (3,312,000)
			② 米弗価格 単位 1,000 弗 (円価格 単位 1,000 円)					
			C : 関係 4 ケ国で作業費及び機材費を負担					
1958	メコン委員会	ホイラー報告書による調査開始 (後に第1次5ケ年計画に拡大される)	各国,各機関の分担 (詳細はカードによる)			日本政府による主要支流踏査開始 (3ケ年計画)		
1959~ 63 (64)	メコン委員会	第1次5ケ年計画の進捗状況	(詳細はカードによる)					
			ホイラー調査団の調査計画は1959~1963年の5ケ年間に概ね次の通り進捗した。					
			(1) 主要支流の踏査					
			(2) 水文観測網設置及び操作					
			(3) 本流,支流の航空写真図化					
			(4) 本流3計画(パ・モン,サンポール,トンレ・サップ)の総合計画調査の相当程度推進					
			(5) 舟航改善のための水路測量所の設立強化及び水路調査					
			(6) 多くの関連事業(パイロット・ファーム					

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日	本
1961 (9~11月)	国連本部	ホワイト報告 (フォード財団の資金援助により シカゴ大学のGホワイト教授を中 心とした調査団)	<p>等)を行った。</p> <p>社会開発調査の重要性を強調 (従来の調査計画は技術的な点にウエイトが 置かれていたので社会開発としての見方から 開発理論の体系化を論じたものである)</p> <p>内容の主なるもの</p> <p>(1) メコン河下流域開発のための社会的経済 的問題の調査を開始し,これを監督し,そ の結果を評価するために早急に事務局に2 人の補助者をもつ上級専門家を任命する。</p> <p>(2) メコン委員会はその業務を次のような事 項にまで拡げるべきである。</p> <p>(イ) 経済社会分析についての短期間の訓練 実施計画を始めること。</p> <p>(ロ) 1964年に流域内の要請と委員会の 計画とについて再検討する機会を持つこ と。</p> <p>(3) 委員会は政府間機関と協力してつぎの特 にエカフェ地域では関心の高い諸問題につ いて検討すべきである。</p> <p>(イ) かんがい,洪水防禦,排水改良により 増産される。米或いは他の農作物の市場 についての予想</p> <p>(ロ) 国民所得と経済計画の概略的な調査</p> <p>(ハ) それぞれの分野における資格があり, 経験をもつ人的資源の必要性</p> <p>(ニ) 輸出品の基準と品質管理</p>		

年 度	実施主体の名称 (国連機関名, 国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
1959(1月)	メコン委員会		(4) 貯水池或いは天然湖での人工養魚	第 1 次踏査団の現地踏査
1960 (1959.12)	"		(4) 委員会は世界銀行と密接な連絡のもとに経済的可能性の推定にあたり, その方法論の検討に際して指導的立場をとるべきである。委員会の幾人かの委員と事務局員はこれに参加すべきであって, それぞれの調査団には 1 名乃至 2 名の代表が参加すべきである。	第 2 次 "
1960 (11月)			(5) 委員会は, メコン河下流域計画の規模及びその範囲について, 系統的研究を進めるべきであって, このためにはアメリカ工兵隊のポートランド計算機センターの機能を使って分析と分析者の訓練を行なうことが好ましい。	安芸 一氏エカフェ治水利水開発局長
1960(9月)			(6) 委員会は最初の本流計画の総合報告書が完成するおよそ 1 ヶ年前に国際的融資, 建設それからその管理のために委員会の管理機構を実際的にこれに適応できるようその改変について慎重な検討を進めるべきである。	第 3 次踏査団の現地踏査
			(7) 委員会は既に得られた資源とその利用, さらに社会特性についての資料を整理し, 印刷するために 2 年計画でこれを遂行すべきである。	
			(8) 土地生産力, 土地利用, 森林被覆とか住民定着の様式についての基底的資料目録作成の第 1 段階は, 従事者の訓練, 資料収集とその試験計画を樹てることである。これ	

年 度	実施主体の名称 (国連機関名, 国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
1961 (10月)	日 本	メコン河下流域主要支流踏査報告 (Comprehensive Reconnaissance report on the Major Tributaries of the Lower Mekong Basin)	<p>により第2段階の目録作成に当って4ヶ国それぞれに同一基準の成果を可能とすることができる。これはできるだけ実際的でなくてはならない。この目録作成には1年間の第1段階の期間の上に2年を要するであろう。</p> <p>(9) 農業専門家を組織し農業改良の手段として水管理の必要性を理解するよう押し進めるべきである。このためには定期的にゼミナーを開いて水計画の選定とか設計に際し、当面した課題についての検討を行なうことが好ましい。</p> <p>(10) 次の3つの分野において同時に電力市場の予想を行なうべきである。</p> <p>(i) 住宅、商業或いは一般工業用の電力負荷</p> <p>(ii) その製品市場が国内或いはこの地域内に見込まれ、原料資源、動力それと経済開発計画に関連して開発可能な電力を原料として利用する産業についての分析</p> <p>(iii) 地域相互間或いは国際市場を必要とする電力多消費型産業の可能性についての分析</p> <p>(11) 委員会は洪水防禦についてのいろいろな手段と洪水予報組織との関連で水害を軽減することがどうしたらできるかという方法論の検討を促進すべきである。</p> <p>(12) 委員会は水管理によって利益を得ることのできる農民に必要な援助を進めるために</p>	<p>(1) 既に年度別の踏査報告書は提出済</p> <p>(2) 第15回委員会は3回の踏査をまとめて報告書(最終)提出</p> <p>(3) 主な内容は次の通り</p> <p>(i) 踏査対象34河川のうち別表16河川を選定し、そのうち次の8河川について早期に調査を開始する旨提案した。</p> <p>(a) Nam Ngum Laos</p> <p>(b) Se Bang Hieng 又は Nam Thern Laos</p> <p>(c) Se Done "</p> <p>(d) Nam Mong及びNam Pong Thailand</p> <p>(e) Upper Se San Viet Nam</p> <p>(f) Upper Srepok "</p> <p>(g) Stung Sen Cambodia</p> <p>(h) Stung Sang Ke (Stung Battambang) Cambodia</p> <p>以上のうち Nam Ngum (下流部に限り) Nam Pong Upper Se San, Stung Battambang は国連の特</p>

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
1 9 6 1	メコン委員会	(わが国の分担分について調査実 施)	<p>村或いは県の段階で作業する技術者の訓練を速やかに始めるべきである。</p> <p>03 3,000~5,000haの既耕地を基準としてこのような管理が地方農民の生活にどのような影響を与えるか十分観察することのできる程度の総合模範農場を設立すべきである。</p> <p>04 できるだけ早い期間におよそ10種類の熱帯性樹木の試験ができるよう試験林地を設立すべきである。それぞれの種類毎に土壌の種類によって選定された異なった場所で100ha程度のものを5区画ほど設けることが好ましい。</p>	<p>別基金により予備調査が行れその他はわが国が分担することになる。</p> <p>(ウ)支川開発の効果</p> <p>(a)治水(洪水調節)</p> <p>個々の河川についてはカードによるが本川のPa Mong, Stung Trengの開発と関連して支川を開発することにより(支川5つ)850億m³を貯溜し平水年におけるDelta及びGrand Lac周辺の治水効果をあげる。</p> <p>(b)電力</p> <p>支流の包蔵水力は 設備出力 7,740(10³ KW) 年間電力量 47,070(10⁶ KWH)</p> <p>(c)かんがい</p> <p>個々の河川開発によるカードの通りである。なおこれ等の数字を合計することは合理性がないのでここでは行わない。</p> <p>(1)ナムガム開発計画予備調査 (2)プレクトノット //</p>

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
				(3)スレブロック上流開発計画 水文調査 (4)サンボール開発計画予備 調査
1962	メコン委員会			(1)スレブロック上流ダムラッ ク開発計画調査 (2)サンボール開発計画第1 次本格調査
1963	”			(1)スレブロック上流クロンプ ロック開発計画調査 (2)サンボール開発計画第2 次本格調査
1963 (1月)	メコン委員会 (第19回ウィエンチ エン)	第2次5ケ年計画立案(1964~ 1968年)	第19回委員会において第2次5ケ年計画が 決議される。(於ウィエンチャン) (1) 期 間 1964年1月~1968年12月 (2) 事業及び財政計画 (3) 年間に少くとも1回は優先度について検 討 (4) その内容は第1次5ケ年計画の拡大であ るが調査項目は次の通り (イ) 基礎データの収集 本流パ・モン, サンボール, トンレサ ップ各計画の必要補足地域及び追加9支 流流域の地形図の作成と水文調査 (ロ) 流域計画 本流及び支流における基礎資料収集, 精密踏査, 地質調査, 土壌調査, 材料調 査, 洪水被害調査等を行ない各計画の総	(第2次5ケ年計画に対応 した期間とわが国が実施し た調査-詳細はカードによ る-) (1964) (1)スレブロック上流クロンプ ック開発計画 (2)サンボール開発計画第3 次本格調査 (1965) (1)アッパースレブロック調査 (2)サンボール開発計画第4 次本格調査 (1966) (1)サンボール開発計画第5 次本格調査 (2)ナムグム計画実施設計 (3)ナムブロン上流計画調査

年 度	実施主体の名称 (国連機関名, 国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
			合調整案を作成	(1967)
			(イ) 本流計画 バ・モン, サンボール, トンレサップ 各計画の総合計画報告書の作成を完了 し, 建設資金算定の基礎を確立する。	(1) スタンチニット計画調査 (大湖沿岸開発調査) (別表 16 河川名)
			(ロ) 支流計画 日本政府の勧告した優先7支流 (パタ ンバン, プレクトノット, ナムグム, ナ ムボン, ナムブン, アッパーセサン, ア ッパーズレボック) と追加支流 (スタン プルサト, スタンセン, セドン等) の総 合計画報告書の作成及び一部支流計画の 建設の完了	プロジェクト 位置 Nam Ngum ラオス Nam Lik " " Nam Theum " " Se Bang Fai " " Se Bang Hieng " " Se Done " " Nam Gam タ イ Lam Dom Noi " " Chaya Poum " " Nam Pong " " Upper Se San ベトナム Upper Srepok " " Prek Thnot カンボジア Stung Pursat " " Stung Battambang " " Stung Sen " "
			(ハ) 舟航改善計画 大縮尺航空写真による航行困難な岩礁 部分の図化, 水路の清掃, 倒木の除去, 危険な岩石の除去, 岩礁部の改善, 河川 及び河口部の浅い部分の改善, 水路標識 増設と水路改善, 既存小型船舶の設計の 改善, 新式小型船舶の設計, 造船及び修 理施設の建設, 港の開発等	
			(ニ) 関連計画 鉱物資源調査, 電力市場調査, 洪水対 策, 実験農場設立, 経済的社会的調査及 び研修活動の強化	
1964 (1月)	メコン委員会	ズレボック上流計画 (ダルラック) 調査報告書	第23回委員会に提出された。	我国の実施した調査で計画 の概要・結論等は次のとお り

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
1965 (1月)	メコン委員会	スレボック上流計画(クロンブック)調査報告書	第26回委員会に提出された。	<p>ヴェトナム中央部パンメット高原を貫流するスレボック河上流部に多数のダムを建設し農業開発を主たる目的とした計画である。この地域は肥沃な土地であり、かんがい施設さえ行えば、農業に最適な土地になり得るものでプライオリティは高い。そしてダルラック開発計画はかんがい可能地8,000haのうち1,000haの単独開発の可能性がある。</p> <p>クロンブック開発計画は上流及び下流貯水池でそれぞれ6,500ha,4,900haのかんがいが可能である。</p> <p>次にスレボック上流域の全開発計画は</p> <p>(1)洪水調整に直接には関係なくかんがい計画だけ独立した開発と</p> <p>(2)洪水調整が先行し、ついで農業、開こん、発電が組み合わせられた開発とである。</p> <p>クロンブックの下流計画は前者に含まれるもので、</p>

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
1965 (5月)	メコン委員会	メコン委員会の機構拡大	<p>従来のメコン委員会の機能の拡大を次により決定した。</p> <p>(1) 出席者</p> <p>国連・ナラシムハン次長 エカフェ・ユニオン事務局長 メコン委員会・シャーフ事務局長 その他国連各機関の幹部</p> <p>(2) メコン河下流域総合開発調整委員会 略してメコン開発委員会と改称 (Committee for Cordination of Comprehensive Development of the Lower Mekong Basin)(但し現在のところ 実現していない)</p> <p>(3) メコン河開発は本流と支流の本資源開発 のみではなく、工業、農業開発及び鉱物調 査を含む多くの関連分野を入れる。</p> <p>(4) 非公式にアジアハイウェイ及びアジア開 発銀行との今後の関係を討議</p> <p>(5) 資金計画としては一応 19.5 億ドルを提 案</p> <p>(6) この金額が4ヶ国により修正され31億</p>	<p>経済性と多数の移民を擁していることから、プライオリティが高く、ダルラック計画はこの地区の農民が他の地方に移住したため、開発は後回しにしようので後者に切換える必要がある。</p>

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
			ドルとなり，メコン河下流域総合10ケ年 計画に発展	
1965 (8月)	メコン委員会	総合開発10ケ年計画	資金計画 31億ドル(別表-1参照)	
1966 (3月)	メコン委員会	スレボック上流計画(クロンブ ック上流)調査計画	第30回委員会に提出された。	我国の実施した調査で前述 クロンブック下流計画の上 流に計画されたものである。
1970 (2月)	メコン委員会	ノンカイ，ヴィエンチャン架橋計 画調査報告書	第45回委員会に提出された。	我国の実施した調査 ラオスの首都ヴィエンチ ャンとタイの首都バンコッ クを直接道路と鉄道によっ て連絡するため両国の国境 となっている，メコン河に 道路鉄道併用橋を架設しよ うとするものである。これ によってメコン河で分析さ れていたアジアハイウェイ 12号線が連繋される。 この計画は技術的経済的 財務的に可能であり，技術 的に何ら困難な点はなく， ラオス，タイ両国に多大の 利益をもたらす。 建設費は総額で2,150 万米ドルと推定され，その 内訳は取付橋梁を含めたも のが900万米ドル，鉄道

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本												
1970 (2月)	メコン委員会	サンボール計画調査報告書	第45回委員会に提出された。	<p>850万米ドル,道路は管理設備も含めて400万米ドルである。</p> <p>この計画にとって強く望まれることは,詳細設計の早期実施と建設資金の調達である。</p> <p>我国の実施した調査</p> <p>ブノンベン北方約150 km のメコン河本流サンボール地点にダムを建設して電力を得るほかにかんがい,舟航改善を行おうとするものである。</p> <p>サンボール計画単独およびナムグム計画,パモン計画を考慮した場合の計画の概要は次のとおりである。</p> <p>1. ダムおよび発電計画</p> <p>(1) 貯水池</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>満 水 位</td> <td>40m</td> </tr> <tr> <td>有 効 容 量</td> <td>2050×10⁶</td> </tr> <tr> <td></td> <td>cum</td> </tr> <tr> <td>ダムの型式</td> <td>フィルタイプ及びコンクリート</td> </tr> <tr> <td>延 長</td> <td>30.7 km</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>54 m</td> </tr> </table>	満 水 位	40m	有 効 容 量	2050×10 ⁶		cum	ダムの型式	フィルタイプ及びコンクリート	延 長	30.7 km	高 さ	54 m
満 水 位	40m															
有 効 容 量	2050×10 ⁶															
	cum															
ダムの型式	フィルタイプ及びコンクリート															
延 長	30.7 km															
高 さ	54 m															

年 度	実施主体の名称 (国連機関名,国名等)	事 項	内 容 ・ 機 能 等	日 本
				(2) 発電所 設備出力 875MW (2,100MW) 年間可能発生電力 7,000×10 ⁶ KWh (14,600×10 ⁶ KWh)
				(3) 工事費 318.1×10 ⁶ \$ (437.6×10 ⁶ \$)
				2. 舟航計画
				(1) インクライン 3線
				(2) 工事費 5.3×10 ⁶ \$
				3. 農業かんがい計画
				(1) 計画面積 34000ha (587,000ha)
				(2) 工事費 34.9×10 ⁶ \$ (525×10 ⁶ \$)
				注 ()内はナムグム・パ モン計画を考慮した もの。

1970 メコン委員会

1969年末拠出額

別表-2 参照

別表-1.

10ヶ年計画必要資金表

(US\$100万)

	第 1 期 1965~1967	第 2 期 1967~1970	第 3 期 1970~1975	計
カンボディア	154.41	195.70	632.12	982.23
ラオス	98.65	143.25	148.00	389.90
タイ	95.70	56.30	240.00	392.00
ヴィエトナム共和国	171.878	268.047	360.10	800.025
4カ国共同開発	61.10	55.00	467.50	583.60
計	581.738	718.297	1,847.72	3,147.755

註：このメコン河下流域総合開発10カ年計画は、今後或る程度修正が行なわれると考えられるが、従来の水資源開発計画のみならず関連計画、即ち港湾、民間航空、都市計画、工業、農業、漁業、森林、道路、郵便と通信、公衆衛生、教育など広範な開発計画を含むものであり、今後の開発の指針となるものである。

別表- 2.

	Pre-Investment Investigations and Planning (\$ equivalent)	Investment for Construction (\$ equivalent)	Total (\$ equivalent)
Australia	1,011,000	2,733,458	3,744,458
Austria	75,000	—	75,000
Belgium	165,000	—	165,000
Canada	1,365,000	4,000,000	5,365,000
China	170,200	15,000	235,200
Denmark	10,000	1,280,000	1,290,000
Finland	10,000	—	10,000
France	1,664,749	4,732,156	6,396,905
Fed-Rep of Germany	2500	1,700,000	1,700,250
Hong Kong	10,000	—	10,000
India	312,805	200,000	512,805
Indonesia	10,000	—	10,000
Iran	208,500	—	208,500
Israel	786,300	5,000	791,300
Italy	49,700	1,000,000	1,049,700
Japan	1,551,465	1,370,700	1,525,846
Netherlands	643,142	4,770,000	5,413,142
New Zealand	355,037	432,860	787,947
Norway	10,000	—	10,000
Pakistan	100,000	150,000	250,000
Philippines	339,957	80,000	419,957
Sweden	20,000	—	20,000
Switzerland	475,000	—	475,000
United Arab Republic	5,000	—	5,000
United Kingdom	344,353	1,743,847	2,088,200
United States	1,671,407	1,664,500	3,335,907
	<u>26,408,833</u>	<u>68,544,321</u>	<u>94,953,154</u>

Cambodia-	2,861,154	9,328,100	12,189,254
Laos	2,378,356	934,500	3,312,856
Thailand	8,294,461	52,330,969	60,625,430
Viet-Nam	2,000,139	11,020,000	13,020,139
	<u>15,534,110</u>	<u>73,613,569</u>	<u>89,147,679</u>
ECAFE	790,582	-	790,582
UNOTC (BTAO)	452,799	-	452,799
LLO	13,104	-	13,104
FAO	140,050	-	140,050
UNESCO	17,800	-	17,800
UNICEF	50,000	-	50,000
UNIDO	14,820	-	14,820
WHO	8,277	-	8,277
WMO	45,300	-	45,300
LAEA	55,650	-	55,650
UNDP/SF	10,990,388	810,900	11,801,288
WFP	36,508	136,575	173,083
	<u>12,615,278</u>	<u>947,475</u>	<u>13,562,753</u>
Magsaysay Foundation			
Other organization			
and	10,000	-	10,000
Private Companies	217,818	-	217,818
	54,786,039	143,105,365	197,891,404

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.14	② 調査対象プロジェクト名 Sambor Project	③ 援助国又は機関名 オーストラリア、カナダ、フィリピン、日本	④ 調査年度又は期間(西暦) Oct 1961~ Feb 1967	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑬ 性格的分類 (○印を記入)	
⑨ 報告書の構成等					⑭ 内 容 説 明	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農菜・林菜及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 Sambor Project Report 2 言葉の種類 英文(一部仏文) 3 日本語のほみやく書の有無 有(作成中) 4 資金の性質 5 実施機関 日本政府調査団(OTLAチーム) 電源開発庁 三 国際ナショナル 日本経済コンサルタント 農林省、水産庁 海外電力調査会 6* プロジェクト調査 に対し援助国又は 機関が多い場合の 関連調査カード番 号とそのコード 7* O.T.C.A.における 資料番号			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考					⑮ 調 査 評 価	
⑩ 備考 とりまとめ General Report(Volume I) EPDC担当 (" II) Demand Hydro- (" III) electric Power Irrigation and Agriculture (" IV) 三 国際ナショナル、日本横浜 Navigation (" V) コンサルタント、水産庁 Tighery (" VI)					1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の 設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要					⑯ プロジェクト地点の国名	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 発 電: 875Mw (with Pa Mwg 2100Mw) かんがい: 34000ha (将来587,000ha増) 舟 航: インクライン, 3ライン					⑰ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1. ECAFEのMekong Committeeの要請 2. 17回メコン委員会(Mar. 1962)における日本政府の表明 3.	

① 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) Sambor Project Report Lower Meckong River Basin

2 調査総括責任者氏名と地位 井上五郎

3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
Vol. I General Report (1)	上流で計画中の Nam Ngum 及び Po Mong 計画が無いものとして検討したものである。(別紙参照)
A. Introduction	
B. Conclusions and Recommendation	
C. Object and Scope of Project	
D. Description of the Project	
E. Construction	
F. Estimate of Construction Cost	
G. Economic Evaluation	
H. Financial Program	
Vol. II General Report (2)	
A. Introduction	
B. Conclusions and Recommendation	
C. Demand Load Forecast and Power Construction Scheme	
D. Reservoir and Power Generation Project	
E. Power Transmission and Substation	
F. Main Structures and Plan Construction	
G. Constructio Cost	
H. Economic Analysis	
I. Financial Program	
J. Norigation and Irrigation	General Report (1) の詳細記述である。
K. Future Plan of Navigation	
Vol. III Dam and Hydroelectric Power	
Vol. IV Irrigation and Agri Culture	
Vol. V Navigation	
Vol. VI Fishery	
Vol. VII Basic Data	
Vol. VIII Drill Hole Logs	

(注) このレポートは 1963 年以降各調査団により報告された。中間報告書をもとに再検討の上とりまとめたものである。(別紙参照)

② 調査地域概略図

別紙

③ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
別紙				

④ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 Mekong Committee

⑤ 特記事項

B、本格調査

(1) サンポール計画第一次調査団(一九六三、一、一三〜一九六三、三、

二八、七五日間)

久保田 豊	日本工営株式会社社長	技術顧問
大戸 元長	海外技術協力事業団理事	團長
新家 義雄	海外技術協力事業団開発調査部実施課長	総括
山田 和男	開発調査部	経理
松田 二朗	総務部	
新井 義輔	電源開発株式会社調査役	土木部門総括
林 義潔	電気部次長	電 木
渡辺 宏	電源開発株式会社海外技術協力部第一課長代理	土 木
三國 英四郎	土木部設計課長代理	土木(土質材料)
入江 章演	海外技術協力部第一課	土 木
末富 宏	水力調査部地質課	地 質
金原 文也	海外技術協力部第一課	土 木
角 清也	土木計画部土木調査課	測 量
大平 厚	海外技術協力部第一課	測 量
本多 耕一	海外技術協力部第一課	
川島 武志	土木計画部土木設計課	
春田 忠雄	(株)港湾コンサルタント工事部長	舟 航
森 秀雄	農林省農林水産技術会議事務局	農業経営
高橋 秀男	農林省東京農地事務局建設部	農業土木
齊藤 尚一	灌漑排水課	
江 南	海外電力調査会調査統計部主任研究員	電力市場

(2) サンポール計画

第二次調査団(一九六三、一〇、二七〜一九六四、一、〇七六日間)

大戸 元長	海外技術協力事業団理事	團長 農業経済
久保田 豊	日本工営株式会社社長	技術顧問 土木
新家 義雄	海外技術協力事業団開発調査部実施課長	団長補佐 土木
山田 和男	開発調査部	渉外・経理・電力
新井 義輔	電源開発株式会社調査役	発電 電力部門総括・土木
林 義潔	水力調査課長代理	土 木
渡辺 宏	水力調査課	土 木・水文
三國 英四郎	地質課	地 質
入江 章演	水力計画課	土 質材料
末富 宏	土木試験所	土 質材料
金原 文也	水力調査課	土 木・水文
角 清也	水力調査課	土 木
大平 厚	水力計画課	土 木
本多 耕一	水力調査課	土 木
川島 武志	土木調査課	土 木
春田 忠雄	土木調査課	土 木
森 秀雄	土木調査課	土 木
高橋 秀男	土木調査課	土 木
齊藤 尚一	土木調査課	土 木
江 南	土木調査課	土 木
久保田 豊	株式会社間組	同班 渉外 経理
新家 義雄	株式会社間組サイゴン事務所長	同班 ボーリング
山田 和男	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
新井 義輔	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
林 義潔	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
渡辺 宏	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
三國 英四郎	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
入江 章演	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
末富 宏	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
金原 文也	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
角 清也	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
大平 厚	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
本多 耕一	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
川島 武志	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
春田 忠雄	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
森 秀雄	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
高橋 秀男	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
齊藤 尚一	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
江 南	日本物理探鉱株式会社常務取締役	同班 渉外 経理
久保田 豊	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
新家 義雄	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
山田 和男	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
松田 二朗	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
新井 義輔	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
林 義潔	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
渡辺 宏	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
三國 英四郎	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
入江 章演	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
末富 宏	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
金原 文也	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
角 清也	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
大平 厚	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
本多 耕一	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
川島 武志	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
春田 忠雄	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
森 秀雄	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
高橋 秀男	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
齊藤 尚一	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理
江 南	日綿実業株式会社ブロンベン主任駐在員	同班 渉外 経理

雨季調査(一九六三、八、二四〜九、一、一)

治 水

関東地方建設局企画室長

春田 忠雄
 (3) サンプル計画

第三次調査団 乾季 一九六四、六、一〇、
 海外技術協力事業団顧問工学博士 一九六五、二、

舟・航

安芸 敏一
 (総括班)

海外技術協力事業団顧問工学博士

団長(乾季)

稲田 武之

海外技術協力事業団開発調査部長

総括(乾季)

蟻川 隆之

農林省水産庁淡水区水産研究所

電力経済(乾季)

白石 芳一

農林省農地局建設部設計官

水産(乾季)

久武 啓祐

農林省農地局建設部設計官

農業(乾季)

木村 博

海外技術協力事業団技術室

土木(雨季)

桑原 正男

海外技術協力事業団技術室

土木(雨季)

松尾 英夫
 (発電水力班)

電源開発株式会社設計室次長

土木(乾季)

坂口 桃一郎

電源開発株式会社副調査役

電気(乾季)

金原文也

設計室

土木(雨季)

田村 正
 (送電線班)

送電課長代理

土木(雨季)

寺島 清一

送電課長代理

送電(雨季)

島田 清

送電課長代理

鉄塔(乾季)

横山 健輔
 (電力市場班)

送電課長代理

鉄塔(乾季)

齊藤 保

海外電力調査会調査統計部主任研究員

電力市場(雨季・乾季)

中岡 保

荒川水力電気(常務取締役)

電力市場(雨季・乾季)

宮下 特五郎

科学技術庁資源局科学調査官

電力市場(雨季・乾季)

大西 秀和

通産省公益事業局公益事業調査課技官

電力市場(雨季・乾季)

江南 尚一

海外電力調査会調査統計部研究員

電力市場(雨季・乾季)

石原 吉郎

海外電力調査会調査統計部研究員

電力市場(雨季・乾季)

高瀬 英夫
 (舟航班)

開発協力部調査員

電力市場(雨季・乾季)

春田 忠雄
 (農業班)

日本港湾コンサルタント工事部長

舟航(乾季)

峰尾 和平

工事部次長

水路・地質(雨季)

伊東 信吾

東京農大教授理学博士・農学博士

管農(乾季)

安尾 正元

海外技術協力事業団技術室

管農(乾季)

加藤 哲夫

農林省農地局計画部資源課技官

管農(乾季)

川合 尚
 (ボーリング班)

農林省農地局建設部設計官

管農(乾季)

松吉 謙雄

佛間組技師

地質(雨季)

佐々木 康之

佛間組技師

地質(雨季)

木俣 五郎

日綿実業(サイゴン主任駐在員)

地質(雨季)

篠塚 弘文

日綿実業(サイゴン主任駐在員)

地質(雨季)

(4) サンプル計画

第四次調査団 雨季 一九六五、八、一〇、
 乾季 一九六五、一、一〇、一九六六、三、

安芸 敏一

海外技術協力事業団顧問工学博士

団長

伊東 信吾

東京農大教授農学博士、理学博士

団長

武田 健策

農林省農地局建設部設計官

水利利用

川合 尚

佛三祐コンサルタンツ・インターナショナル

水利利用

竹内 清二

主任技師

地形分類・水文

太田 邦雄

技師

地形分類・水文

松原 喜夫

技師

地形分類・水文

久保 清昭

主任技師

地形分類・水文

中間報告書目録

(6) サンボール計画追加調査	田木村明彦	一九六七	三
(5) サンボール計画第五次調査団	白土山高原井木 石岐田原完達 芳三和完彦 一平男弘示彦	一九六六	一三、 一九六七
◎印のみ雨季・乾季、その他は乾季	農林省水産庁淡水区水産研究所日光支所長農学博士 水産		
	海外技術協力事業団開発調査部		
	農林省農地局中規模土地改良係長		
	農業技術研究所微生物研究室長		
	土性第一研究室		
	渉外・会計		
	土壌		

メコン河サンボール地点調査			
第一次中間報告書(発電水力部門)		38	10
" 第二次 " (")		39	9
" 第三次 "		40	3
メコン河サンボール地点総合開発計画報告書			
(ダム発電ならびに送電部門)		41	2
"			
(ダム・発電・送変電および電力市場部門)		42	12
メコン河サンボール地点開発計画市場調査報告書		40	12
カンボジアおよび南ベトナムにおける主要工場の実態調査			
電気事業の "			
メコン河サンボール地点調査中間報告書(農業部門)		41	10
" 農業開発計画報告書		42	6
"		43	3
メコン河サンボール開発計画舟航報告書		41	2
"		42	

MAIN FEATURES OF THE PROJECT

TOTAL CONSTRUCTION COST of the PROJECT	\$358.0 million
in which FOREIGN CURRENCY	\$256.5 million
DOMESTIC CURRENCY	\$101.5 million

A. Power and Dam Sector

1.	Location	15 km Upstream of Kratie, Cambodia
2.	Catchment Area	646,000 sq. km
3.	Annual Inflow	446,000 million cu. m (average 14,000 cu. ms)
4.	Design Flood	90,000 cu. ms
5.	Reservoir	
	Max. HighWater Level	EL 42 m
	Normal High Water Level	EL 40 m
	Reservoir Surface Area	1,157 sq. km
	Reservoir Storage Capacity	10,000 million cu. m
	Effective Storage Capacity	2,050 million cu. m
	Available Draw-down	2 m
6.	Dam	
	Type	Combined Dam of Earth-fill, Rock-fill and Concrete
	Elevation of Crest	EL 44 m
	Height of Dam	54 m

Crest Length	Total 30.7 km:
	Earth-fill 26.1 km
	Rock-fill 2.4 km
	Others (Top of Spillway and Power- house) 2.2 km
Slope of Upstream Face	1:2.0 - 2.5 (Rock-fill), 1:3.0 (Earth-fill)
Slope of Downstream Face	1:1.5 - 1.3 (Rock-fill), 1:2.5 (Earth-fill)
Volume Earth-fill	17.2 million cu. m
Rock-fill	8.7 million cu. m
Concrete	Refer Spillway and Power Plant
7. Spillway	
Type	Overflow Type with Roller Gates
Energy Dissipator	Horizontal Apron
Capacity	90,000 cu. ms at Flood Water Level EL 42 m
Length	1,471 m (Net Length: 1,003 m Effective Length: 795 m)
Crest Road Width	6 m
Concrete Volume	900,000 cu. m
Gate	14 m (H) x 15 m (W) Roller Gates, 53 gates
8. Power Plant	
Type	Outdoor
Final Dimension of House	485 m (L) x 30 m (W) x 31 m (H)
Concrete Volume	1.5 million cu. m

9. Power Generation and Consumption Pattern

Installed Capacity	875 MW
Firm Output	473 MW
Dependable Firm Peak Output	637 MW
Annual Energy Output	7 billion kWh
<i>Firm Energy</i>	4.1 billion kWh
Secondary Energy	2.9 billion kWh

Power Consumption Pattern (in which Type I is the most recommended)

- Type I
 - 1) General Demand
 - 2) Power-oriented Industries including Aluminum Refining
- Type II
 - 1) General Demand
 - 2) Power-oriented Industries excluding Aluminum Refining and its Related Industries
- Type III
 - General Demand

10. Power Generation Facilities

Unit Capacity	125,000 kW
Number of Units Installed	7
Room Provided for Additional Installation of Unit	5 Turbine Rooms and Draft Tubes
Turbine	
Type	Vertical Shaft Kaplan Type
Rated Head	19.7 m
Max. Discharge	775 cu. ms
Rated Output	128,000 kW

	Number of Units Installed	7		
	Generator			
	Type	Three-phase Synchronous Generator, vertical Shaft Rotating Field Enclosed Type		
	Capacity	140,000 kVA		
	Voltage	15,400 V		
	Frequency	50 c/s		
	Power Factor	89%		
	Number of Units Installed	7		
11.	Transformer			
	Type	Three-phase, Outdoor, Forced Oil, Forced Air-cooled Type		
	Capacity	140,000 kVA		
	Voltage	15,400 V/345,000 V		
	Frequency	50 c/s		
	Number of Units			
12.	Transmission Line			
	Location	Sambor-Phnom Penh	P. Penh-Sihanouk Vile	Sambor-Saigon
	Distance	190 km	160 km	230 km
	Number of Circuits	2 cct	2 cct	1 cct
	Voltage	345 kV	345 kV	345 kV
	Conductor	410 sq. mm ACSR x 2	ditto	ditto

13. Substation
- | Location | Phnom Penh | Sihanouk Ville | Saigon |
|-------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| Secondary Voltage | 115 kV | 115 kV | 220 kV |
| Capacity | 100 MVA
(100 x 1) | 600 MVA
(120 x 5) | 360 MVA
(120 x 3) |
14. Telecommunication Equipment
- Powerline Carrier Telephone and VHF Radio Telephone
15. Construction Cost (excluding interest during construction)
- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| Reservoir and Dam | \$104.3 million |
| Power Station | \$165.4 million |
| Transmission Line and Substation | \$48.4 million |
| Total | \$318.1 million |
- in which
- | | |
|-------------------|-----------------|
| Foreign Currency | \$236.6 million |
| Domestic Currency | \$81.5 million |
16. Construction Period in Development of Type I Power Consumption Pattern:
- | | | |
|---------------|-------------|--|
| First Stage: | 1970 - 1977 | Completion of Dam, Installation of 625 MW and Beginning of Operation |
| Second Stage: | 1979 - 1980 | Additional Installation of 125 MW |
| | 1983 | Additional Installation of 125 MW |
17. Economic Evaluation and Financial Analysis
- | | |
|------------------------------------|------|
| Type I Power Consumption Pattern | 4.4% |
| Type II Power Consumption Pattern | 5.3% |
| Type III Power Consumption Pattern | 5.3% |

Financial analysis are made by changing the rate of interest corresponding to the objects, where the interest during construction is also included in the cost.

MAIN FEATURES OF THE PROJECT

TOTAL CONSTRUCTION COST of the PROJECT	\$358.0 million
in which FOREIGN CURRENCY	\$256.5 million
DOMESTIC CURRENCY	\$101.5 million

B. Agricultural Sector

1. Scale of Development

Irrigation Area	34,000 ha (Paddy Field -58%, Upland Field -42%)
Drainage Improvement Area	2,845 ha
Total Planting Area	60,739 ha (including 1,957 ha for Cultivation of Feed)
Number of Farming Households	8,500 (including 2,000 Households expected to settle from Farmland to be submerged under the reservoir)

2. Water Requirement and Facilities

Water Requirement	468 million cu. m
	Sambor Reservoir - 238 million cu. m
	Other Sources - 230 million cu. m
Division of Area	12 Districts
Length of Irrigation Canal	557 km
Length of Drainage Canal	31 km
Pumping Station	27 Stations

	Irrigation Pumping Stations	23 (6,900 kW)
	Drainage Pumping Stations	4 (1,900 kW)
	Total Power Required	8,800 kW
	Reservoir	3 Reservoirs
	Effective Storage Capacity	35 million cu. m
	Dam Embankment Volume	783 million cu. m
	Lakes and Ponds with Gates	8 provided with 10 Gates
	Colmatage Method	To be practised at 8 Places
		Canal length - 8.6 km
	Experimental Farm	To be established at 2 Places
3.	Construction Cost	
	Foreign Currency	\$17.04 million
	Domestic Currency	\$17.86 million
	Total	\$34.90 million
4.	Construction Period	1970 - 1979
5.	Economic Evaluation and Financial Analysis	
	Averaged Internal Rate of Return	7.9%

Financial analysis are made by changing the rate of interest corresponding to the objects, where the interest during construction is also included in the cost.

MAIN FEATURES OF THE PROJECT

TOTAL CONSTRUCTION COST of the PROJECT	\$358.0 million
in which FOREIGN CURRENCY	\$256.5 million
DOMESTIC CURRENCY	\$101.5 million

C. Navigation Sector

1. Inclined Passage Facilities

Location	Component Part of Rock-fill Dam near the Left Bank
Specifications	1 Line for Rafts 2 Lines for medium-sized Vessels (30 to 50 tons) Length - 855 m Gradient - 1/11 Volume of Embankment - 820,000 cu. m

2. Dredging

Location	Shoals 3 km on the Downstream of the Inclined Passage Facilities
Designed Channel Width and River Bed Elevation	45 m, EL + 3.5 m
Rock Excavation	95,000 cu. m
Location	Shoals existing at a Point 25 km, and Those between 7 and 14 km Downstream of Stung Treng

	Designed Channel Width and River Bed Elevation	60 m, EL +344.4 m
	Dredging	570,000 cu. m
3.	Construction Cost (excluding interest during construction)	
	Foreign Currency	\$2.95 million
	Domestic Currency	\$2.08 million
	Total	\$5.03 million
4.	Construction Period	
	1976 - 1977	1 Line for Rafts
	1988	1 Line for Medium-sized Vessels
	1993	1 Line for Medium-sized Vessels
5.	Economic Evaluation and Financial Analysis Internal Rate of Return	5.2%

Financial analysis are made by changing the rate of interest corresponding to the objects, where the interest during construction is also included in the cost.

MAIN FEATURES OF THE PROJECT

TOTAL CONSTRUCTION COST	\$477.5 million
FOREIGN CURRENCY	\$362.7 million
DOMESTIC CURRENCY	\$114.8 million

If the scale of development in the agriculture and navigation aspects is assumed to be the same as that of the isolated project, the total construction cost of the Project in this case will be increased from \$358.0 million of the Isolated Project to \$477.5 due to the increment of total cost of electrical equipments.

A. Power and Dam Sector

1. Reservoir (Same as the Isolated Project)

Catchment area	646,000 sq. km
Total storage capacity	10.0 billion cu. m
Normal high water level	40 m
Draw-down depth	2 m
Effective storage capacity	2,050 million cu. m
Dam type	Combined Dam of Earth-fill, Rock-fill, and concrete
Total length	30.7 km
Height	54 m
Volume	Fill-type 25.9 million cu. m Concrete 1.43 million cu. m

Design flood	90,000 cu. ms
Total length of spillway	1,003 m (Effective length: 795m)
Spillway gate	14 m high x 15 m wide: 53 gates

2. Power Plant:

	Isolated Case	Case with Nam Ngum and Pa Mong
Installed capacity	875 MW 125 MW x 7 units	2,100 MW (ultimate) 175 MW x 12 units
Room for additional installation of unit	5 (Turbine rooms and draft tubes)	None
Available water, max. normal	5,425 cu. ms 1,860 cu. ms	9,600 cu. ms 4,380 cu. ms
Effective head	16.7m - 32 m ¹	20.0m - 30.5m ²
Rated head	19.7 m	26 m
Firm power	473 MW	1,120 MW
Dependable Peak Output	637 MW	1,390 MW
Available annual energy	7,000 million kWh	14,600 million kWh
Firm energy	4,100 million kWh	9,780 million kWh
Secondary energy	2,900 million kWh	4,920 million kWh

3. Power Load Distribution (Generating end)

Type of Power Consumption Pattern Load	Isolated Case			Case with Nam Ngum and Pa Mong	
	I	II	III	I'	III'
General demand	390 ^{MW}	760 ^{MW}	875 ^{MW}	890 ^{MW}	2,100 ^{MW}
Aluminum industry	250	-	-	500	-
Caustic soda ind.	60	60	-	120	-
Vinyl chloride ind.	16	16	-	32	-
Carbide calcium ind.	103	39	-	206	-
Agricultural pumping	-	-	-	240	-
Ferro-silicon	56	-	-	112	-
Silicon carbide					
Total	875	875	875	2,100	2,100

- Notes: 1 Average monthly runoff during the 33-year period since 1933.
 2 Average monthly runoff during the 15-year period since 1950.

4. Power Transmission Facilities

	Isolated Case	Case with Nam Ngum and Pa Mong
Voltage	345 kv	345 kv
Total length and the number of circuits:		
Sambor - Phnom Penh	190 km x 2	190 km x 3 (1)
Phnom Penh - Sihanouk Ville	160 km x 2	160 km x (-)
Sambor - Saigon	230 km x 1	230 km x 2 (3)
Capacity of primary substations:		
Phnom Penh	100 MVA x 1	160 MVA x 3 (3)
Sihanouk Ville	120 MVA x 5	270 MVA x 4 (-)
Saigon	120 MVA x 3	250 MVA x 3 (6)
Note:	Parenthesized figures indicate the number of circuits to be used for general demand only ('Type III').	
5. Starting Year of Plant Operation	1978	1980
6. Construction Period:		
Stage I	1970 - 77	1972 - 79
Stage II	1979, 1980, 1983	1981 - 90 (1994)

Note: Parenthesized figures indicate the time for general demand only (Type III').

7.	Construction Cost	\$318.1 million	\$437.6 million
8.	Economics (Internal rate of return)		

	Isolated Case	Case with Nam Ngum and Pa Mong			
		(1)	(2)	(3)	(4)
Power consumption, type I (I)	4.4%	7.2%	6.2%	7.6%	6.4%
Power consumption, type II	5.3%	-	-	-	-
Power consumption, type III (III')	5.3%	7.8%	6.3%	8.6%	7.0%

- Notes:
- (1) and (2) indicates the results of supplying 60% of the increased portion of general demand.
 - (3) and (4) indicates the results of supplying 90% of the increased portion of general demand.
 - Fare per kWh is 9 mills for general demand, 2.5 mills for aluminium, 2.0 mills for other uses in the case of (1) and (3).
 - In the case of (2) and (4) the fare is 7 mills for general demand and that of other uses are the same as with (1) and (3).

B. Irrigation and Agriculture

	Isolated Case	Case with Nam Ngum and Pa Mong (Figures excluding those of the project area of the isolated case)
1. Project area	34,000 ha (In which 2,845 ha is for improvement of drainage system)	587,000 ha (Downstream of the project)
2. Gross irrigation water requirement	468 million cu. m (In which 238 million cu. m is for Sambor Reservoir)	152 cu. ms - 774 cu. ms
3. Water resources and pamping station:		
Sambor reservoir	(as previously mentioned)	
Reservoirs on tributaries	3 sites Effective storage capacity 35 million cu. m. Volume of Embankment 783,000 cu. m	
Pumping station	23 sites: 6,859 kW (From mainstream, tributaries, lakes and swamps)	212,000 kW
Total length of irrigation canal	557 km	870 km

	Isolated Case	Case with Nam Ngum and Pa Mong (Figures excluding those of the project area of the isolated case)
4. Drainage		
Total length of drainage canal	31 km	
pumping station	4 sites; 1,937 kW	
5. Land reclamation	14,800 ha	251,000 ha
6. Colmatege canal	8 routes, 8.6 km	
7. Experimental station	2 sites	
8. Construction period	1970-80	(1976-90)
9. Construction cost	\$34.9 million	\$525 million
10. Economics		
(Internal rate of return)	7.9%	10.1%

C. Navigation (Same as the Isolated Project)

1. Inclined Passage Facility:

Number of routes	3
Total length	855 m
Volume of embankment	820,000 cu. m

2. Dredging 665,000 cu. m

3. Construction Period: Stage I 1975 - 77

Stage II 1988, 1993

4. Construction Cost \$5.03 million

5. Economics (Internal rate of return) 5.2 %

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 4.14	② 調査対象プロジェクト名 サンボール開発事業	③ 援助国又は機関名 メコン委員会、OTCA	④ 調査年度又は期間(西暦) 19649~19673	⑤ 調査金額円又はドル \$800,000(但しプロ)	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 Sambor Project Report 2 言葉の種類 英語 3 日本語のほんやく書の有無 有 4 資金の性質 日本政府資金 5 実施機関(コンサルタント名) OTCA (三祐コンサルタンツ・インターナショナル) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			⑭ 内容説明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)	
⑦ 備考		⑩ 備考			⑮ 調査評価	
⑥ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 カンガディア			⑯ 統計調査	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) △サンボール・ダムによって調整された水を利用することによって、34,000ヘクタールのかんがいが可能になる。(現在の耕地は12,469ヘクタール) △二毛作が可能になり、単位収量は平均3トン/ヘクタールに上昇する。(現在は108トン/ヘクタール)これによる年間便益(annual benefit)はUS\$4,616千(\$164千/ヘクタール)に達する。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はげしい等 1 日本政府は、第17回メコン委員会に本計画の遂行を提出し採決された。 2 農業開発は総合開発の一環として採り上げられ本格調査の第3次調査(1964.9)より実施された。 3 農業調査は1964年から19673に至るまで延4カ年を費され、19696に最終報告書がメコン委員会に提出された。			3 統計調査 ○ 4 開発計画 (提案) ○ 5 土木施設の設計 詳細 ○ 概略 ○ 6 経済予測 ○ 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
					1 (調査精度) フィンビリティ 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) かんがいについて、地区内小河川の開発、コルマタージュ(warping)を採り入れた。 5 (調査効果)	

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) Nam Chern Hydro - Electric Power Project
- 2 調査統括責任者氏名と地位 電源開発K海外技術協力部
渡辺 宏
- 3 (報告書の主な項目についての説明 — 主として目次による)

項目

(内容についての概要)

- 3.1 Load Forecast NEEA系統はYEA系統と連繫されるが1974年になるとYEAからの送電量がNEEA系の手働を上廻るので、この時点で新規供給源が必要となる。
- 3.2 Power Production 1954年より13ヶ年の流量記録(CA 158km²)により貯水池の最適規模が検討された。その結果貯水池有効容量41/10⁶m³とするのが Annual Surplus Benefit, 最大, Energy Cost 最小となる。
Discharge 5 m³/s
Net Head 375 m
Out Put 15 Mw (Dependable Peak 145Mw)
Firm Energy 40×10⁶ kwh
- 3.3 Preliminary Design
Dam Type Rock fill
Crest Length 4090m
Level of crest 776m (height 36m)
Volume 284,000 m³
Spillway 435 m³/s
Equipment Turbin 16Mw×1
Generator 18,000 kvA×1
Transformer 18,000 kvA×1
Transmission Line Length 135km
115 kv 1cct
- 3.4 Construction Cost
Case C 139,800×10³ ハーフ (Nam Promが共通費負担)
Case B 150,500×10³ ハーフ (共通費をNam Promとアロケート)
- 3.5 Economic Justification
Case C: 1.05
Case B 0.97

調査地域概略図

別紙

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

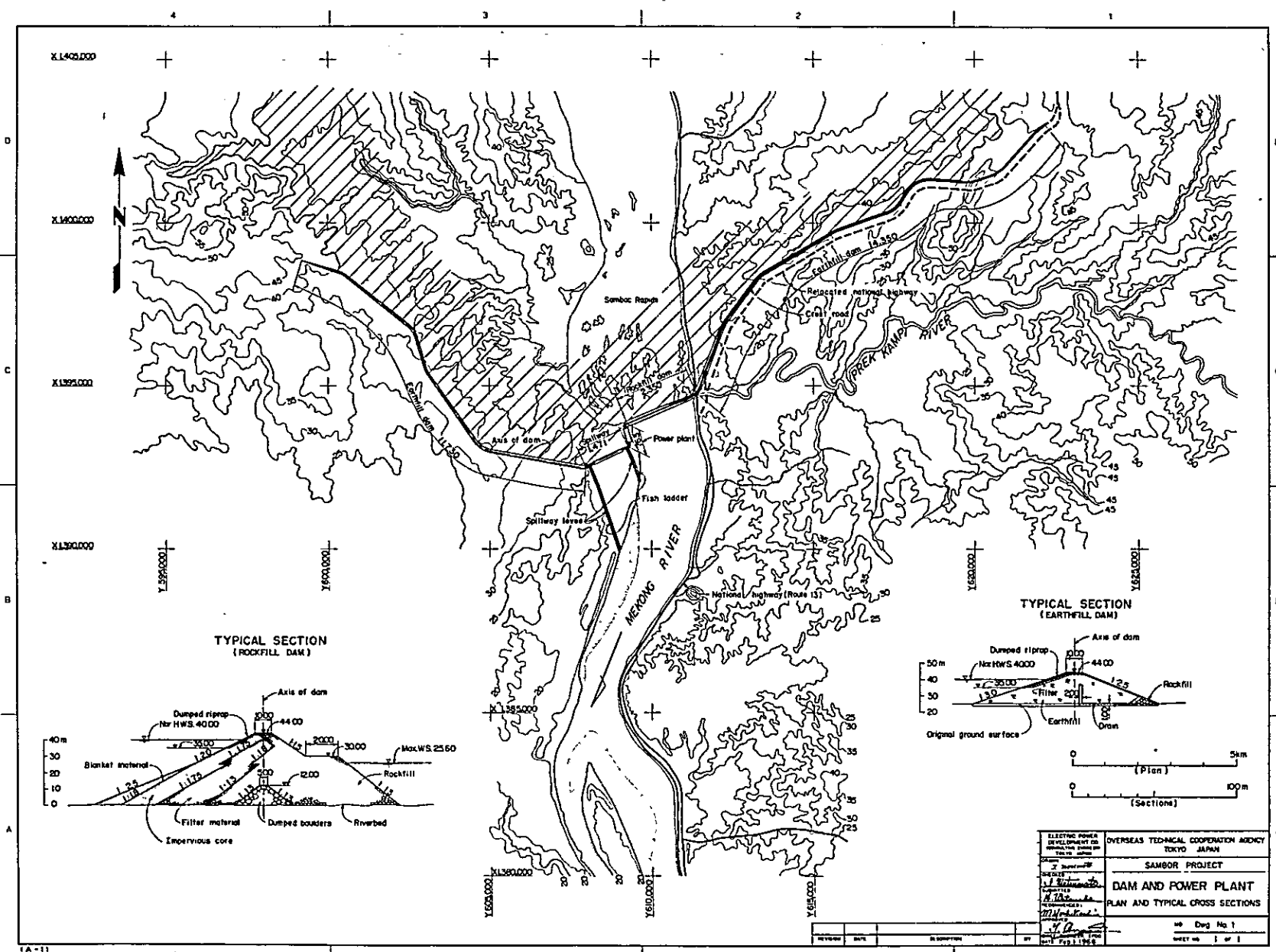
付員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
Nam Prom Projectに同じ				

相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の尺慮

原 名 Noth East Electricity Authorityやく名 NEEA (現在EGAT)

特記事項



ELECTRIC POWER DEVELOPMENT CO. OF JAPAN TOKYO JAPAN PROJECT <i>J. Sakamoto</i> H. Ito T. Kato M. Nishida S. Yamada 1/8 1/20 1/100 1/200	OVERSEAS TECHNICAL COOPERATION AGENCY
	TOKYO JAPAN
	SAMBOR PROJECT
	DAM AND POWER PLANT
PLAN AND TYPICAL CROSS SECTIONS	
1/20 1/100 1/200	
1/20 1/100 1/200	
1/20 1/100 1/200	
1/20 1/100 1/200	
1/20 1/100 1/200	

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 4.14	② 調査対象プロジェクト名 Sambor Project	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦) Oct 1961~ Sep 1962	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 飲物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			⑮ 調査評価	1 (調査精度) ・予備調査 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果) ・この調査にもとずき 5次に亘る本格調査が開始された。
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) カンボジア国のサンボール地点にダムを建設し、発電、かんがい、舟運の開発によりMekong 沿岸諸国の経済社会の発展を促進しようとするものである。		⑪ プロジェクト地点の国名				
		⑫ 1 ECAFE Mekong Committeeの要請 2 3				

⑩ 調査報告書の概要

1 (報告者名) (原語) Samhor Project Report on Preliminary Investigations for Development of the Lower Mekong River Basin (日本語)

2 調査総括責任者氏名と地位 当時中部電力会長 井上 五郎

3 (報告書の子なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
開発の規模	電力中心の開発となるので電力により開発の規模を検討する。 落差値：30~40 m 設備出力：125mw×6=750mw
電力コスト	0.4 センタボ/kwh
洪水調節	地形の面から余り効果は期待出来ない。
かんがい	貯水池からの水でかんがい出来る面積は少い。 むしろ電力を使って揚水かんがいすることを検討すべきである。
舟 航	コーンまで航行が可能となる。

⑪ 調査地域概略図

別紙

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職(当時)	押 印

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の土着

原 名 Committee for Coordination of Investigations of the Lower Mekong River Basin

やく名 Mekong Committee

⑭ 特記事項

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.14	② 調査対象プロジェクト名 サンボール開発事業	③ 援助国又は機関名 メコン委員会, OTCA	④ 調査年度又は期間(西暦) 19649~19673	⑤ 調査金額 円又はドル \$800,000 (但し、クロス)	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 Sanbor Project Report 2 言葉の種類 英語 3 日本語のほんやく書の有無 有 4 資金の性質 日本政府資金 5 実施機関(コンサルタント名) OTCA (三崎コンサルタンツ・インターナショナル) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			⑧ 性格的分類(○印を記入) 1 1 種 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 1 1 (調査の目的) 2 2 (勧告・結論) 3 3 (主なるバックデータ) 4 4 (その他特記事項)	
⑦ 備考		⑩ 備考			⑨ 調査評価	
⑨ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア			⑨ 調査評価 1 1 (調査精度) フィジビリティ 2 2 (技術水準) 3 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 4 (技術的特色) かんがいについて、地区内小河川の開発、コルマタージュ(Warping)を採り入れた。 5 5 (調査効果)	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) △サンボール・ダムによって調査された水を利用することによって、34000ヘクタールのかんがいが可能になる。(現在の耕地は12469ヘクタール) △二毛作が可能になり、単位収量は平均3トン/ヘクタールに上昇する。(現在は1.08トン/ヘクタール)これによる年間便益(annual benefit)はUS\$4,616千(\$164千/ヘクタール)に達する。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 日本政府は、第17回メコン委員会に本計画の遂行を提出し採択された。 2 農業開発は総合開発の一環として採り上げられ本格調査の第3次調査(19649)より実施された。 3 農業調査は1964から19673に至るまで延4カ年を費され、19696に最終報告書がメコン委員会に提出された。			⑨ 調査評価 1 1 (調査精度) 2 2 (技術水準) 3 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 4 (技術的特色) 5 5 (調査効果)	
⑩ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア			⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等	

06 調査報告書の概要

1 (報告者名) (原語) Sambor Project Report Vol.4 Irrigation and Agriculture (日本語) サンボール開発事業報告書 第4編 農業

2 調査包括責任者氏名と地位 川合 尚 主任技師(団員)

3 (報告書のすなる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1 Present Agriculture (農業の現況)	土地所有状況と規模、土地利用状況 農産物(純生産高、単位収量、生産物価格) 家畜、農機具、肥料及び農薬
3.2 Project Plan (事業計画)	土壤調査にもとづく、営農および土地利用計画。かんがい及び排水計画。ため池、ポンプ場、水路(用・排水路、コルマタージュ水路)など施設の概略設計。
3.3 Economic Analysis (経済分析及び効果)	費用・便益、年間費用・年間便益比(B/C ratio = 1.27, where i = 6%), 内部収益率 8.0% (全地域平均)
3.4 Conclusion and Recommendations (結論及び勧告)	△かんがい可能面積 3,400ヘクタール。ただし将来サンボールおよびパモンダムにより、デルタ地域 58,700ha のかんがい可能。 △Full benefit に達すると、現在の米収量 5,763トン/年は、8,6169トン/年(約1.5倍)になり、メイズのそれは、10,299トン/年から 71,488トン/年に及ぶ。 △農業関係の建設費は \$34,900千、内約 50% が外貨によるものとされている。 △本事業の早期着工が勧告されている。 △試験場、デモンストレーション・ファームの設置、また工事完了後の施設の維持運営のための政府機関の設立が望まれている。

07 調査地域概略図

(別紙)

08 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
加藤 哲夫	団員	農業土木	取締役・技師長	1964.11~1965.2
川合 尚	"	"	主任技師	1964.9~1965.2 1965.8~1966.2 1966.12~1967.3
久保 清昭	"	農業	"	1965.8~1966.2 1966.12~1967.3
伊勢野 大蔵	"	農業土木	技師補	1966.12~1967.3
太田 邦雄	"	"	"	1965.8~1966.2 1966.12~1967.3
松原 喜夫	"	"	"	1965.8~1966.2
竹内 清二	"	"	"	1965.8~1966.2 1966.12~1967.3

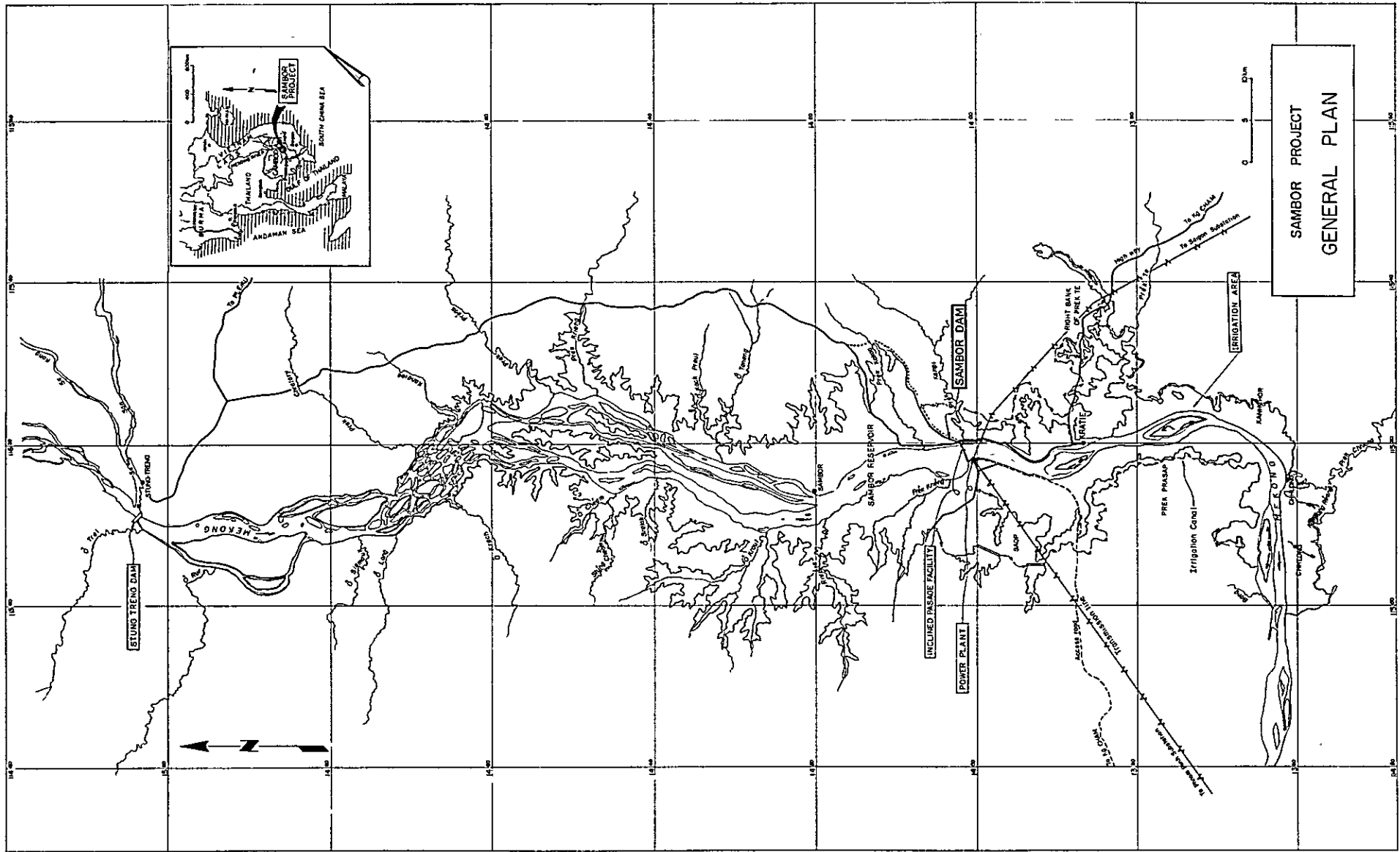
09 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 Ministry of Public Works

やく名 公共土木省

09 特記事項



調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.5	② 調査対象プロジェクト名 NAM GAM	③ 援助国又は機関名 日本・電発	④ 調査年度又は期間(西暦) ① 196110~11 ② 196112~19623 ③ 1962.9~10	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(Q印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (O印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 NAM GAM流域総合開発計画調査報告書 2 言葉の種類 日・英 3 日本語のほんやく書の有無 ⑩ 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 日本政府調査団(電源開発、農林省、メコン河総合開発調査会、並研其雄) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 第 一 次 調 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) ○パイロット・プロジェクトとしての適否の判定および今後の開発計画の指針策定 2 (勧告・結論) ○ Nam Pung 電力開発計画の早期着工 (3,500kw×2) ○ 試験農場およびかんがい工事の着工準備 ○ 今後の必要とする調査(精密調査、水文、電力、かんがい)に対する示唆 3 (主なるバックデータ) ○ タイ政府作成の 1/50,000, 1/25,000, 米軍所持の航空 (日本内地で入手) タイ政府の水文、農業関係資料およびノンハン湖湖刺水資料 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			1 実地調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実地解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑪ 調査評価 1 (調査精度) ・フィジビリティ・レベルの調査 2 (技術水準) ・計画地点のフィジビリティを検討する必要とする技術水準 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果) ・本調査報告書にもとづき、タイ政府は本計画の実現を企図し、更に詳細なる精密調査の実施を行なうことを決定した。
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名	タイ			
(プロジェクトの種類番号) 3 (プロジェクトの概要) ○ダム水力発電所(2×3,500kw):1965年完成 ○パイロットポンプ場(500haかんがい用):1966年完成 ○メコン河船いぐ所のポンプ場(8,000ha用):1969年完成 ○Ham PongおよびHam Pung開圧電線(69kV):1968年完成		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等		1 1961年9月発行の"MEKONG河下流域主要支流踏査総合報告書"にとりあげられ、その後外務政府の要請にて当該計画が日本政府にとりあげられ、調査団を派遣する運びとなったものである。 2 3		

09 調 査 報 告 書 の 概 要

(原 語) (日本語)

1 (報告者名) Report on the Preliminary Studies of the Comprehensive Development of the Nam Gam Basin NAM GAM流域総合開発計画調査報告書

2 調査総括責任者氏名と地位 徳野 武 MEKONG河NAM GAM調査団長 電源開発特

3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目) (内容についての概要)

第I章 流域の概況

第II章 水文資料の解析

第III章 Nam Gam流域第1期総合開発計画

A 開発計画の基本的構想
B 貯水池計画
C 洪水調節計画
D 電力開発計画
E 農業開発計画
F 開発工事工程についての考察

第IV章 開発計画の経済性の検討

A. Nam Gamプロジェクトの開発に必要な資金
B. 電力開発計画の経済性
C. かんがい開発計画の経済性

第V章 Nam Gam地域の第2期以降の開発についての研究

A. Mekong河沿岸地区の農業開発計画
B. Mekong河本流よりHong Han湖への導水によるNam Gam流域農業開発計画
C. 電源増強対策としての他地点の開発促進についての提案

第VI章 結 論

A. Nam Pung電力開発計画の早期着工
B. 試験農場建設ならびにかんがい工事の着工準備
C. 今後必要とする調査ならびに研究

付 録

10 調査地域概略図

・別添 コピー参照

38 日本が行ったものについて記入すべき事項

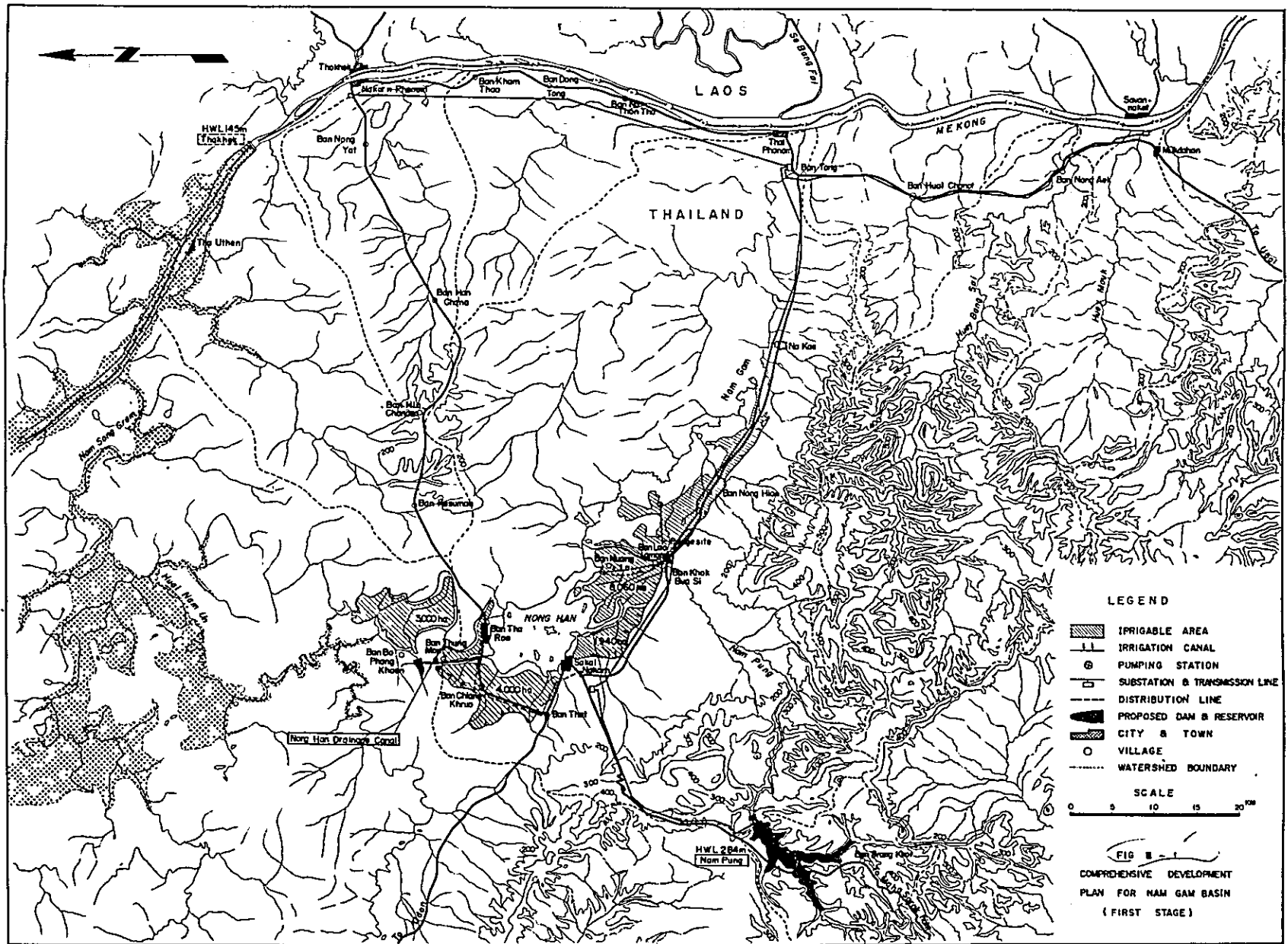
(調査団の編成と調査期間)

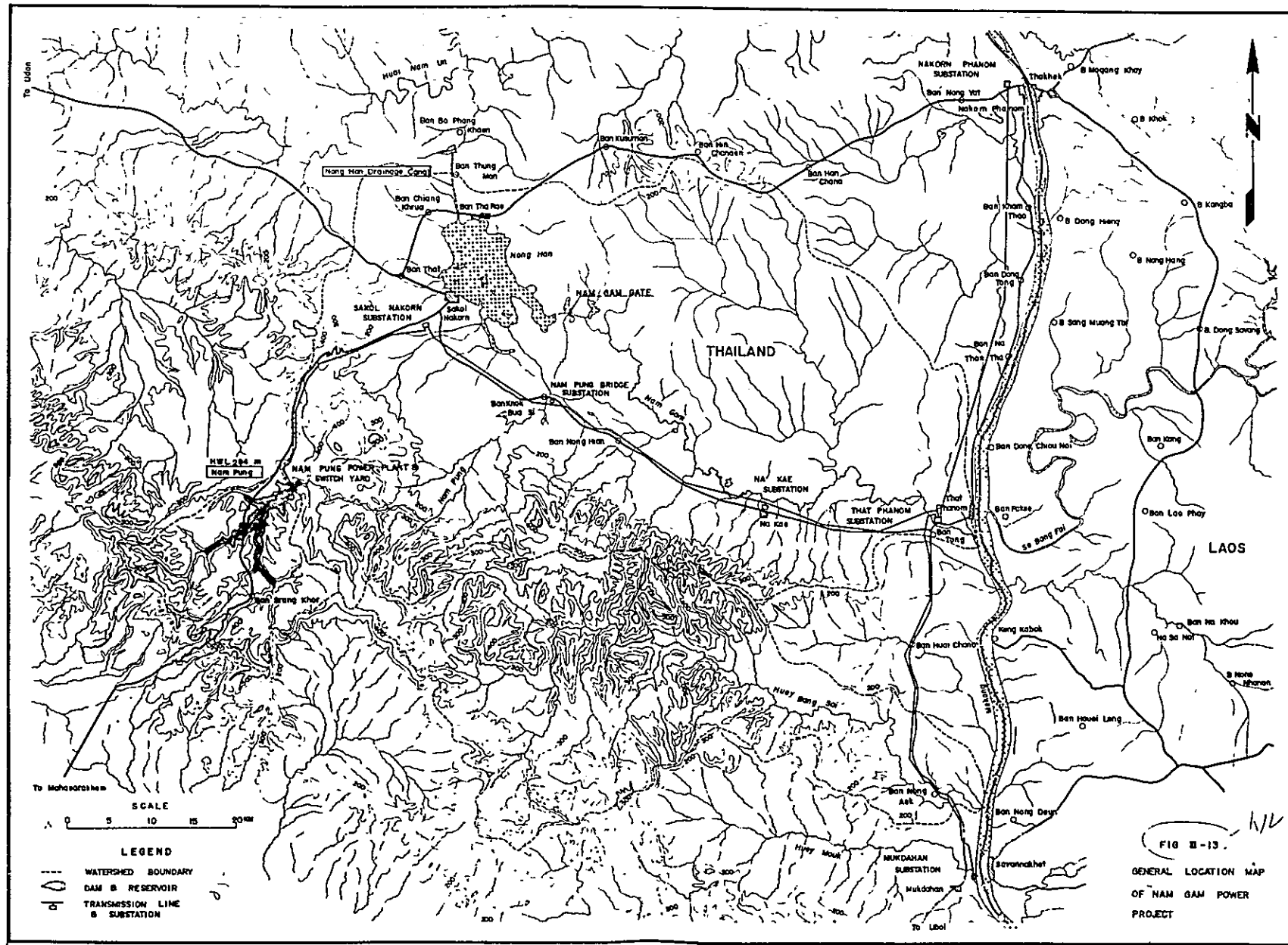
氏名	格付	担当業務	職(当り)	期 間
・調査期間				
	第1次	1961.10~11		
	第2次	1961.12~1962.3		
	第3次	1962.9~10		
・団員氏名他 別添コピー参照				

11 相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 使わ供与の実績
原 名 National Energy Authority of Thailand	交通手段の提供 ライゾン、オフィサーの提供	左の事項に同じ
やく名 タイ国 国家動力庁	情報資料の提供 宿舎の提供	

12 特記事項



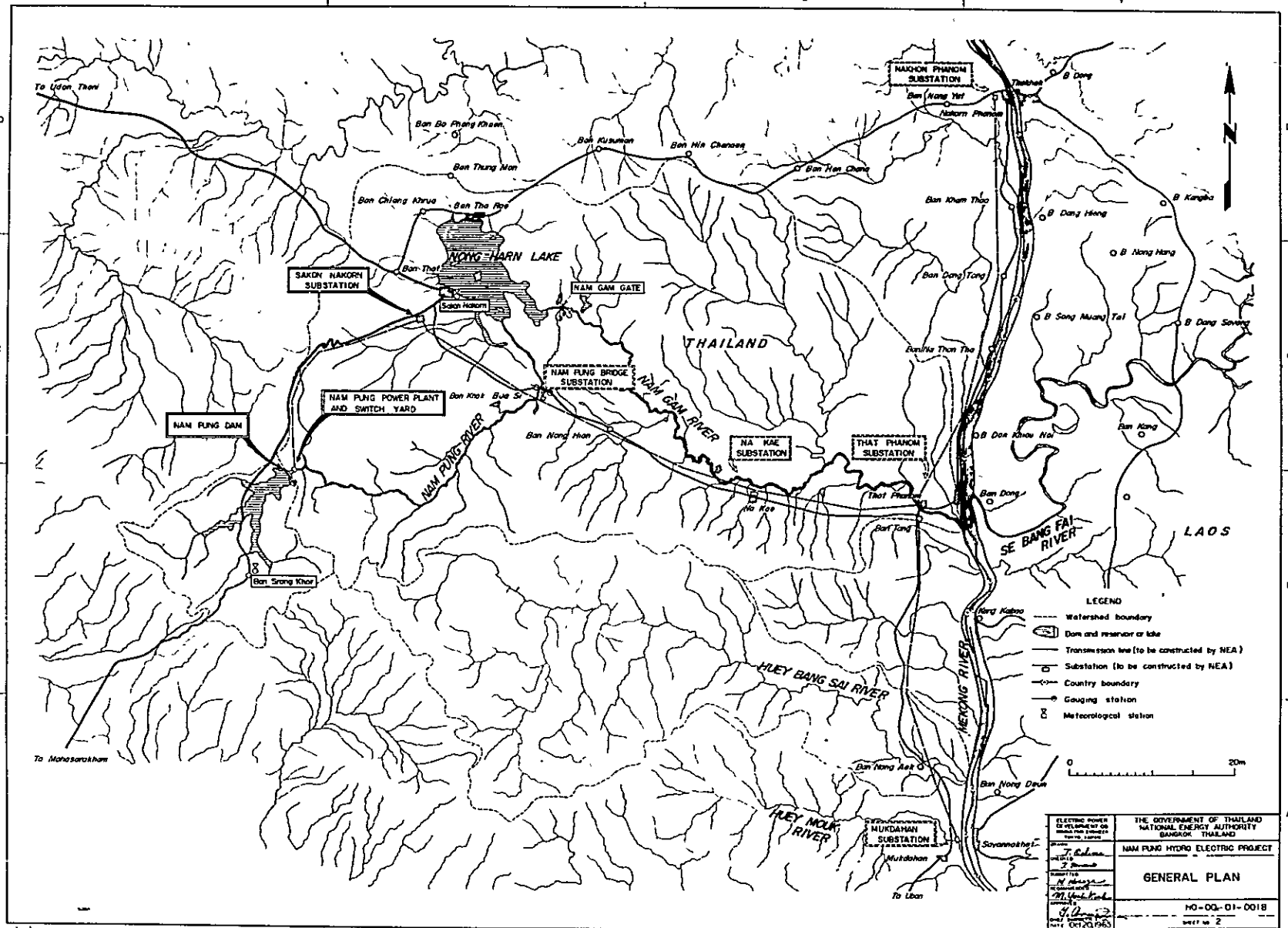


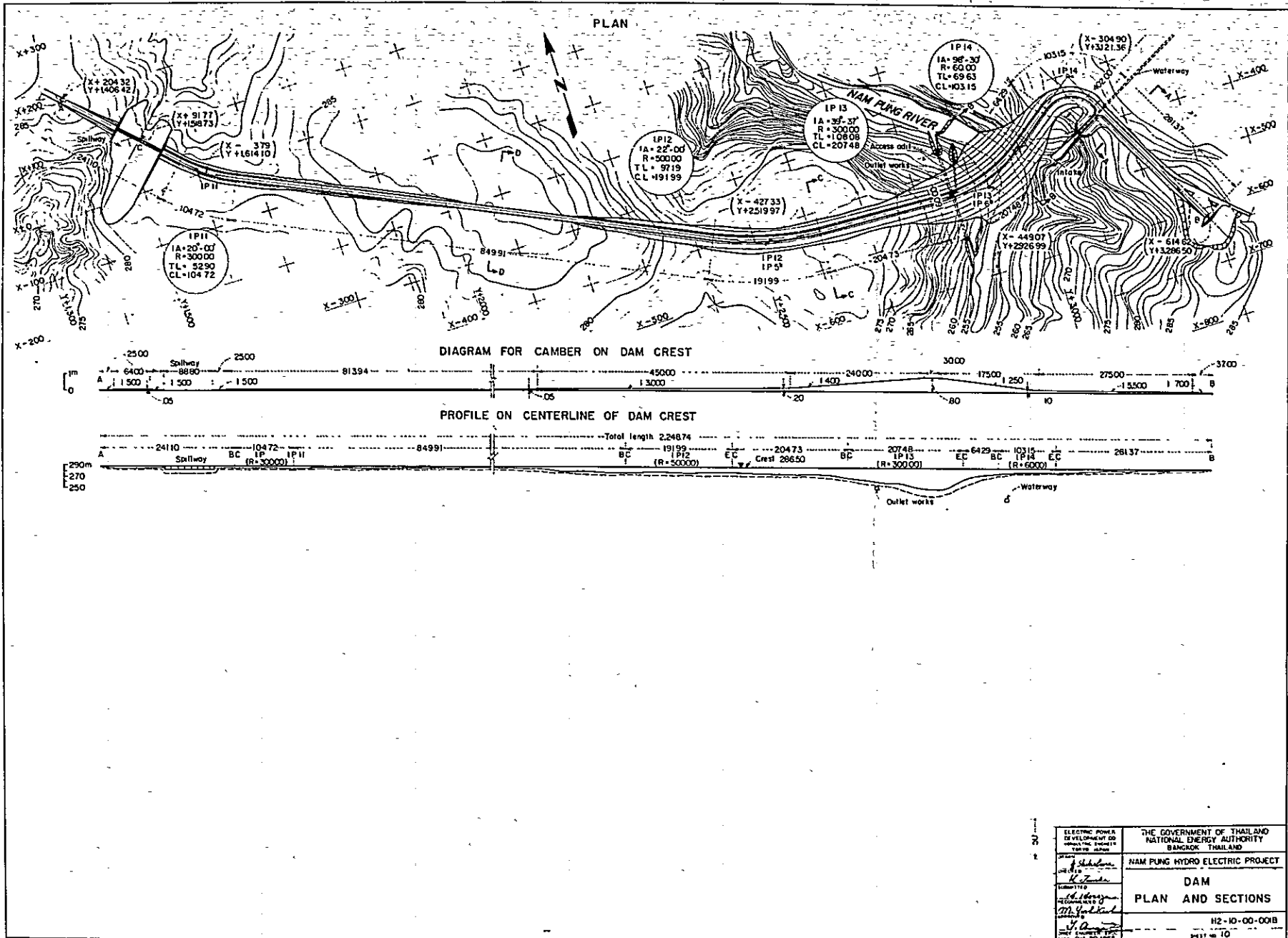
(Nam Pung 工事)

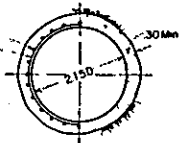
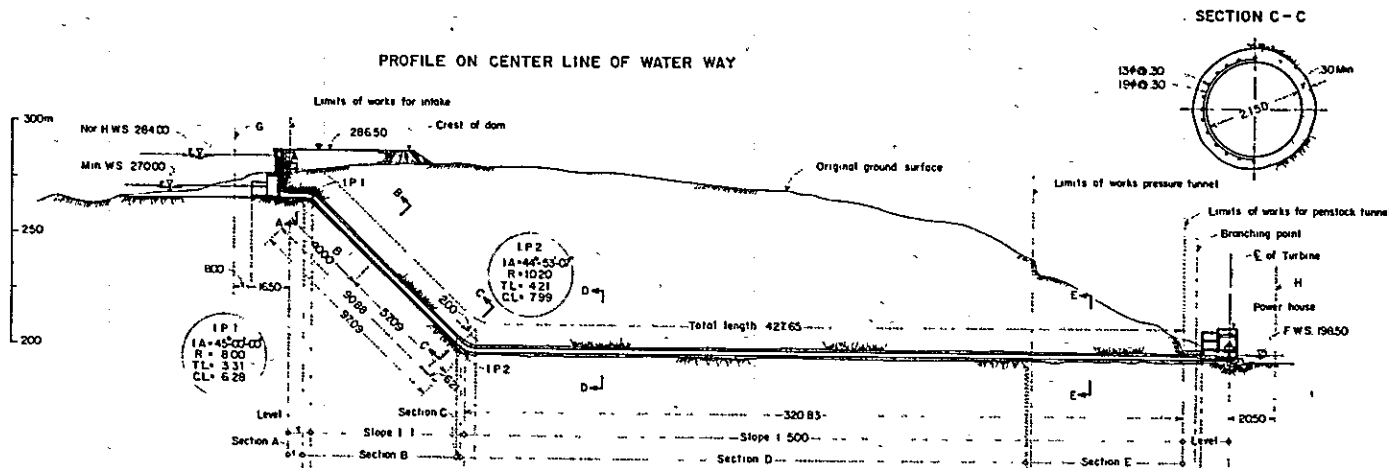
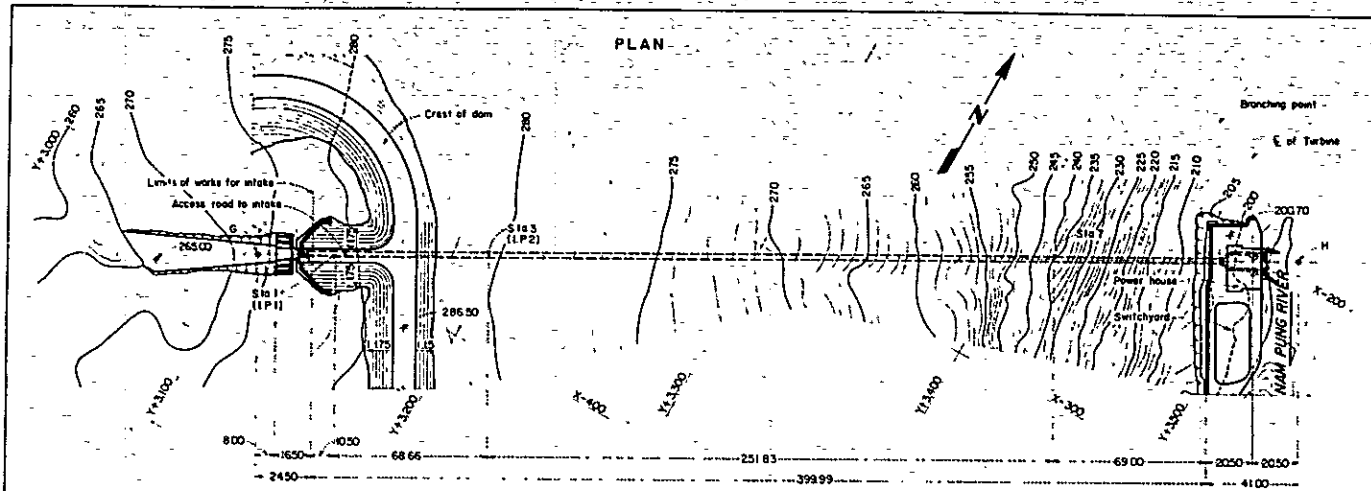
番号 _____

実施された開発事業 (工事中又は完成)

(1) プロジェクトの分類 支 流		(9) 事業の概要	00 関係図面 適当な縮尺にて次の図面を添付 ○ 一般平面図 ○ プロジェクト平面図 (主なる構造物の配置図) ○ 構造図 (主なる) ○ 特に必要と思われる図面 別添コピー図面参照
(2) 開発事業の名称 (プロジェクト名)	Nam Pung Hydro- electric Project	事業規模 (内容) 主なる項目について	01 特記事項
(3) 事業の前提となった 調査のカード番号		(I) Dam Type Rockfill Height : 40 m Volume : 750,000 m ³	
(4) 事業が実施された国名	Thailand	(II) Spillway Capacity : 300 m ³ /s Waterway	
(5) 工事中, 完成の別	1965年完成	(III) Tunnel L : 800 m Penstock Line L : 180 m Power Station	
(6) 完成予定期日		Max. Discharge : 8.5 m ³ /s Max. Output : 5400 kW Annual Energy : 15,000,000 kWh	
(7) 建設資金の種類, 金額, 年度別		Transmission Line (69 KV) L : 200 km Substation : 4850 kVA (6 Stations)	
(種類) (金額) (年度別) 自国 総工事費 20 億円 (日本特別円を含む) 国連 援助国 世銀 フォン銀 その他		事業効果 (I) 電力原価 0.62 Baht (発電端) かんがい (8500 ha) (II) パイロットポンプ (500 ha かけがい用) メコン河沿い 8カ所のポンプ場 (8000 ha かんがい用) (III) Nam Pong および Nam Pung 間送電線 (69 KV)	
(8) 実施に関係するコンサルタント 国名 日本 コンサルタント会社名 EPDC 役割り 施工監督			







Sta. No.	Distance	Field purpose	Field height	Ground height	Perimeter height
0	0		277.00	285.00	285.00
1	1.31		275.00	285.00	285.00
2	6.21		277.75	281.00	197.75
3	4.21		281.50	281.00	198.50
4	243.00		328.00	321.00	198.00
5	1.50		320.00	320.00	198.00
6	69.00		399.99	205.00	195.70
7	3.50		407.99	203.00	195.70
8	1352		421.51	198.00	198.00

ELECTRIC POWER DEVELOPMENT BOARD 111/112/113/114/115/116/117/118/119/120/121/122/123/124/125/126/127/128/129/130/131/132/133/134/135/136/137/138/139/140/141/142/143/144/145/146/147/148/149/150/151/152/153/154/155/156/157/158/159/160/161/162/163/164/165/166/167/168/169/170/171/172/173/174/175/176/177/178/179/180/181/182/183/184/185/186/187/188/189/190/191/192/193/194/195/196/197/198/199/200/201/202/203/204/205/206/207/208/209/210/211/212/213/214/215/216/217/218/219/220/221/222/223/224/225/226/227/228/229/230/231/232/233/234/235/236/237/238/239/240/241/242/243/244/245/246/247/248/249/250/251/252/253/254/255/256/257/258/259/260/261/262/263/264/265/266/267/268/269/270/271/272/273/274/275/276/277/278/279/280/281/282/283/284/285/286/287/288/289/290/291/292/293/294/295/296/297/298/299/300/301/302/303/304/305/306/307/308/309/310/311/312/313/314/315/316/317/318/319/320/321/322/323/324/325/326/327/328/329/330/331/332/333/334/335/336/337/338/339/340/341/342/343/344/345/346/347/348/349/350/351/352/353/354/355/356/357/358/359/360/361/362/363/364/365/366/367/368/369/370/371/372/373/374/375/376/377/378/379/380/381/382/383/384/385/386/387/388/389/390/391/392/393/394/395/396/397/398/399/400/401/402/403/404/405/406/407/408/409/410/411/412/413/414/415/416/417/418/419/420/421/422/423/424/425/426/427/428/429/430/431/432/433/434/435/436/437/438/439/440/441/442/443/444/445/446/447/448/449/450/451/452/453/454/455/456/457/458/459/460/461/462/463/464/465/466/467/468/469/470/471/472/473/474/475/476/477/478/479/480/481/482/483/484/485/486/487/488/489/490/491/492/493/494/495/496/497/498/499/500/501/502/503/504/505/506/507/508/509/510/511/512/513/514/515/516/517/518/519/520/521/522/523/524/525/526/527/528/529/530/531/532/533/534/535/536/537/538/539/540/541/542/543/544/545/546/547/548/549/550/551/552/553/554/555/556/557/558/559/560/561/562/563/564/565/566/567/568/569/570/571/572/573/574/575/576/577/578/579/580/581/582/583/584/585/586/587/588/589/590/591/592/593/594/595/596/597/598/599/600/601/602/603/604/605/606/607/608/609/610/611/612/613/614/615/616/617/618/619/620/621/622/623/624/625/626/627/628/629/630/631/632/633/634/635/636/637/638/639/640/641/642/643/644/645/646/647/648/649/650/651/652/653/654/655/656/657/658/659/660/661/662/663/664/665/666/667/668/669/670/671/672/673/674/675/676/677/678/679/680/681/682/683/684/685/686/687/688/689/690/691/692/693/694/695/696/697/698/699/700/701/702/703/704/705/706/707/708/709/710/711/712/713/714/715/716/717/718/719/720/721/722/723/724/725/726/727/728/729/730/731/732/733/734/735/736/737/738/739/740/741/742/743/744/745/746/747/748/749/750/751/752/753/754/755/756/757/758/759/760/761/762/763/764/765/766/767/768/769/770/771/772/773/774/775/776/777/778/779/780/781/782/783/784/785/786/787/788/789/790/791/792/793/794/795/796/797/798/799/800/801/802/803/804/805/806/807/808/809/810/811/812/813/814/815/816/817/818/819/820/821/822/823/824/825/826/827/828/829/830/831/832/833/834/835/836/837/838/839/840/841/842/843/844/845/846/847/848/849/850/851/852/853/854/855/856/857/858/859/860/861/862/863/864/865/866/867/868/869/870/871/872/873/874/875/876/877/878/879/880/881/882/883/884/885/886/887/888/889/890/891/892/893/894/895/896/897/898/899/900/901/902/903/904/905/906/907/908/909/910/911/912/913/914/915/916/917/918/919/920/921/922/923/924/925/926/927/928/929/930/931/932/933/934/935/936/937/938/939/940/941/942/943/944/945/946/947/948/949/950/951/952/953/954/955/956/957/958/959/960/961/962/963/964/965/966/967/968/969/970/971/972/973/974/975/976/977/978/979/980/981/982/983/984/985/986/987/988/989/990/991/992/993/994/995/996/997/998/999/1000	THE GOVERNMENT OF THAILAND NATIONAL ENERGY AUTHORITY BANGKOK, THAILAND NAM PUNG HYDRO ELECTRIC PROJECT WATERWAY PLAN, PROFILE AND SECTIONS 1/3-00-00-001B SHEET NO. 15
--	---

調査カード

*コード番号

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
5.14~5.15	Nam Ngum	日本 米国 イスラエル	1965~1968	US\$ 606783	③ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	1 (調査の目的) 上流計画としては、ナムグム地点に於けるダム建設の技術的、経済的、財政的 Feasibility study 下流計画としてはビエンチャン平野 32000ha の灌漑計画 Feasibility study 2 (勧告・結論) ビエンチャン及びメコン周辺のタイ地域も含めて電力需要から推して水力発電計画を早期実施することが必要である。 又ラオスの食料は大部分輸入に頼っている実情から電力開発と関連してナムグムからの灌漑開発を早急に実施すべきである。 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
1 流域計画		1 名称		5 その他		
2 主流計画		2 言葉の種類		方 法 論 的 分 類	1 実態調査 水文観測 ○ 地質調査 ○ 地図作製 ○ 2 実態解析 水文解析 ○ 地質 " ○ 地形 " ○ 3 統計調査 ○ 4 開発計画 (提案) ○ 5 土木施設設計 詳細 ○ 概略 ○ 6 経済予測 ○ 7 産業開発計画 ○ 8 社会開発計画 ○ 9 モデルファーム ○ 10 その他 ○	
3 支流計画	○	3 日本語のほんやく書の有無				
4 舟航その他輸送	○	4 資金の性質	国連特別基金 日本ラオス経済技術協力協定による。日本政府技術協力		⑩ 調査評価	
5 洪水警報と治水	○	5 実施機関(コンサルタント名)	日本工営KK Edison Electric Institute			
6 農業・林業及び漁業	○	6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード	O.T.C.A-日本工営		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
7 電力市場 工業 鉱物資源		7* O.T.C.Aにおける資料番号				
8 社会開発と公衆衛生		⑪ 備考 財 政 : 開発基金の拠出 建 設 : 送電線, 変電所, 工事用橋梁 電力の交換 : ラオス・タイ両国内送電網の連結				
9 運用資金		⑫ 調査対象プロジェクトの概要				
10 管 理		⑬ プロジェクト地点の国名	ラオス			
11 その他		⑭ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 ナムグム下流部の緩勾配によって例年洪水時にメコン本流の逆流によりビエンチャン平野から氾濫せしめられていたのを、上流に貯水池を築造して洪水調節を行なうことが焦眉の急務とされ、これから日ラオ経済協力協定に基づく第一次調査が始められることとなった。				
⑦ 備考		⑮ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Vientiane 北方70kmに位置し、470m長のコンクリート重力ダム(高さ75m,放水路容量9千m ³ /sec幅12.5m,高さ25mのフィアルゲート)で、発電所(当初17500KVA×2,最終35千KVA×3)を設け下流をかんがい(第1期5000ha,最終32000ha)する。				

⑭

調 査 報 告 書 の 概 要

(原 語)

(日 本 語)

1 (報告者名) Feasibility Report on the Multi-Purpose Nam Ngum Project

2 調査総括責任者氏名と地位

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

(総合Feasibility Reportの目次に こととしたい)

3.3

;

⑮

調 査 地 域 概 略 図

別 紙

O T O Aに提出した実施設計報告書(和文)添附図面を
参考としたい

⑯

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間
------	-----	------	-------	-----

別紙として掲げる

⑰

相手国の受人態勢

1 受人機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
---------	------------	-----------

原 名 Commissariat au Plan, Ministère du Plan et de la Coopération

や く 名 Comité National Lao du Mékong

計画名 計画局、ラオス国内メコン委員会

⑱

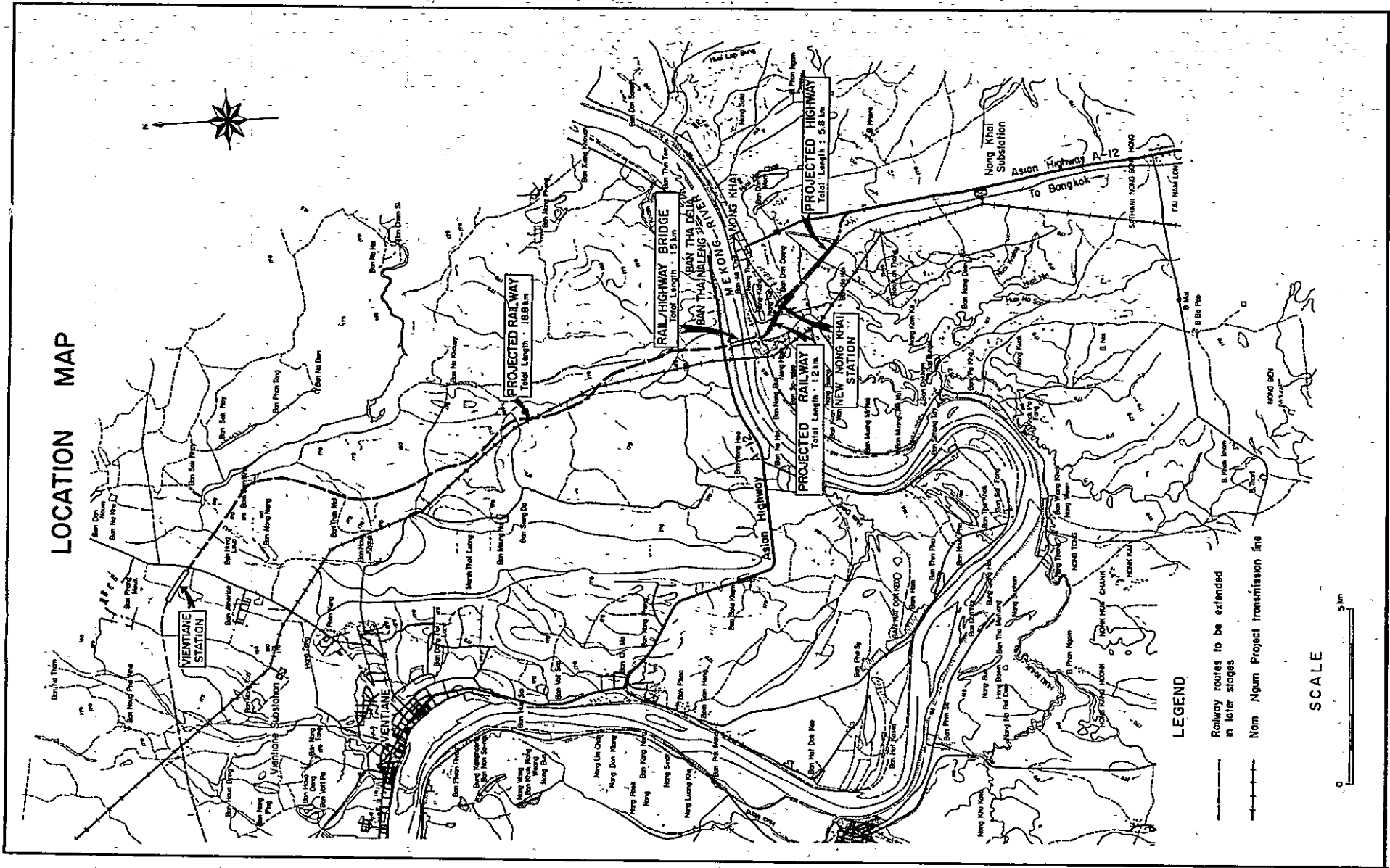
特記事項

番号

実施された開発事業（工事中又は完成）

(1) プロジェクトの分類		(9) 事業の概要	(10) 関係図面
(2) 開発事業の名称 (プロジェクト名)	ナムグム水力開発 (第一期工事)	事業規模（内容）主なる項目について	適当な縮尺にて次の図面を添付
(3) 事業の前提となった調査のカード番号		(i) ダム：型式 直線式コンクリート重力ダム、堤高75m、堤頂長470m、堤体積340000m ³ 、堤頂標高215m	○ 一般平面図
(4) 事業が実施された国名	ラオス	(ii) 貯水池：常時満水位212m、低水位196m、常時満水位湛水面積370Km ² 、利用水深16m、総貯水量7030million m ³ 、有効貯水量4700million m ³	○ プロジェクト平面図 (主なる構造物の配置図)
(5) 工事中、完成の別	工事中	(iii) 発電設備：設計落差32m、加重平均落差35.5m 最大使用水量 570m ³ /秒 水車 軸軸フランシス 2台 発電機 同期交流発電機 常時尖頭出力 30000KW(15000KW×2) 年間発電電力量 150million KWH	○ 構造図（主なる） ○ 特に必要と思われる図面
(6) 完成予定期日	1972年12月	送電線：ビエンチャンS/S/ナムグムP/S 115KV 1回線 73Km ウドンS/S/ビエンチャンS/S 115KV 1回線 67Km 変電所：ビエンチャン 22MVAX2、ノンカイ 5MVAX1、ウドン 1回線増設	(11) 特記事項
(7) 建設資金の種類、金額、年度別		事業効果	
(種類) (金額) (年度別)			
自国		(i) 送電線のうちウドン/ビエンチャン部分は1968年8月完成9月にはタイのナムボンP/Sから給電を受けビエンチャン市の電力不足を補った本工事完成後は、ビエンチャン給電の余りを逆にタイ側に送ることになっている。即ち国際観望の効果をもったプロジェクトであると評し得る。	
国連		(ii) 下流の灌漑排水計画即ちビエンチャン平野開発計画は、その一部がイスラエルにより実現し、また一部はレゴン計画として800haのパイロットファームが近く実現の予定となっている。	
援助国 { 世銀管理の下、豪、加、デンマーク、仏、日、蘭、ニュー		(iii) ラオス側、タイ側共に電力需要の増が予測されるため、最終目標185000KWへの増設の早期実現が要望され世銀がそのarrangement に乗り出している。	
世銀 { ジラノド、泰、米の9ヶ国の拠出資金			
アジア銀			
その他			
(8) 実施に関係するコンサルタント			
国名 日本、カナダ			
コンサルタント会社名			
日本工営 AORES International			
役割り 日本工営 工事監督 AORES ラオス政府の代理として工事のManagementを担当			

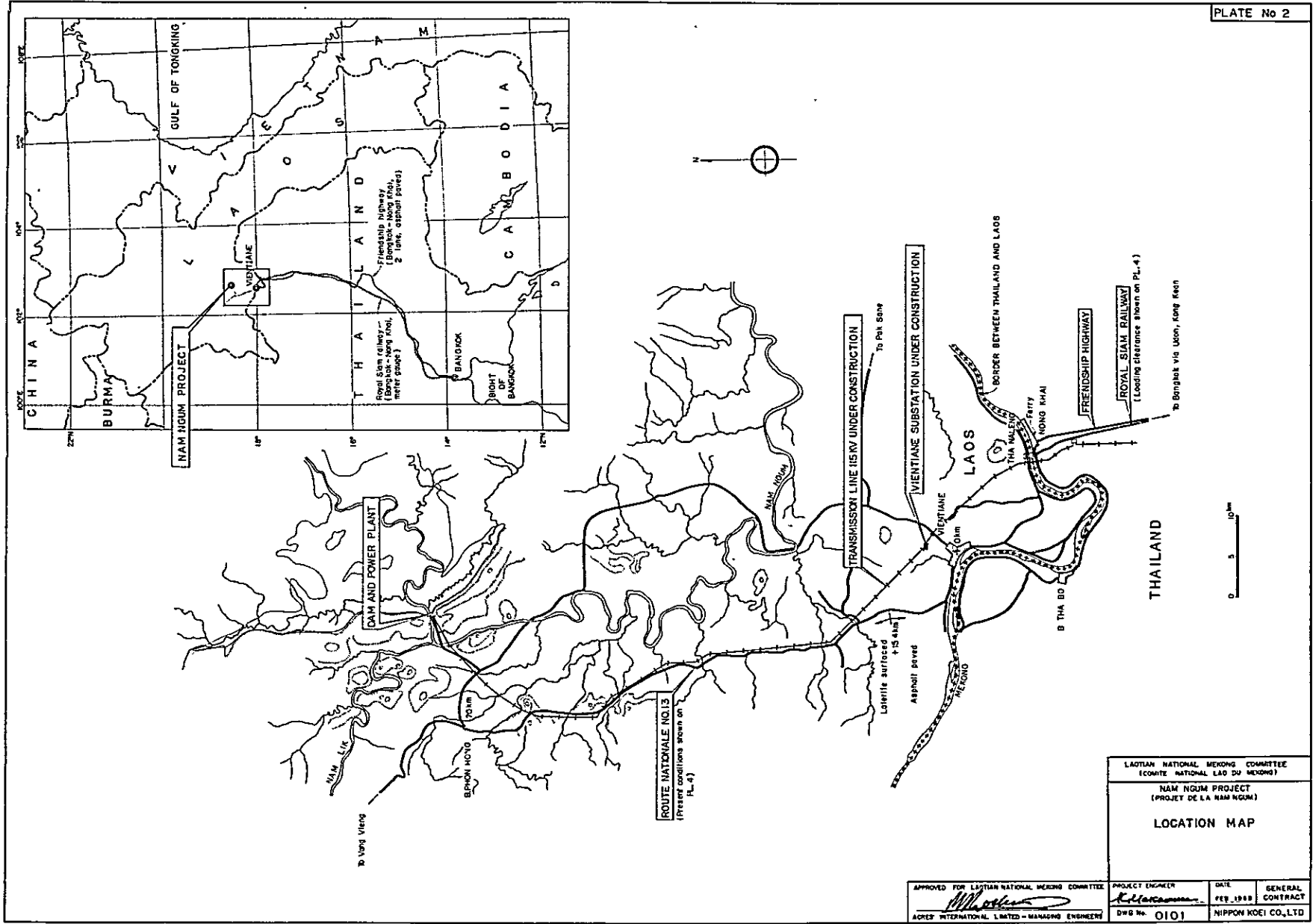
LOCATION MAP



LEGEND

- Railway routes to be extended in later stages
- - - - - Nam Ngum Project transmission line





LAOTIAN NATIONAL MEKONG COMMITTEE
(COMITE NATIONAL LAO DU MEKONG)

NAM NGUM PROJECT
(PROJET DE LA NAM NGUM)

LOCATION MAP

APPROVED FOR LAOTIAN NATIONAL MEKONG COMMITTEE	PROJECT ENGINEER	DATE	GENERAL CONTRACT
<i>[Signature]</i>	<i>[Signature]</i>	FEB 1968	
ACRES INTERNATIONAL LIMITED - MANAGING ENGINEERS	DWG No. 0101	NIPPON KOEI CO., LTD	

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 5.21	② 調査対象プロジェクト名 Lam Dom No1	③ 援助国又は機関名 日本-SOGREAH-フランス	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)			⑨ 報告書の構成等		⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 遠用資金 10 管理 11 その他			1 名称 Lam Dom Nu Project 2 言葉の種類 英文 3 日本語のほんやく書の有無 有 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 電源開発TK SOGREAH 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号		1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 ○ 4 実施調査 5 その他	1 (調査目的) Feasibilityの定証 2 (勧告・結論) この計画はFeasibleである。規模はダム38m, 有効貯水量555×10 ⁶ m ³ , 設備出力15Mw, かんがい5,400haとする。工事費は359×10 ⁶ ヘーノC/B=0.80(I=3%)であり出来るだけ早く着工すべきである。 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項) Jul. 1967のReport(Technical Studies of Lam Dom No1 Project)ではDamの高さ41m, 有効貯水量730×10 ⁶ m ³ , 最大出力22Mw, かんがい面積24000haに変更
⑦ 備考			⑩ 備考 日本-電源開発TK、フィンビリティレポート SOGREAH は委員会に対するフランス技術援助計画の一例として3万haの農業土壌学的調査を実施		1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 ○ 地質 # ○ 地形 #	05 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要			⑪ プロジェクト地点の国名	タイ	3 統計調査 ○ 4 開発計画 (提案) 5 上木施設の設計 6 経済予測 ○ 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査精度) Feasibility 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概費) Ubon Ratchathani州のPibul Mangsahan附近に高さ38h(42m), 有効貯水量555×10 ⁶ m ³ (900×10 ⁶)の貯水池を設計。15Mwの発電所を建設すると共に5,400ha(24000ha) ^{136Mw} のかんがいを行う。 鉛()の数)はDefinite Studyの結果である。			⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1960年日本, メコン支流調査団がRecommend 1963年NEAが調査を依頼 なおNEAはApr. 1967EPDCにFeasibility Studyの見直しを依頼した。 ⑬ 精密設計 Jan. 1968-(EPDC担当) 着工 Jun. 1968			

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1. (報告者名) Lam Dam Noi Project Feasibility Report
2. 調査包括責任者氏名と地位 EPDC.
3. (報告書のよなる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1 Reservoir Scheme	貯水池による Inundation Area, 発電量, かんがい可能面積等から検討して次の開発規模が Recommended された。 Normal High Water Surface 138m Drawdown 6m Effective Storage Capacity 555×10 ⁶ m ³ (但し CA2097 km ² Annual Discharge 13×10 ⁹ m ³) Dam Type Rockfill Height 38m Crest Length 585m Dam Volume 160×10 ³ m ³ Sillway 1,300m ² /S Max Discharge 75m ³ /S
3.2 Electric Power Development Scheme	Firm 23 # Kated Head 26.3m(max 293m, min 233m) Max Out Put 15MW Firm Energy 43.6×10 ⁶ KWh Transmission Line
3.3 Irrigation Scheme	Arih : 5,400m Water Requirement 796m ³ /S
3.4 Construction Cost	359×10 ⁶ パーツ Power 206×10 ³ パーツ Irrigation 153×10 ³ パーツ
3.5	0.308 KWh (i = 3%)
3.5 Power Cost	Power C/B = 0.64, Surplus Benefit 6.28×10 ⁶ パーツ Irrigation C/B = 0.89, Surplus Benefit 6.41×10 ⁶ パーツ

⑩ 調査地域概略図

⑪

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間) 電源開発 K K

日及氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
1964	5名			
1967	5名			

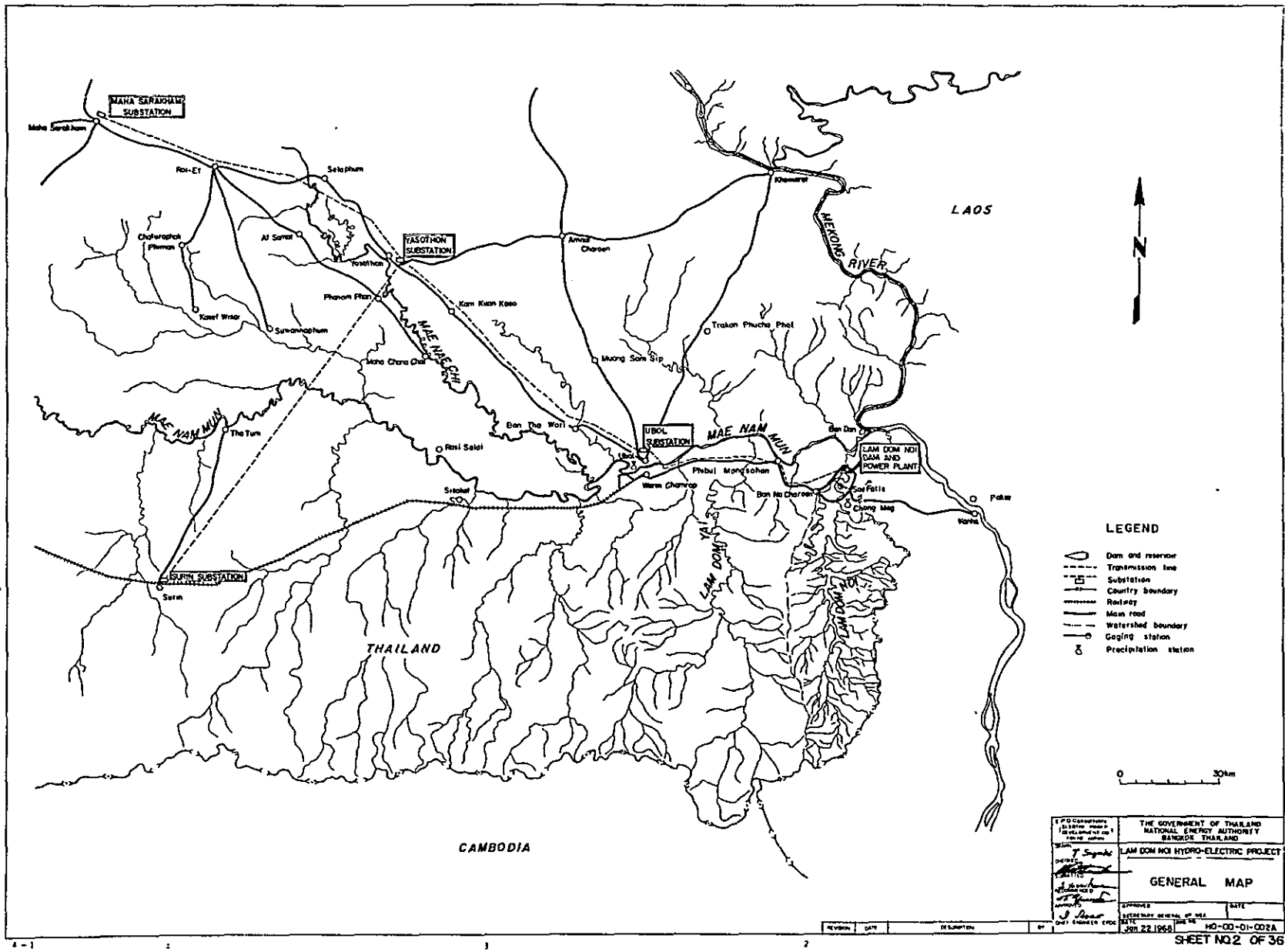
⑫ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名
2. 要請した便宜供与
3. 便宜供与の実績

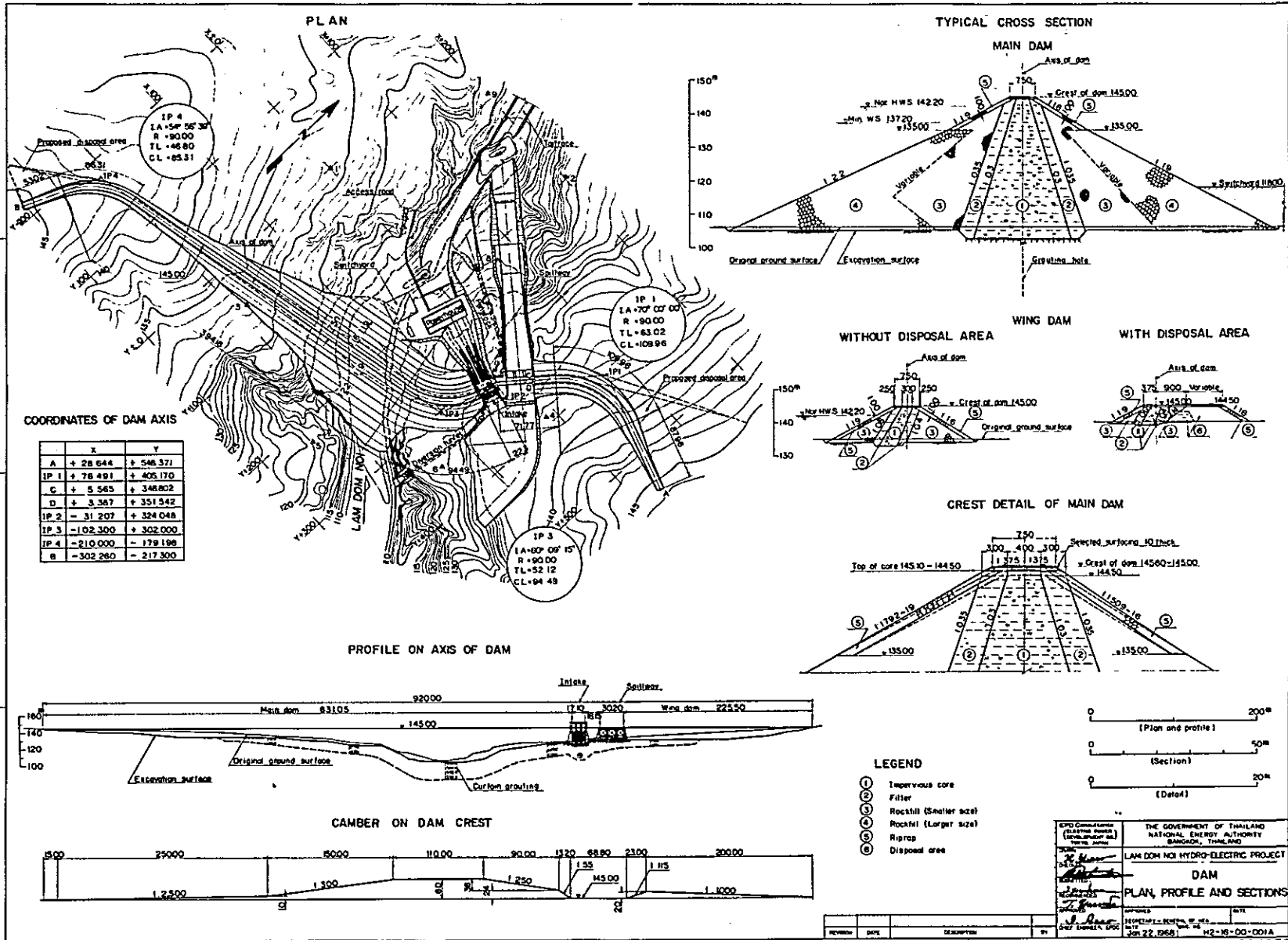
原 名 National Energy Authority

やく名 NEA

⑬ 特記事項



<p>(1) プロジェクトの分類</p> <p>支 流</p>		<p>(9) 事業の概要</p> <p>事業規模（内容） 主なる項目について</p> <p>(1) Feasibility Studyの後、変更された事項次のとおり。 Dam Height 42 m Fill Type Volume 585,000m³ (Rock) 38,000m³ (Concrete)</p> <p>(ii) Effective Storage Capacity 900×10⁶ m³ Draw down 5.0 m Capacity of Spillway 1,000m³/S Rated Head 303 m Max Discharge 47m³/S Installed Capacity 36MW (1st Stage 24MW, 12MW) Annual Emerge 73.5×10⁶ KWh Transmission Line 414 km</p>	<p>(10) 関係図面</p> <p>適当な縮尺にて次の図面を添付</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般平面図 ○ プロジェクト平面図 <p>(主なる構造物の配置図)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構造図（主なる） ○ 特に必要と思われる図面
<p>(2) 開発事業の名称 (プロジェクト名)</p>	<p>Lam Don Noi Hydro Electric Project</p>		
<p>(3) 事業の前提となった調査のカード番号</p>			
<p>(4) 事業が実施された国名</p>	<p>Thailand</p>		
<p>(5) 工事中、完成の別</p>	<p>工 事 中</p>		
<p>(6) 完成予定期日</p>	<p>運開 Jun '71</p>		
<p>(7) 建設資金の種類、金額、年度別</p>			
<p>(種類) (金額) (年度別)</p>			
<p>自 国 210,800×10³ パーツ</p> <p>国 連</p> <p>日本他</p> <p>援助国 89,900×10³ パーツ</p> <p>世 銀</p> <p>アノ銀</p> <p>その他</p> <p>計 300,700×10³ パーツ</p>		<p>事業効果</p> <p>(i) 電力原価 0.29 パーツ/KWh かんがい 25000 ha</p> <p>(ii) 漁 業 12×10⁶ パーツ/year</p> <p>(iii)</p>	<p>(11) 特記事項</p>
<p>(8) 実施に関するコンサルタント</p> <p>国 名 日 本</p> <p>コンサルタント会社名 EPDC</p> <p>役割り 設計、監理</p>			



調査カード

*コード番号

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調 査 内 容	
	Prek Thnot	日本・イスラエル、オーストラリア、フィリピン、メコン事務局	1961年~1962	US\$ 30,000	⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	1 (調査の目的) 日本政府メコン踏査チームによりフィージビリティ調査が進言され、同国の最速プロジェクトとして早期に開発の必要あるため。 2 (勧告・結論) 実現の価値あり、資金手当をすべきである。 3 (主なるバックデータ) なし 4 (その他特記事項)
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他	○	1 名 称 Feasibility Report on the Prek Thnot Project, Cambodia 2 言葉の種類 日英仏 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 日本政府の援助(投資前)(日本工営)(SMA) 日本、イスラエル、オーストラリア、カンボディアとメコン委員会からなる技術作業部会 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑩ 備考		⑩ 備考			方 法 論 的 分 類	⑮ 調 査 評 価 1 (調査精度) 良 2 (技術水準) 良 3 (用いられた主なる理論・公式) なし 4 (技術的特色) とくになし 5 (調査効果) 絶大
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名	カンボディア			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) カンボディアでの初の多目的河川利用計画 発 電: 設備容量18MW, 年間可能発生電力量約3千万瓩で、工業・都市用かんがい: 第1期5千ha 第2期18千ha 最終期7万ha		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はげしい等 1 1959~61年の日本政府メコン調査団の踏査の良好地点と判定され、フィージビリティ調査の必要性が進言された。 2 3				

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) Feasibility Report on the Prek Thnot Project, Cambodia

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
一宮 隆夫				
境田 正宣				
芝田 三男				
菅原道太郎				
吉松 昭夫				
神山 久				
只野 健老				
佐藤 健二				

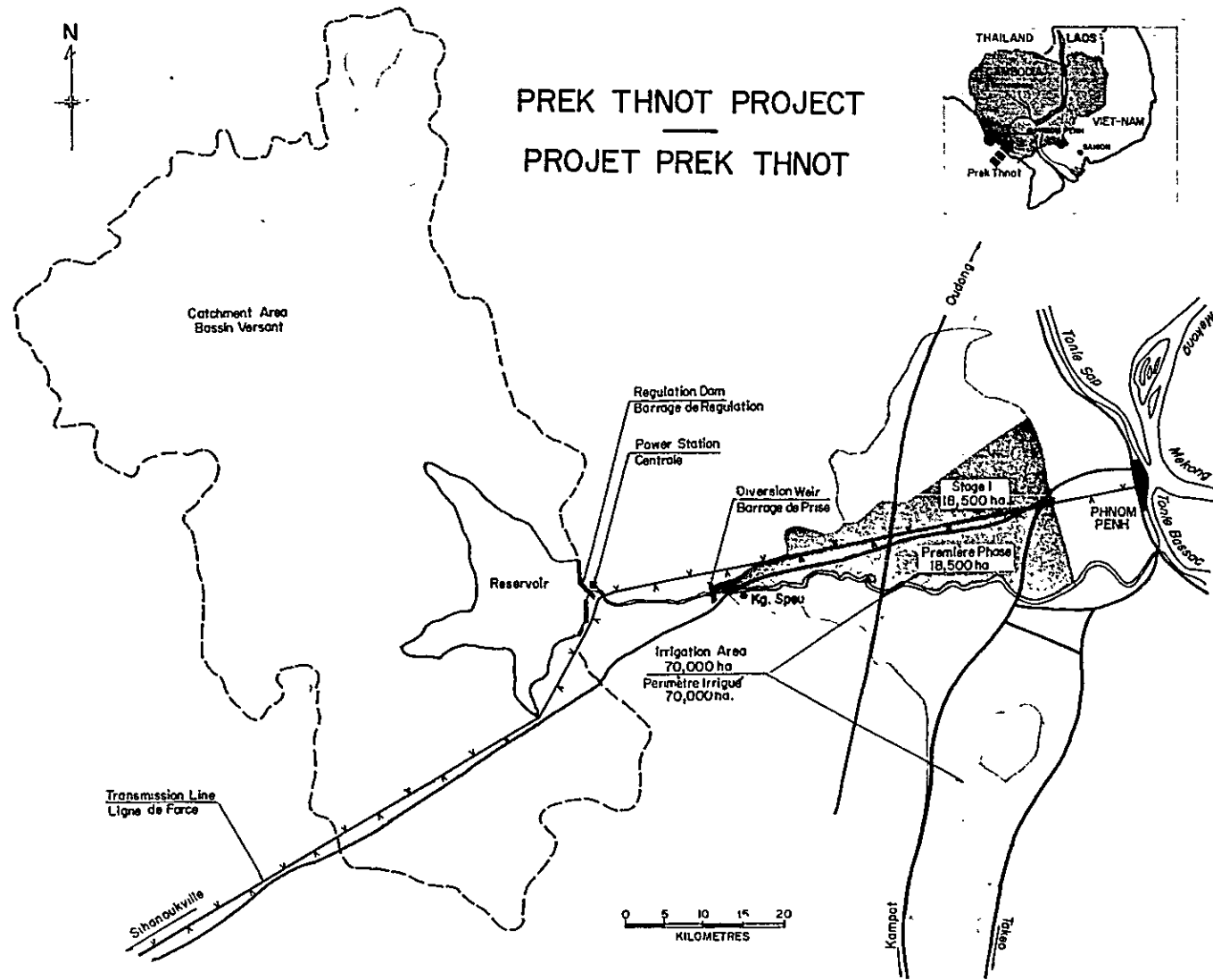
⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項



調査コード

* コード番号

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容			
5.29~5.32	Se San 上流	日本	1961~1966	US\$ 213932	③ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑧ 段的分類	④ 内容説明		
1 流域計画	○	1 名称	Upper Se San Development Project Vietnam				1 踏査	1 (調査の目的) 自流式 Yall Falls 計画の初期開発のための詳細な開発計画をたてること。さらに Yall Falls 統合開発計画をたてること。
2 主流計画		2 言葉の種類	英語 仏語				2 予備調査 ○	
3 支流計画		3 日本語のほんやく書の有無	無				3 フィジビリティ調査 ○	
4 舟航その他輸送		4 資金の性質	国連特別基金援助計画 (メコン委員会)		4 実施調査	2 (勧告・結論) 第1段階: Yall Falls のすぐ上流に低い地区を設け、滝の下部に発電所 (6000 瓩 容量 1.2 MW) と 6900 ha のかんがい用いられる。総費 116 百万ドル。		
5 洪水警報と治水		5 実施機関 (コンサルタント名)	日本工営		5 その他			
6 農業・林業及び漁業		○	6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード			1 実態調査	3 (主たるバックデータ) 水文資料 地形測量	
7 電力市場 工業 鉱物資源			7* O.T.C.A にかける資料番号					水文観測 ○
8 社会開発と公衆衛生		○	⑩ 備考			地質調査 ○	4 (その他特記事項) 報告書は 1967 年 1 月のメコン委員会顧問団第 7 回会議で検討され、上記計画を妥当と認め、実施を勧告した。メコン委員会のヴェトナム委員は、沿岸地域の工業開発のため Yall Falls 計画を 100 MW まで拡張するための詳細調査を提案。	
9 運用資金						地図作製 ○		
10 管理						2 実態解析		
11 その他					水文解析 ○	⑨ 調査評価		
⑦ 備考				地質 # ○	1 (調査精度) 建設費の 15%			
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名				地形 # ○	2 (技術水準) 高度	
(プロジェクトの種類番号) _____		ヴェトナム			3 統計調査	3 (用いられた主たる理論・公式)		
(プロジェクトの概要)		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			4 開発計画 (提案) ○		4 (技術的特色)	
セ・サン上流で 7カ所の有望電力開発計画。80 万瓩 (420 MW/年間) の発電と 21 千 ha のかんがい計画されている。		Kontum Plerka 地区は多年ベトナム政府が農業開発を促進すべく企画していた所で、日本政府調査団の調査結果でも勧告 8 河川の中に加えられた。此の勧告が国連でも高く評価され、特別基金による予備調査の運びとなった。			5 土木施設の設計	5 (調査効果)		
					詳細			
					概略 ○			
					6 経済予測			
					7 産業開発計画			
					8 社会開発計画			
					9 モデルファーム			
					10 その他			

⑥ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) Upper Se San Development Project Vietnam Final Report

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

別 紙

⑦ 調査地域概略図

別 紙

⑧ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
菅原道太郎				
有元 一郎				
境田 正宣				
芝田 三男				
入江 邦男				
神山 久				
只野 健孝				
鈴木 勇				

⑨ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 _____ 2. 要請した便宜供与 _____ 3. 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

ヤク名 _____

⑩ 特記事項

UPPER SE SAN DEVELOPMENT PROJECT

- FINAL REPORT -

1966

TABLE OF CONTENTS

SUMMARY AND CONCLUSIONS

VOLUME I

GENERAL CONCEPT

CHAPTER I. INTRODUCTION

- 1.1 Background of the Project
- 1.2 Chronology on the Project
- 1.3 Security Situation
- 1.4 Experimental Farm
- 1.5 Interim Discussions and Subsequent Modifications
- 1.6 Various Cooperation

CHAPTER II GENERAL DESCRIPTION

- 2.1 Land and Population of Viet-Nam
- 2.2 General Economy
 - 2.2.1 Agriculture
 - 2.2.2 Stock breeding
 - 2.2.3 Forests
 - 2.2.4 Electric power

CHAPTER III PROJECT AREA

- 3.1 General
- 3.2 Geology
- 3.3 Topography
- 3.4 Climate
- 3.5 Temperature
- 3.6 Relative Humidity
- 3.7 Evaporation
- 3.8 Rainfall

CHAPTER IV WATER STUDIES

- 4.1 Period of Observations
- 4.2 Available Discharge
- 4.3 Design flood
- 4.4 Flood Control Problem
- 4.5 Sedimentation
- 4.6 Water Quality

CHAPTER V. POWER MARKET STUDIES

- 5.1 Present Power Situation in Upper Se San Area
- 5.2 Estimation of Power Demand at the Time of Project Completion
- 5.3 Forecast of Demand in Upper Se San Area
 - 5.3.1 General demand and industries
 - 5.3.2 Demand for irrigation pumping
- 5.4 Probable Service Area

CHAPTER VI. POWER POTENTIALS

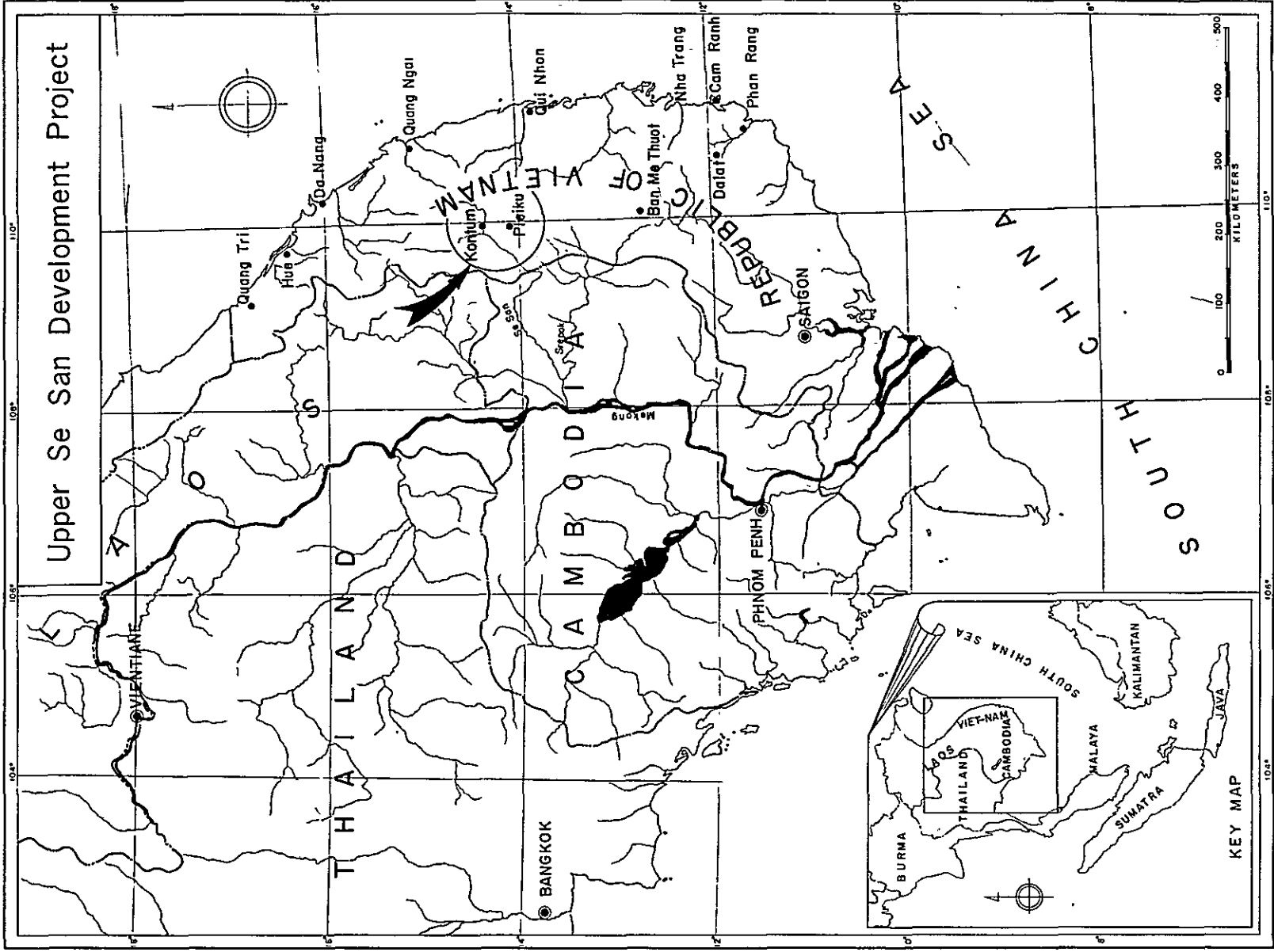
- 6.1 Outline of Development
 - 6.1.1 Area upstream Yali Falls
 - 6.1.2 Yali Falls
 - 6.1.3 Area downstream Yali Falls
- 6.2 Order of Development
 - 6.2.1 First phase development
 - 6.2.2 Second phase development
 - 6.2.3 Third phase development
 - 6.2.4 Final phase development

CHAPTER VII. AGRICULTURAL STUDIES

- 7.1 Development Area
- 7.2 Present Condition of Agriculture
 - 7.2.1 Actual farming practices
 - 7.2.2 Actual farm production
 - 7.2.3 Annual crop production
 - 7.2.4 Annual livestock production
 - 7.2.5 Annual gross income from crops
 - 7.2.6 Annual gross income from livestock
 - 7.2.7 Average annual farm expense
 - 7.2.8 Annual farm budget
- 7.3 Proposed agriculture Development
 - 7.3.1 Principal elements needed for agricultural development
 - 7.3.2 Adapted type of standard farm
 - 7.3.3 Lowland standard farm of paddy-livestock mixed farming
 - 7.3.4 Upland standard farm of upland-livestock mixed farming

CHAPTER VIII. IRRIGATION POTENTIAL

- 8.1 Outline of Development
 - 8.1.1 Kintum area
 - 8.1.2 Tanaeng Prong area
 - 8.1.3 Dak Potong area
 - 8.1.4 Yali area
 - 8.1.5 Pleiku south-west area
- 8.2 Development Program



調査コード

*コード番号

① 調査コード番号		② 調査対象プロジェクト名		③ 援助国又は機関名		④ 調査年度又は期間(西暦)		⑤ 調査金額円又はドル		調査内容					
		Srepok上流		日本		1961~1966		¥40,251,000		① 性格的分類 (○印を記入)			② 内容説明		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)				⑦ 報告書の構成等						⑧ 段階的分類			⑨ 内容説明		
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他				1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				Feasibility Report on the Darlac Irrigation Project in the Upper Srepok Basin 英語 仏語 有 日本政府技術援助 OTCA-日本工営		1 踏査 2 予備調査 ○ 3 フィジビリティ調査 ○ 4 実施調査 5 その他			1 (調査の目的) 当地域の開発を借款ベースに委せるため金融機関に受理されるよりな総合プロジェクト フィーズビリティ調査を行うこと。 2 (勧告・結論) OTCAはSrepok上流域の総合計画の作成を勧告している。また調査の完成のため36万ドルの支出と水分調査は3カ年必要としている。さらに最上流のKrong Bukダム開発の早期実施を推奨している。 3 (主たるバックデーター) 4 (その他特記事項) 第1次 水分調査、第2次 Darlac調査 第3次 Lower Krong Buk調査、第4次 Upper Krong Buk調査と、段階的に行なわれたが、全体的なBasin Planを樹てるべく調査計画が進行中。		
⑩ 備考				⑪ 備考						⑩ 方法論的分類			⑪ 調査評価		
⑩ 備考				⑩ 備考 第1次調査 : 1961-10~1962-9 第2次 # : 1962-12~1963-3 第3次 # : 1963-11~1964-2 第4次 # : 1965-3~1965-5						1 実態調査 水文観測 ○ 地質調査 ○ 地図作製 ○ 2 実態解析 水文解析 ○ 地質 # ○ 地形 # ○ 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他			⑪ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)		
⑥ 調査対象プロジェクトの概要				⑩ プロジェクト地点の国名				⑪ ヴィエトナム		⑩ 方法論的分類			⑪ 調査評価		
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) Darlac高地から流出するいくつかの支流群を含み、16のダムの建設により洪水制御し、14億m ³ の貯水によつて75千haのかんがいと200MWの発電を行なう。				⑩ ⑪ 調査が実施されるに到つた理由、はいけい等 Srepok上流域は、発電、かんがいの両面に於て大きな開発の可能性を有し、ベトナム政府がかねて中部高原地帯に強力な開発計画を進める意図を有していたため、メコン委員会でSrepok上流総合開発調査に対する援助が強く要請され、日本政府がこれに応ずることとなつた。						⑩ 方法論的分類			⑪ 調査評価		

09

調 査 報 告 書 の 概 要

- (原 語) (日本語)
- 1 (報告者名) Feasibility Report on the Darlac Irrigation Project in the Upper Srepok Basin
- 2 調査総括責任者氏名と地位 メコン河スレポック上流域(ダルラック地区) 農業開発計画報告書
- 3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

別 紙

⑦ 調査地域概略図

別 紙

⑧ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間
菅原道太郎	1963	1964	1965	
有元 一郎		有元 一郎	鈴木 博彦	
境田 正宜		境田 正宜	境田 正宜	
入江 邦男		菅原道太郎	矢田部雅治郎	
神山 久		入江 邦男	越智 治明	
只野 健彦		沢谷 一夫	白山喜久郎	
鈴木 勇		鈴木 勇	齊藤	
稲垣 滋		矢田部雅治郎		
池島 功		越智 治明		
熊川 浩				
桑原 正男				

⑨ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

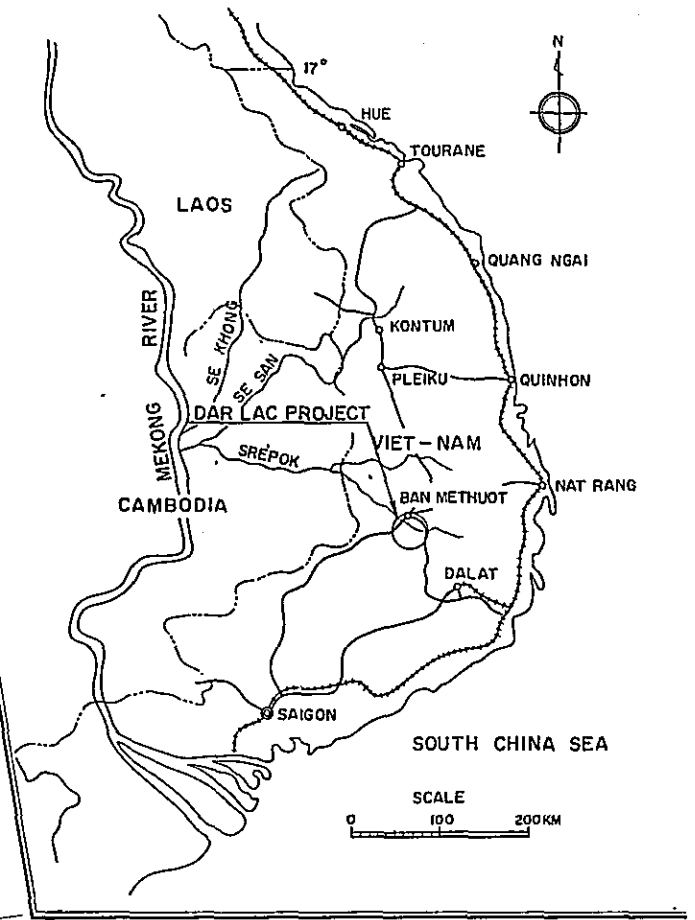
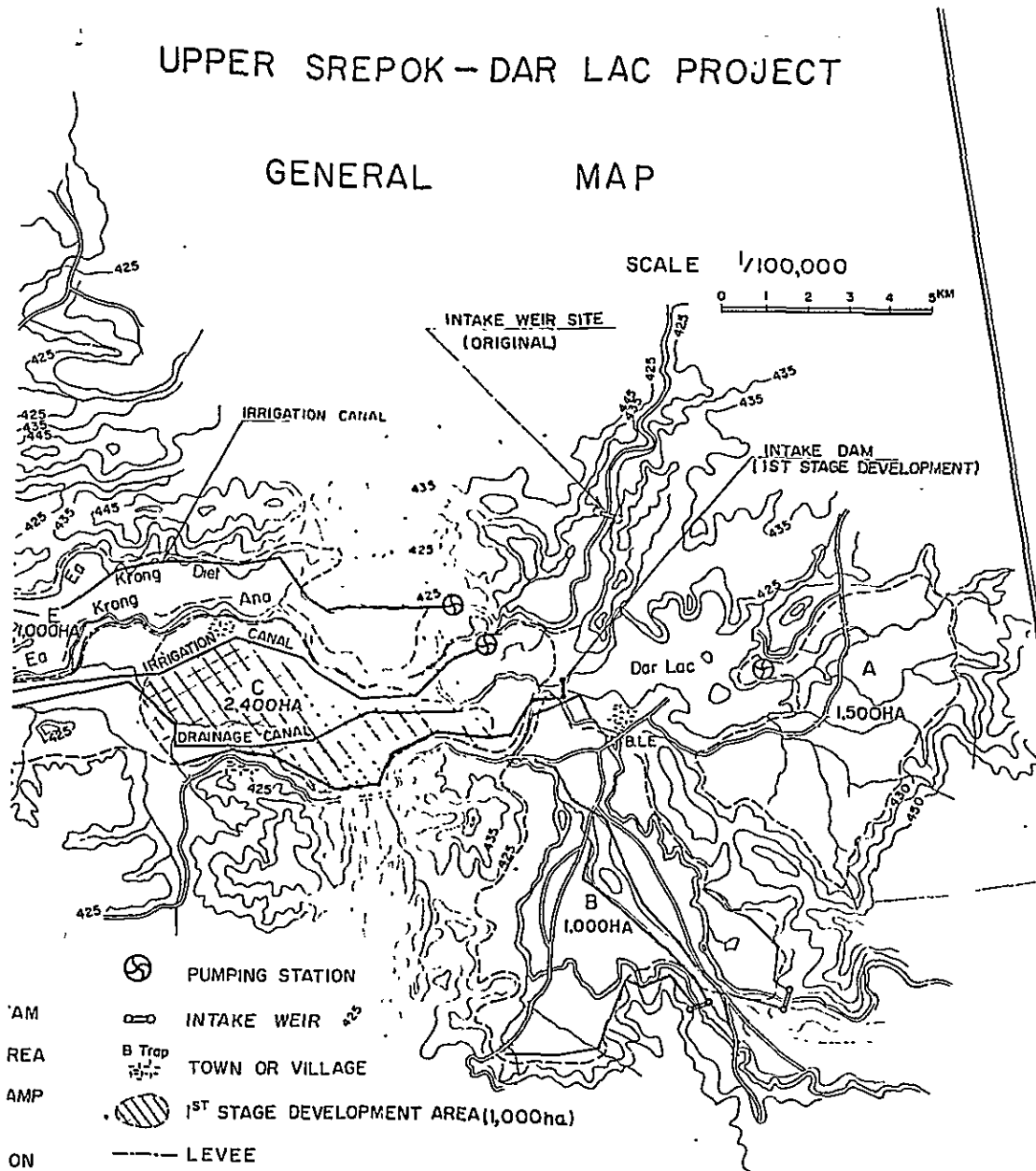
原 名 Ministere des Offaires Rurales

やく名 農 業 省

⑩ 特記事項

UPPER SREPOK - DAR LAC PROJECT

GENERAL MAP



CONTENTS

PREFACE

SUMMARY

CHAPTER I. INVESTIGATION

CHAPTER II. NATURAL CONDITIONS

2.1 Geology and topography

2.2 Soils

2.3 NATURE OF Water

2.4 Climate

2.5 Rivers

2.6 Flood

CHAPTER III. CURRENT STATE OF AGRICULTURE

CHAPTER IV. DEVELOPMENT PLAN FOR DARLAC BASIN

4.1 Examination of original plan

4.2 Irrigation scheme

4.3 Drainage scheme

4.4 Agricultural development

CHAPTER V. CONSTRUCTION COST

CHAPTER VI. BENEFIT AND EVALUATION

6.1 Benefit

6.2 Evaluation

6.3 Financial arrangement and repayment schedule

CHAPTER VII. CONCLUSION AND RECOMMENDATION

Report
on the Krong Buk Irrigation Project
in the Upper Srepok Basin 1964
Table of Contents

Preface

Summary and conclusion

Chapter I. GENERAL DESCRIPTION

- 1.1 Upper Srepok Basin
- 1.2 Prior investigation and report
- 1.3 Krong Buk Basin

Chapter II. NATURAL CONDITIONS OF THE PROJECT AREA

- 2.1 Present conditions and need for agricultural development in the whole Upper Srepok area
- 2.2 Present conditions of the Krong Buk area
 - 2.2.1 Present conditions of agriculture
 - 2.2.2 Soils

Chapter III. PROVISIONAL DEVELOPMENT PLAN FOR THE ENTIRE UPPER SPREPOK BASIN

Chapter IV. HYDROLOGIC STUDIES

- 4.1 Period of record
- 4.2 River runoff and available discharge

Chapter V. DEVELOPMENT PLAN

- 5.1 Development area
- 5.2 Prospective irrigation farming
- 5.3 Water requirements

- 5.4 Irrigation headworks and method of water conveyance
 - 5.3.1 Lower Krong Buk area
 - 5.4.2 Upper Krong Buk area
- 5.5 Cost estimate
- 5.6 Benefit
 - 5.6.1 Direct benefit of irrigation
 - 5.6.2 Benefit of flood control
- 5.7 Project feasibility

Chapter VI. FUTURE DEVELOPMENT

- 6.1 Irrigation
- 6.2 Power generation

Chapter VII. CONCLUSIONS AND RECOMMENDATIONS

**Report
on the Upper Krong Buk Irrigation Project
of the Upper Srepok Basin**

Table of Contents

Preface

PART I

UPPER KRONG BUK DEVELOPMENT SCHEME

Summary and Conclusion

CHAPTER I. INTRODUCTION

- 1.1 Purpose and Scope of Work
- 1.2 Previous Report
- 1.3 Need of Future Studies and Investigations

CHAPTER II. GENERAL DESCRIPTION

- 2.1 Whole Upper Srepok Project Area
- 2.2 Upper Krong Buk Basin

CHAPTER III. BASIC STUDIES

- 3.1 Water Studies
 - 3.1.1 Hydrologic record
 - 3.1.2 River run-off and available discharge
- 3.2 Agricultural Studies
- 3.3
 - 3.2.1 General
 - 3.2.2 Climate
 - 3.2.3 Present agriculture
 - 3.2.4 Soil conditions
 - 3.2.5 Standard farm on upland
 - 1) Land use
 - 2) Adapted crops and cropping pattern

- 3) Adapted livestock
- 4) Adapted fertilization
- 5) Regulation of soil moisture level
- 3.2.6 Anticipated increase in farm production
- 3.2.7 Anticipated increase in gross value of farm products
- 3.3 Net Farm Income on a Standard Farm
- 3.4 Primary Benefit due to Irrigation Farming on a Standard Farm

CHAPTER IV. IRRIGATION

- 4.1 General
- 4.2 Water Requirements
- 4.3 Design of Reservoir
 - 4.3.1 Irrigation net water requirements
 - 4.3.2 Effective rainfall on farmland
 - 4.3.3 Annual water requirement
 - 4.3.3 Annual water requirement
 - 4.3.4 Estimated runoff at the dam site
 - 4.3.5 Calculation of reservoir evaporation and leakage
 - 4.3.6 Calculation of the required storage capacity of the reservoir
 - 4.3.7 Design storage capacity
- 4.4 Irrigation Headworks and Method of Water Conveyance
 - 4.4.1 General
 - 4.4.2 Geology of the dam site and selection of type of dam
 - 4.4.3 Reservoir
 - 4.4.4 Dam and spillway
 - 4.4.5 Outlet works
 - 4.4.6 Canal and lateral
 - 4.4.7 Main structures
 - 4.4.8 Principal features of main facilities
 - 4.4.9 Drainage problem

CHAPTER V. COST ESTIMATE.

- 5.1 Project investment
- 5.2 Construction schedule
- 5.3 Construction cost of the irrigation system
- 5.4 Initial farm investments
- 5.5 Cost for invitation of foreign experts
- 5.6 Annual operation and maintenance cost

CHAPTER VI. BENEFITS AND ECONOMIC EVALUATION

- 6.1 General
 - 6.1.1 Direct benefit of irrigation
 - 6.1.2 Benefit of flood control
 - 6.1.3 Indirect benefit of irrigation
- 6.2 Project Feasibility

CHAPTER VII. FINANCIAL ARRANGEMENT

- 7.1 Anticipated Loan for Initial Investment
- 7.2 Financial Feasibility

CHAPTER VIII. RECOMMENDATIONS

PART II

SUMMARY ON THE OVERALL DEVELOPMENT SCHEME OF THE BASIN

- 1. Project
- 2. Flood Control
- 3. Irrigation
- 4. Power
- 5. Conclusion and Recommendation

調査カード

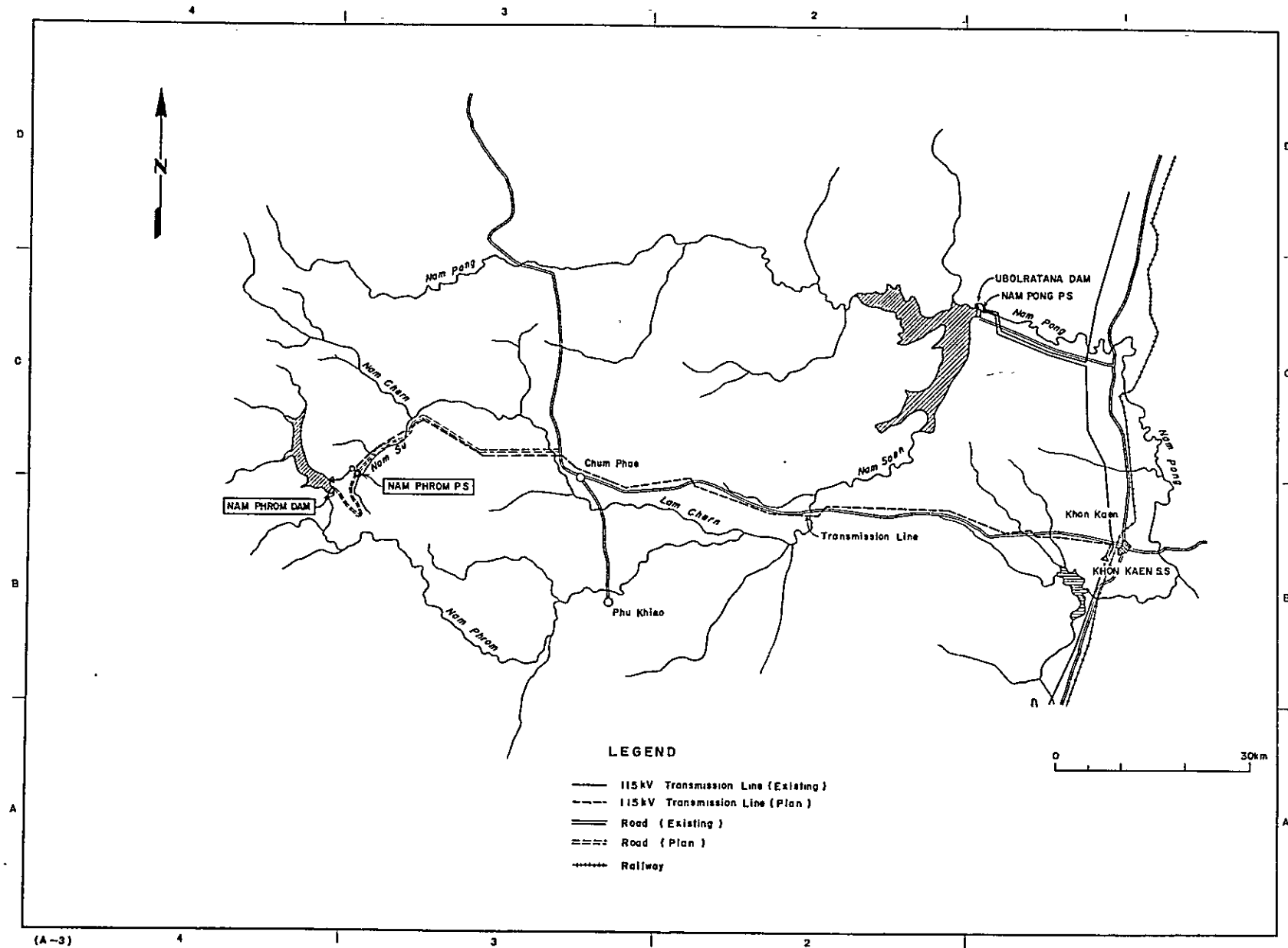
*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.36	② 調査対象プロジェクト名 Nam Phrom	③ 援助国又は機関名 日本	④ 調査年度又は期間(西暦) ⑦ May and Jun. 1966 ⑧ Nov. 1966~ Mar. 1967	⑤ 調査金額円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画		1 名称 Nam Phrom Hydro-lectric Power Project	英 文		段 階 的 分 類	1 (調査の目的) Nam Phrom発電計画のFeasibility 2 (勧告・結論) Nam Phrom発電所はタイ東北地方の電力需要の急増に対応するため有望な地点である。 工事は、1973年までに完了する様、精密設計および資金調達等の準備を早急にすることを勧告する。 3 (主なるバックデーター)
2 主流計画		2 言葉の種類	有			
3 支流計画		3 日本語のほんやく書の有無				
4 舟航その他輸送		4 資金の性質				
5 洪水警報と治水		5 実施機関(コンサルタント名)	OTCA (EPDC)			
6 農業・林業及び漁業		6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード				
7 電力市場 工業 飲物資源		7* O.T.C.A.における資料番号				
8 社会開発と公衆衛生		⑩ 備考	1968年11月最終計画案レポート作成のための契約がNEEAと日本電源開発KKとの間で締結された。又工事は1970年1月着工した。			
9 運用資金		⑪ プロジェクト地点の国名	タイ			
10 管 理		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等	Mar. 1966 NEEAより日本政府に対しUpper Nam Pongの調査依頼 (Nam Phrom と Nam Chern) May and Jun. 1966: reconnaissance investigation, Nam Phromの方が有利であることをRecommend Preliminary Study of Upper Nam Pong Basin Hydro-Electric Project, Sep. 1966			
11 その他		⑬ 調査精度) Feasibility				
⑦ 備考		⑭ 調査評価			方 法 論 的 分 類	1 (調査精度) Feasibility 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要						
(プロジェクトの種類番号)					1 実態調査	
(プロジェクトの概要)					2 水文観測	
Nam Phromを堰止め、Nam Chernの一支流Huai Nam Suへ流向変更し、高さ71mのロックフィルダムを建設し、139百万m ³ の有効貯水量と370mの有効落差のある貯水池を構築する。 第1期発電容量34(40)MWで54(80)MWまで拡大する。 ⑬ ()内数字はDefinite Studyの結果変更したもの。					3 地質調査	
					4 地図作製	
					5 実態解析	
					6 水文解析	
					7 地質	
					8 地形	
					9 統計調査	
					10 開発計画(提案)	
					11 土木施設の設計	
					12 詳細	
					13 概略	
					14 経済予測	
					15 産業開発計画	
					16 社会開発計画	
					17 モデルファーム	
					18 その他	

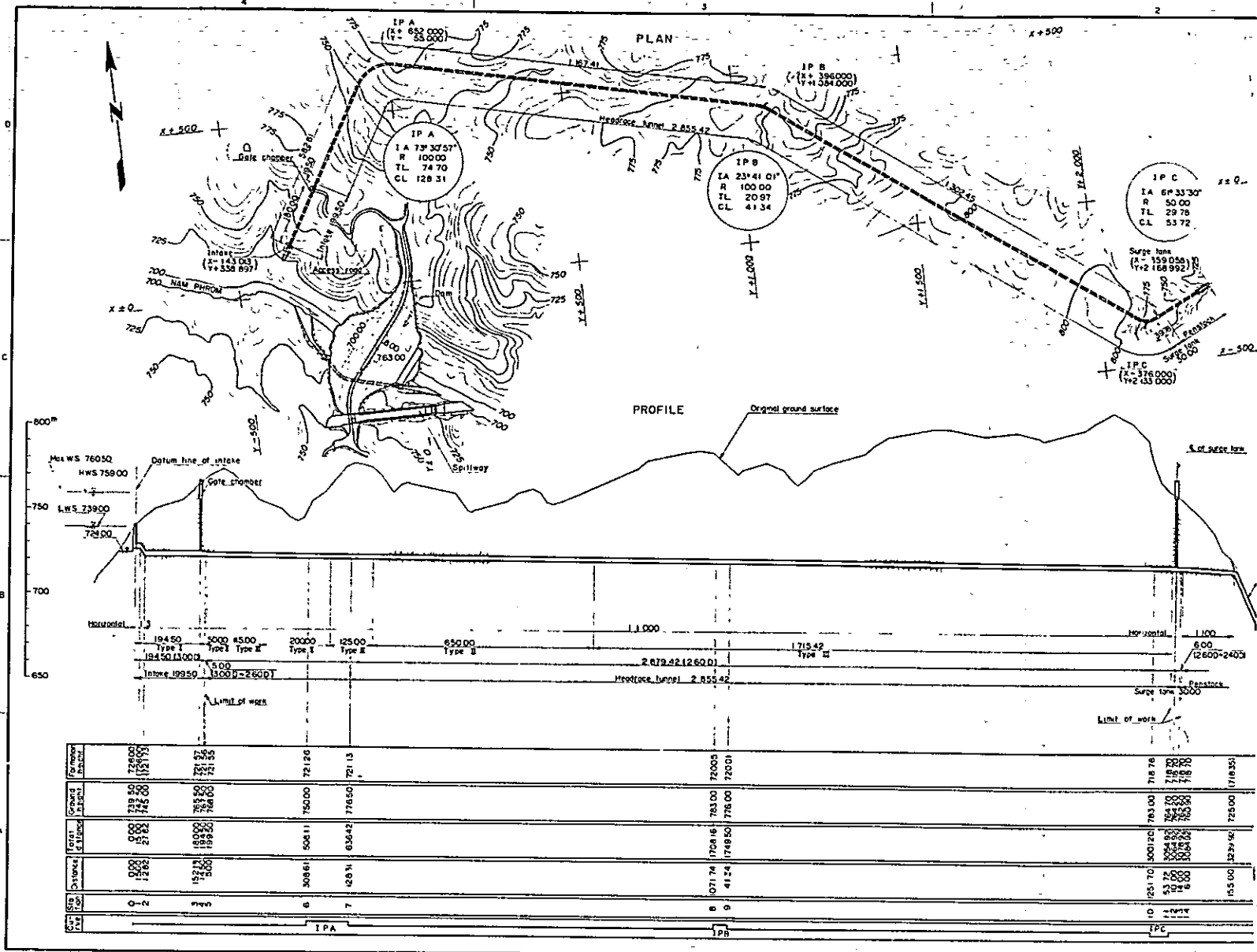
⑩ 調査報告書の概要																														
(原語)	(日本語)																													
1. (報告者名) <u>Nam Phrom Hydro - Electric Power Project</u>																														
2. 調査総括責任者氏名と地位	電源開発KK 海外技術協力部 渡辺 宏																													
3. (報告書の主な項目についての説明 — 主として目次による)																														
(項目)	(内容についての概要)																													
3.1 Market Survey and Load Forecast	1971年にはYEA系統とNEEA系統は連繫されるがNEEA系統の需要増加の割合から見て1974年にはYEA系統からの送電量がNEEA系の予備力を上回ることになるので、この時点では新設供給源が必要となる。																													
3.2 Scheme of Development	Dam地点は伏補地が2ヶ所あるが検討した結果では上流の方が可い。開発の規模は1955年より11ヶ年の資料により(CA 545 km ² Annual Inflow 170×10 ⁶ m ³) 次のものが最も経済的であると判定される。																													
3.3 Power Production	<table border="0"> <tr><td>Effective Storage Capacity</td><td>140×10⁶ m³</td></tr> <tr><td>HWSL</td><td>759m</td></tr> <tr><td>Drawdown</td><td>20m</td></tr> <tr><td>Power Discharge</td><td>171m³/S</td></tr> <tr><td>Net Head</td><td>391m</td></tr> <tr><td>Out Put</td><td>54MW</td></tr> <tr><td>Firm Energy</td><td>149×10⁶ KWh</td></tr> </table>	Effective Storage Capacity	140×10 ⁶ m ³	HWSL	759m	Drawdown	20m	Power Discharge	171m ³ /S	Net Head	391m	Out Put	54MW	Firm Energy	149×10 ⁶ KWh															
Effective Storage Capacity	140×10 ⁶ m ³																													
HWSL	759m																													
Drawdown	20m																													
Power Discharge	171m ³ /S																													
Net Head	391m																													
Out Put	54MW																													
Firm Energy	149×10 ⁶ KWh																													
3.4 Preliminary Design	<table border="0"> <tr><td>Dam Type</td><td>Rockfill</td></tr> <tr><td>Crest Length</td><td>670m</td><td>Height : 71m</td></tr> <tr><td>Level of Crest</td><td>763m</td><td></td></tr> <tr><td>Volume</td><td>1570×10³ m³</td><td></td></tr> <tr><td>Spillway</td><td>1,500m²/S</td><td></td></tr> <tr><td>Equipments</td><td>Turbine 18.7MW×3</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>Generator 21,000KVA×3</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>Transformer 21,000KVA×3</td><td></td></tr> <tr><td>Transmission Line</td><td>135 km</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>115KV 1cct</td><td></td></tr> </table>	Dam Type	Rockfill	Crest Length	670m	Height : 71m	Level of Crest	763m		Volume	1570×10 ³ m ³		Spillway	1,500m ² /S		Equipments	Turbine 18.7MW×3			Generator 21,000KVA×3			Transformer 21,000KVA×3		Transmission Line	135 km			115KV 1cct	
Dam Type	Rockfill																													
Crest Length	670m	Height : 71m																												
Level of Crest	763m																													
Volume	1570×10 ³ m ³																													
Spillway	1,500m ² /S																													
Equipments	Turbine 18.7MW×3																													
	Generator 21,000KVA×3																													
	Transformer 21,000KVA×3																													
Transmission Line	135 km																													
	115KV 1cct																													
3.5 Cost Estimate	481×10 ⁶ バツ(貸 274.4×10 ⁶ バツ)																													
3.6 Economic Justification	B/C=1.16 (i=Foreign Currency 4.5% Domestic 6.0%)																													
その他	Nam Chern下流で雨期10000ha、乾期5000haに用水補給が出来又Nam Prom下流の洪水もコントロール出来る。																													

⑪ 調査地域概略図		
日本が行ったものについて記入すべき事項		
(調査団の編成と調査期間)		
団員氏名	格付 担当業務 職(当時) 脚 出	
渡辺 宏	土木	May~Jun '66 Jan~Mar '67
橋本 龍男	,	May~Jun '66 Jan~Mar '67
萩原 信也	,	Nov '66~Mar '67
佐野 嘉信	,	Jan ~ Mar '67
森田 武俊	地質	
白川 晋郎	電気	Feb ~ Mar '67
⑫ 相手国の受入態勢		
1. 受入機関名	2. 要請した便宜供与	3. 便宜供与の実績
原 名	North-East Electricity Authority (現 Electricity Generating Authority Thailand)	
やく名	NEEA	
⑬ 特記事項		NEEAは69.5月YEAおよびLAと合併EGATと改称



(A-3)

(1) プロジェクトの分類	支 流	(9) 事業の概要	(10) 関係図面 適当な縮尺にて次の図面を添付 ○ 一般平面図 ○ プロジェクト平面図 (主なる構造物の配置図) ○ 構造図・(主なる) ○ 特に必要と思われる図面	
(2) 開発事業の名称 (プロジェクト名)	Nam Phrom Hydro Electric Project			事業規模 (内容) 主なる項目について
(3) 事業の前提となった 調査のカード番号				Feasibility Report のあと変更された事項次のとおり Reservoir : MWS L 7605m HWS L 759 m Total Storage Capacity 188×10 ⁶ m ³ Effective Storage Capacity 1445×10 ⁶ m ³ (Drawdown 20m)
(4) 事業が実施された国名	Thailand			Dam : Rockfill Type Height, Crest Length 73m, 700m Volume 1,670,000m ³ Spillway 1,000m ² /S (2 Gate)
(5) 工事中, 完成の別	工 事 中			Intake max 26.6m ³ /S Headrace 3,085m Penstock 1,556.7m Power house 11,828m ² Electric Equipment 21000kw×2 Max Discharge 6.7m ³ /unit Transformer 22500KVA×2
(6) 完成予定期日	Jul. 1972 運開 Sep. 1972			
(7) 建設資金の種類, 金額, 年度別		事業効果	(11) 特記事項	
(種類)	(金額)			(年度別)
自 国 国 連 援助国 世 銀 アジ銀 その他	着工 Jun. 1970 不明 387,977×10 ³ バーツ (Definite Plan)			(1) (II) (III)
(8) 実施に関係するコンサルタント				
国 名	日 本			
コンサルタント会社名	EPDC			
役割り	設計, 監理			



Sta.	Distance	Level of Intake	Ground Level	Formation Level
0+00	0.00	728.00	728.00	728.00
0+50	50.00	728.00	728.00	728.00
1+00	100.00	728.00	728.00	728.00
1+50	150.00	728.00	728.00	728.00
2+00	200.00	728.00	728.00	728.00
2+50	250.00	728.00	728.00	728.00
3+00	300.00	728.00	728.00	728.00
3+50	350.00	728.00	728.00	728.00
4+00	400.00	728.00	728.00	728.00
4+50	450.00	728.00	728.00	728.00
5+00	500.00	728.00	728.00	728.00
5+50	550.00	728.00	728.00	728.00
6+00	600.00	728.00	728.00	728.00
6+50	650.00	728.00	728.00	728.00
7+00	700.00	728.00	728.00	728.00
7+50	750.00	728.00	728.00	728.00
8+00	800.00	728.00	728.00	728.00
8+50	850.00	728.00	728.00	728.00
9+00	900.00	728.00	728.00	728.00
9+50	950.00	728.00	728.00	728.00
10+00	1000.00	728.00	728.00	728.00

ELECTRICITY GENERATING AUTHORITY OF THAILAND

NAM PHROM PROJECT
HEADRAGE TUNNEL
PLAN, PROFILE AND SECTIONS

ELECTRIC POWER DEVELOPMENT CO., LTD.
(E.P.D. COMPANY) *State-owned*

1-0-500 *Scale*
1-0-500 *Scale*
1-0-500 *Scale*

1:3-04-00-001A JUN 31 69

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5-37	② 調査対象プロジェクト名 Nam Chern	③ 援助国又は機関名 日本	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 Nam Chern Hydro Electric Power Project 2 言葉の種類 英文 3 日本語のほんやく書の有無 有 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) OTCA (EPDC) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			段階的 分 類 方 法 論 的 分 類	1 (調査の目的) Nam Chern発電計画のFeasibilityの実証 2 (勧告・結論) Nam Prom Projectと比較すると経済性が劣るのでNam Prom地点の開発後電力需要の増加に応じて開発される地点である。 3 (主たるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考 Nam Prom Projectと同時に調査された。				⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等		
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) Nam Pongの支流Huai Chanに高さ36mのロックフィルダムを構築し、有効貯水量410万m ³ Nam Chernとの落差、約390mによって15Mwの発電(年間4万kWh)を行なう。		1 Nam Promと同じ 2 3		1 詳細概略 2 経済予測 3 産業開発計画 4 社会開発計画 5 モデルファーム 6 その他		

00 調査報告書の概要	
(原語)	(日本語)
1 (報告者名)	<u>Nam Chern Hydn-Electric Power Project</u>
2 調査総括責任者氏名と地位	電源開発院 海外技術協力部 渡辺 宏
3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)	
(項目)	(内容についての概要)
3.1 3 Load Forecast	NEEA 系統は YEA 系統と連繫されるが 1974 年になると YEA からの送電量が NEEA 系の予備力を上廻るので、この時点で新規供給源が必要となる。
3.2 7 Power Production	1954 年より 13 ヶ年の流量記録 (CA: 158 Km ²) により貯水池の最適規模が検討された。その結果貯水池有効容量 $4.1 \times 10^6 m^3$ とするのが Annual Curplus Benefit, 最大、Energy Cost 最小となる。 Discharge 5 m ³ /s Net Head 375 m Out Put 15 MW (Dependable Peak 14.5MW) Firm Energy $40 \times 10^6 kWh$
3.3	
8 Preliminary Design	Dam Type Rockfill Crest Length 4090 m Level of crest 776 m (Height 36 m) Volume 284,000 m ³ Spillway 435 m ³ /s Equipment Turbin 16MW × 1 Generator 18,000kW × 1 Transformer 18,000kVA × 1 Transmission Line Length 135 km 115 KV 1cct
9 Construct on Cost	CaseC: 139800×10^3 パーフ (Ham Prom が共通費負担) CaseB: 150500×10^3 パーフ (共通費を Nam Prom とプロジェクト)
10 Economic Justification	CaseC: 105 CaseB: 0.97

01 調査地域概略図		
別紙		
02 日本が行ったものについて記入すべき事項		
(調査団の編成と調査期間)		
員氏名	格付 担当業務 職(当時) 期間	
Nam Prom Project になし		
03 相手国の受入態勢		
1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原 名	<u>Noeth-East Electricity Authority</u>	
やく名	<u>NEEA(現在 EGAT)</u>	
04 特記事項		

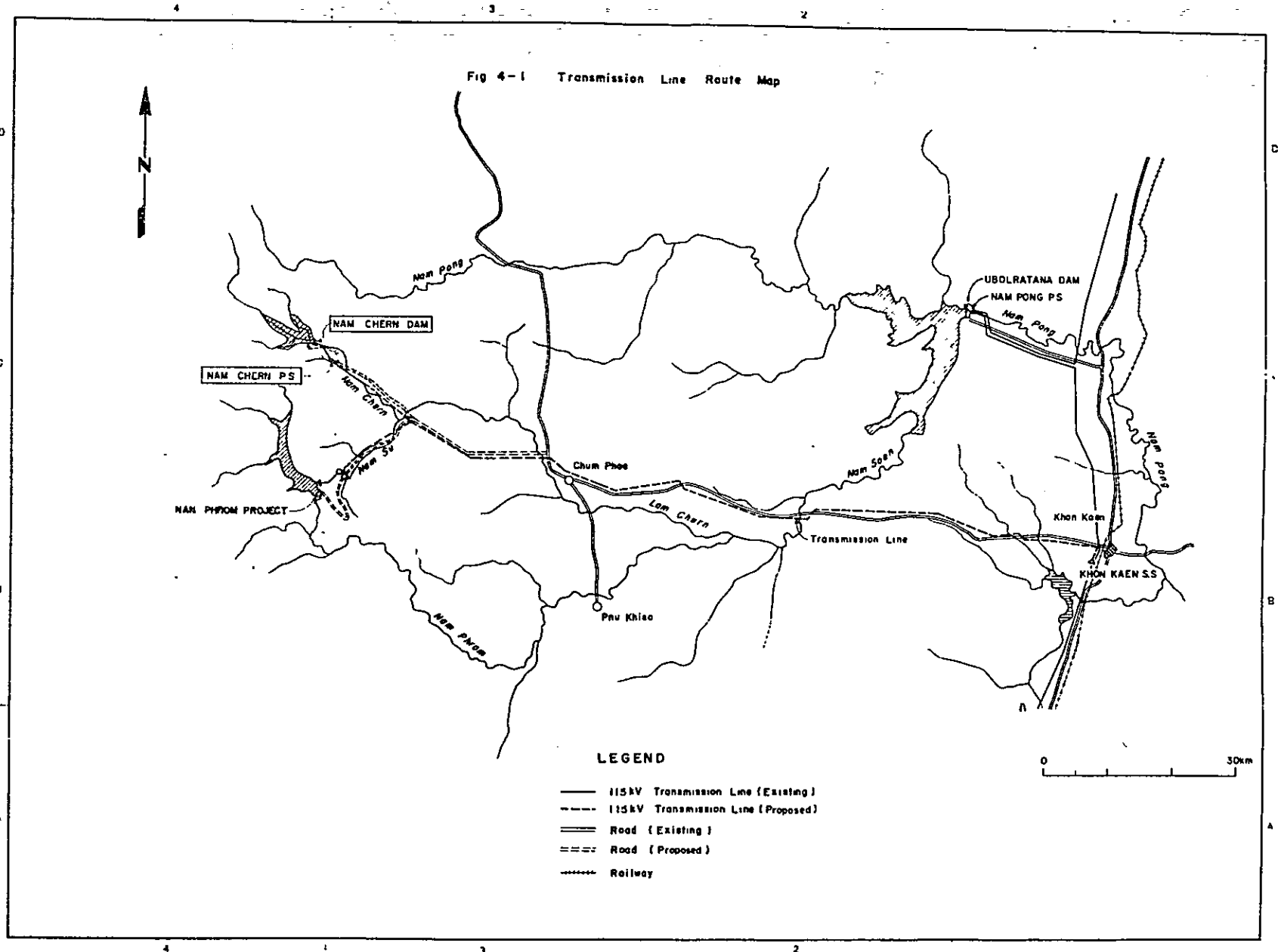
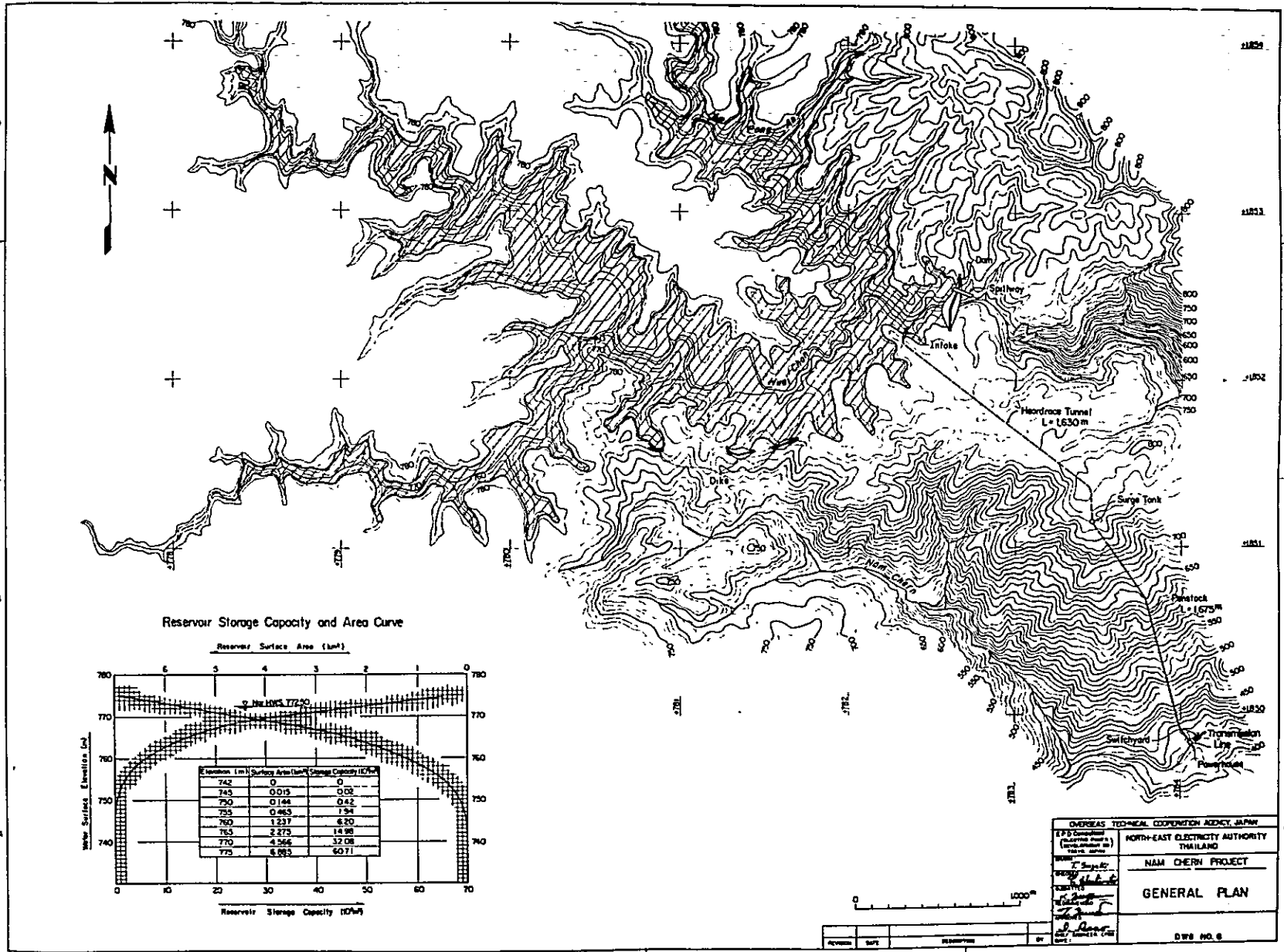
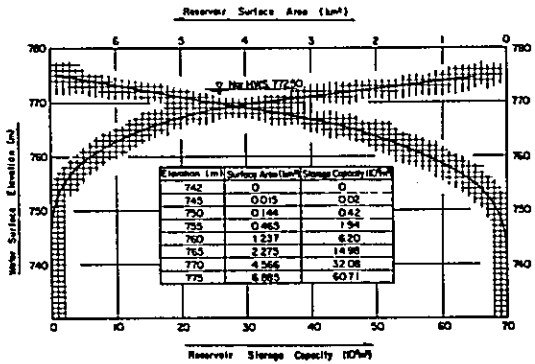


Fig.4-1 Transmission Line Route Map



Reservoir Storage Capacity and Area Curve



OVERSEAS TECHNICAL COOPERATION AGENCY, JAPAN

E.P.D. Consultant
(Incorporated in Japan)
1-1-1, Higashi-Shinjuku, Shinjuku-Ku, Tokyo, Japan

PROJECT: NAM CHERN PROJECT

GENERAL PLAN

DWG NO. 6

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.38	② 調査対象プロジェクト名 スタン・チニット開発事業	③ 援助国又は機関名 メコン委員会, OTCA	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968.2~1969.11	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑦ 報告書の構成等	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他					1 名称 Report on the Stung Chunit multipurpose Development Project 2 言葉の種類 英語 3 日本語のほんやく書の有無 有 4 資金の性質 日本政府資金 5 実施機関(コソナルタント名) OTCA (三崎コンサルタンツ・インターナショナル) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号	
⑦ 備考					⑧ 備考	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要					⑨ プロジェクト地点の国名 カンザディア	
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) △ブナム・タコ(Phnom Takho)ダム建設により、25400ヘクタールのかんがい、4500 kWの発電、現在700ヘクタールの洪水面積が390ヘクタールになり、さらに漁業の便益も見込まれる。 △雨季、乾期の二毛作が可能になり、単位収量平均108トン/ヘクタールは313トン/ヘクタールになり、年間便益は\$3,078千に達する。					⑩ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 太朗(Grandlac)北方地域予備調査は、1966年から67年にかけてメコン委、OTCAとの合同チームで行われ、北方地域の主要支流チニット河のフィジビリティ調査を実施するよう勧告した。 2 メコン委作成による運営計画は、メコン沿岸4カ国、メコン委、日本政府により承認され(1968.1)、1968.2にOTCAの編成する調査団による最初の調査が開始された。 3	
					⑩ 性格的区分(○印を記入)	
					⑪ 内容説明	
					1 調査目的 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)	
					⑫ 調査評価	
					1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
					1 実態調査 2 実態解析 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設設計 6 経済予測 7 産業研究計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他(洪水調節・漁業)	

09

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) Report on the Stung Chhnit multipurpose Development Project ナユット河開発計画報告書
- 2 調査総括責任者氏名と地位 福田 仁志 東大名誉教授・三船コンサルタンツ顧問 (団長)
- 3 (報告書の手続き項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

- 3.1 Project Area (事業地域) 地形、気候、地質、水文、土壌、土地利用と土地所有状況、水利用、農産物(米生産高、単位収量)、電力、漁業、舟航
- 3.2 Project Plan (事業計画) 事業の問題と必要性、農業開発、電力開発、漁業開発、洪水調節、舟航、投下資本額、工程計画、普及農場および農村共同体発展計画、予想便益
- 3.3 Economic Justification and Financial Program (経済妥当性及び資金計画) 経済評価上の仮定と方法、コスト・アロケーション、年間費用と年間便益、部門別経済評価(農業B/C比206、電力B/C比113、漁業B/C比150、洪水調節B/C比170)、内部収益率6.7%(全部門平均)、事業費(利子含む)は\$28,576千(内体費は約\$15,000千)で30年均等償還
- 3.4 Conclusion and Recommendations (結論及び勧告) △かんがい可能面積25,400ヘクタール
△電力(4,500kW)、洪水調節、漁業便益
△中小規模で着手が容易
△地域開発の意義が大きい。
△普及農場および農村共同体発展計画の早期実現を期している。

⑩ 調査地域概略図

(別紙)

08

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
福田 仁志	団長	総括・計画	東大名誉教授・三船顧問	1968. 2~1969.11
高 嶺 進	副団長	グ ム	三船コンサルタンツ取締役	1968. 3~1969. 5
川 合 尚	団員	計画・水文	主任技師	1968. 2~1969.11
久 保 清 昭	"	農 業	"	1968. 3~1969.11
岡 島 正 男	"	農 業 経 済	"	1969. 1~1969. 4
吉 川 満	"	地 質	"	1968. 4~1968. 5 1969. 1~1969. 4
太 田 邦 雄	"	かんがい・排水	技 師	1968. 3~1969.11
飯 伊 好 弘	"	"	技 師 補	1968. 3~1968. 5
磯 村 勝 洋	"	"	"	1968.10~1968.11 1969. 2~1969. 5
渡 辺 雄 二 郎	"	電 力	計画課長(嘱託)	1968. 3~1968. 5
後 本 尚	"	"	電気課長()	1969. 1~1969. 4

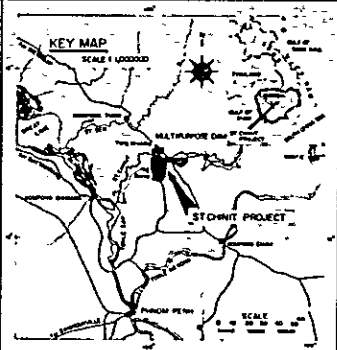
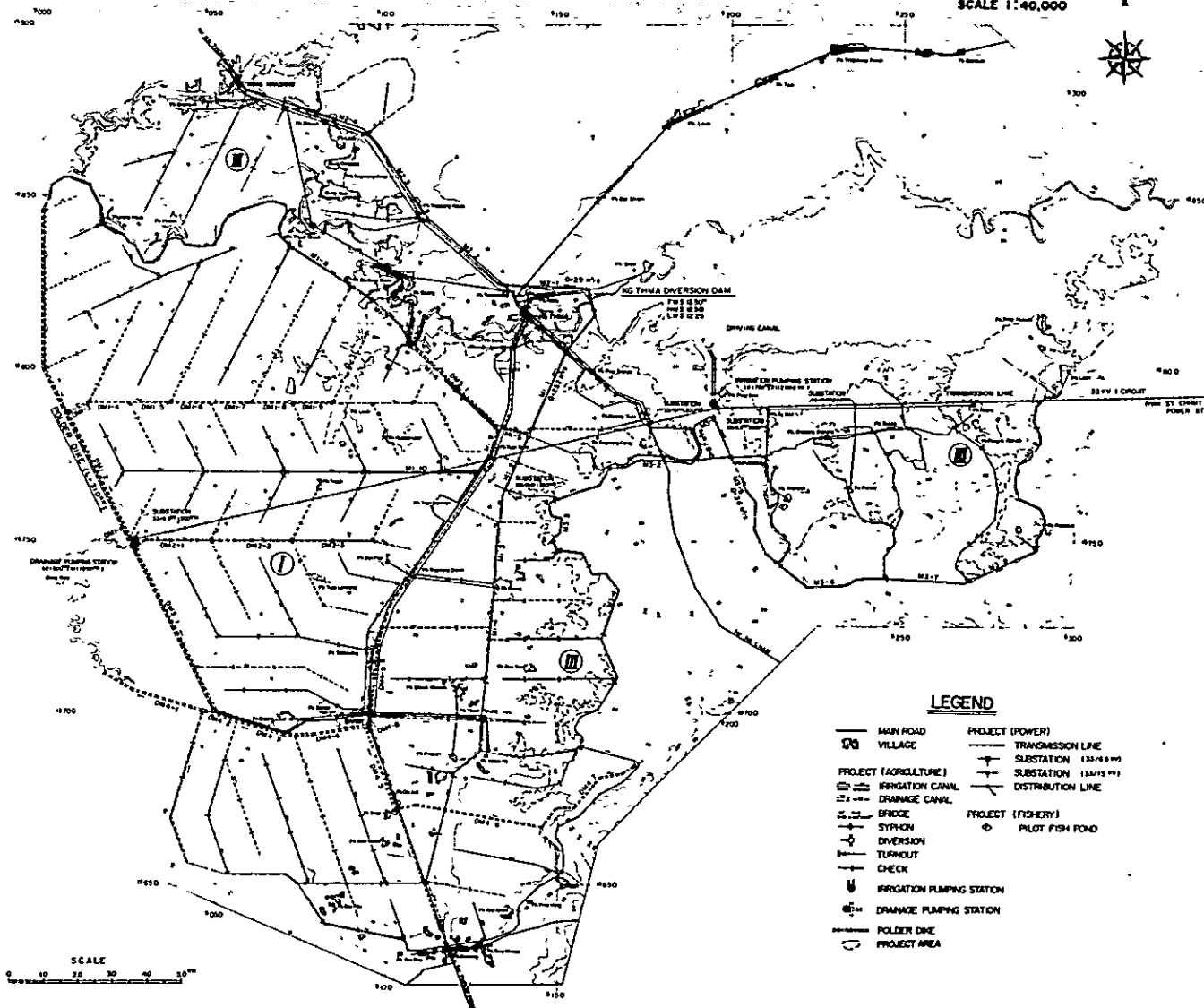
⑪ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績
- 原 名 ministry of Public Works
- やく名 公共土木省

⑫ 特記事項

GENERAL PLAN OF THE STUNG CHINIT MULTIPURPOSE PROJECT

SCALE 1:40,000



ITEM

MULTIPURPOSE DAM	
TYPE	COMBINED TYPE
DAM HEIGHT	21.7 ^m
DAM LENGTH	107.6 ^m
EFFECTIVE RESERVOIR CAPACITY	370 ⁰⁰⁰ m ³
TOP WATER LEVEL	EL. 31.20 ^m
LOW WATER LEVEL	EL. 25.50 ^m
DESIGNED FLOOD DISCHARGE	560 ⁰⁰⁰ m ³ /s

AGRICULTURE	
PROJECT AREA	
①	15,350 ⁰⁰⁰ m ²
②	2,450 ⁰⁰⁰ m ²
③	7,600 ⁰⁰⁰ m ²
TOTAL	25,400 ⁰⁰⁰ m ²
IRRIGATION CANAL	L=288.70 ^m Q _{max} =30.4 ^{m³/s}
DRAINAGE CANAL	L=160 ^m
FOLDER DINE	L=31 ^m
DIVERSION DAM	
TYPE	ROLLER GATE TYPE
HEIGHT AND LENGTH	6.5 ^m x 20 ^m x 2
MAXIMUM INTAKE WATER	2.61 ^{m³/s}
IRRIGATION PUMPING STATION	1 ST
DRAINAGE PUMPING STATION	1 ST
LAND RECLAMATION	4,700 ⁰⁰⁰ m ²

POWER	
HYDROELECTRIC POWER STATION	1 ST
MAXIMUM POWER OUTPUT	4,500 ^{kw}
ANNUAL POWER DELIVERY	22,600 ^{kw-hr}
A.C. GENERATOR HORIZONTAL SYNCHRONOUS	
	2 UNITS
WATER TURBINE HORIZONTAL KAPLAN	
	2 UNITS
TRANSMISSION LINE	33 ^{kv} L=45 ^{km}
SUBSTATION	5 ST

FISHERY

PILOT FISH POND	3 ST
-----------------	-----------------

LEGEND

—	MAIN ROAD	—	PROJECT (POWER)
⊙	VILLAGE	—	TRANSMISSION LINE
▭	PROJECT (AGRICULTURE)	—	SUBSTATION (33/15 kv)
▭	IRRIGATION CANAL	—	SUBSTATION (15/15 kv)
▭	DRAINAGE CANAL	—	DISTRIBUTION LINE
—	BRIDGE	—	PROJECT (FISHERY)
—	SYPHON	⊙	PILOT FISH POND
—	DIVERSION		
—	TURNOUT		
—	CHECK		
—	IRRIGATION PUMPING STATION		
—	DRAINAGE PUMPING STATION		
—	FOLDER DINE		
⊙	PROJECT AREA		

OVERSEAS TECHNICAL COOPERATION AGENCY, JAPAN	
STUNG CHINIT MULTIPURPOSE PROJECT	
GENERAL PLAN	
SANYU CONSULTANTS INTERNATIONAL INC	
SUBMITTED	DATE
APPROVED	DRAWING NO 1

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

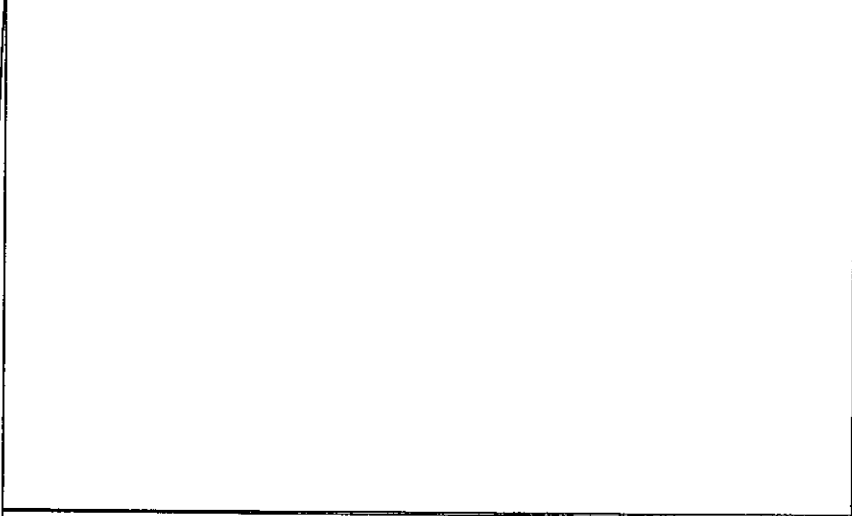
① 調査カード番号 5.40	② 調査対象プロジェクト名 太湖南西岸地域開発事業	③ 援助国又は機関名 メコン委員会・OTCA	④ 調査年度又は期間(西暦) 19682-196911	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにかける資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 2 実態解析 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) △太湖南西岸の開発方式としては貯蓄された支流水をかんがいあるいは発電に利用できる支流計画地域(110,500ヘクタール)、太湖により浸水される地域をガルデーにより防壁し開発を進める輪中計画地域(200,000ヘクタール)とがある。 △支流計画のうちプルサット計画(45,000ha)とモンコン・ボレイ計画(43,000ha)が最も有望であり、輪中計画ではA地区を削いでみな有望である。(General map参照)		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア				5 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 1966年12月に、メコン委事務局とOTCAの専門家からなる合同チームにより、太湖北方地域予備調査が実施され、太湖南方域の予備調査を行うべきという勧告がなされた。 2 1967年8月日本政府はメコン委に対し、太湖南西岸の多目的開発に関する予備調査を実施する旨申し入れた。 3 1968年3月に予備調査が開始された。				

16 調査報告書の概要

(原語) (日本語)
 1 (報告者名) Report on the Reconnaissance Survey of the Multipurpose Development on the Area S-W of the Great Lake 太湖南西岸地域予備調査報告書
 2 調査総括責任者氏名と地位 福田仁志 東大名誉教授・三祐コンサルタンツ顧問(団長)
 3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

項目	(内容についての概要)
3.1 Present Status and View of Development (現況と開発の必要性)	太湖南西域は、シノフォン河、モンコル・ボレイ河、サンク河、ブルサット河の4大河川をもつが、その各々について農業、電力、漁業、舟航の各分野に亘って検討されている。
3.2 Tributary Projects (支流開発計画)	その結果、バリボウ河計画、コンボン・ラ河計画、ブルサット河計画、ダウン・トリ河計画、モンコル・ボレイ河計画、シノフォン河計画が採り上げられている。
3.3 Forder Projects (輪中開発計画)	パッチンハンおよびブルサット州の2州に亘り、全地域を7地区に(A~G)に分けられ、地形、土壌、水文、土地利用と作付計画、かんがい排水計画について検討されている。
3.4 Conclusion and Recommendations (結論と勧告)	△支流計画のうち、43,000ヘクタールのブルサット計画(内部収益率IRR7~8%)と45,000ヘクタールのモンコル・ボレイ計画(IRR7~8%)が、肥沃な土壌と比較的安い工事費(それぞれ871本/ha)により有望である。 △輪中計画ではA地区は土壌が比較的肥沃でなく、便益はいく分低い、他はすべて有望である。 △ブルサット計画およびモンコル・ボレイ計画のフィージビリティ調査、研究の早期実現と、上記計画と同時か少しあとに、1つないし2つの輪中地域(D+E, F+Gあるいは2つ共)のフィージビリティ調査・研究がなされることの勧告が行なわれている。

17 調査地域概略図



18 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

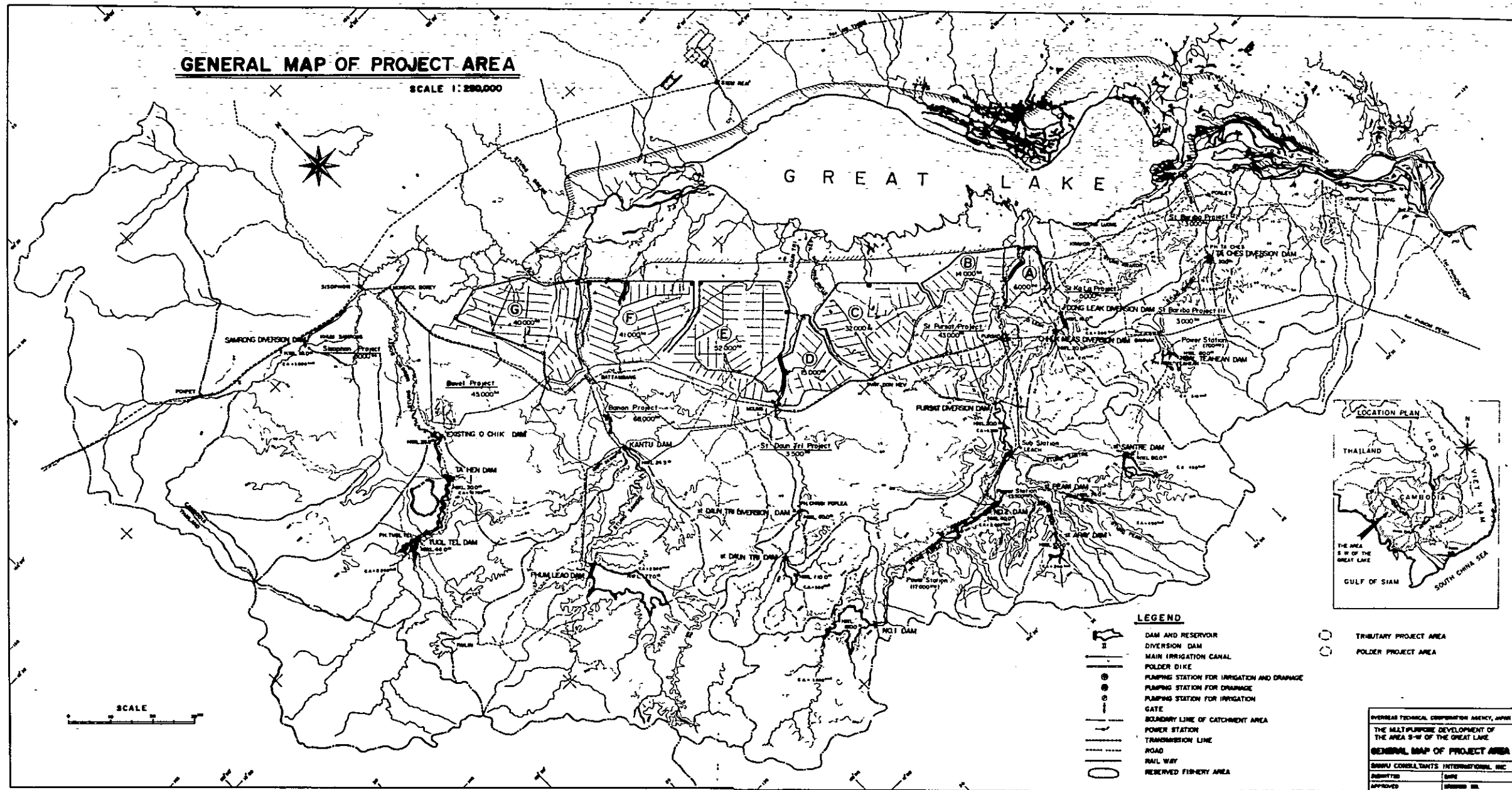
団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
福田仁志	団長	総括・計画	東大名誉教授・三祐顧問	1968.2~1968.3 1969.1~1969.4
高嶺進	副団長	ダム	三祐コンサルタンツ取締役	1968.3~1968.5
川合尚	団員	計画・水文	主任技師	1968.2~1969.11
久保清昭	"	農業	"	1968.3~1969.11
岡島正男	"	農業経済	"	1969.1~1969.4
太田邦雄	"	かんがい・排水	技師	1968.3~1969.11
吉川 誠	"	地質	主任技師	1968.4~1968.5 1969.1~1969.4
飯田 将弘	"	かんがい・排水	技師補	1968.3~1968.5
磯村勝洋	"	"	"	1968.10~1968.11 1969.2~1969.5
渡辺雄二郎	"	電力	計画課長(嘱託)	1968.3~1968.5
橋本 尚	"	"	電気課長()	1969.1~1969.4

19 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 Ministry of Public Works
 やく名 公共土木省

20 特記事項



調査コード

*コード番号

① 調査カード番号		② 調査対象プロジェクト名		③ 援助国又は機関名		④ 調査年度又は期間(西暦)		⑤ 調査金額円又はドル	
		My Thuan 橋梁		日本・米国		1967~1968		US\$ 199,726	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)				⑦ 報告書の構成等					
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他				1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタンツ名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにかける資料番号		Design Report on my-Thuan Bridge Project 英語 無 日越賠償 日:日本工営 米: Kingard Gaevis -PERIL			
⑧ 備考				⑨ 備考 日本工営とパンフィック・コンサルタンツの共同で行ない、現地調査報告書仕上げは日本工営、設計はパンフィックという分担。					
⑩ 調査対象プロジェクトの概要				⑪ プロジェクト地点の国名		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) ノコンデルタ地域の My Thuan に Long-soan 橋を建設し、首都サイゴンとデルタ地域の交流を盛んならしめ、社会的、経済的開発に寄与しようとするもの。併せて 4.5 m の Navigation Clearance で以つて、船舶の航行にも支障なきように計画してある。				ヴィエトナム		ノコンデルタは、当国でも最も人口稠密 1 且つ当国の米生産の半分を負っている程豊饒な地域であるが、My Thuan はメコン河畔にあつて首都サイゴンとデルタを結ぶ 2 交通の要衝となつており、本地点に架橋することの便益は固り知れず、ベトナム政府は日本の賠償資金による調査を依頼してきた。			
調 査 内 容									
⑬ 性格的分類(○印を記入)					⑭ 内 容 説 明				
段 階 的 分 類	1 踏査				1 (調査の目的) 架橋の経済性と目的から High-Level, Low-Level の両案を樹て、比較検討したる後、最適 Type を選択し Feasibility study をし Recommend すること。				
	2 予備調査				2 (勧告・結論) 桁高 4.5 m 桁幅 11.0 m の固定型橋梁総費用 1.6 百万米ドル、(後修正約 2.0 百万米ドル)				
方 法 論 的 分 類	3 フィンビリティ調査				3 (主なるバックデータ)				
	4 実施調査	○			4 (その他特記事項)				
	5 その他				⑮ 調 査 評 価				
	1 実態調査				1 (調査精度)				
	2 実態解析				2 (技術水準)				
分 類	水文観測	○			3 (用いられた主なる理論・公式)				
	地質調査	○			4 (技術的特色)				
	地図作製	○			5 (調査効果)				
	3 統計調査								
	4 開発計画(提案)								
	5 土木施設の設計								
	6 経済予測								
	7 産業開発計画								
	8 社会開発計画								
	9 モデルファーム								
10 その他									

39 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) Mekong Crossings, Engineering and Economic Feasibility Study.

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

項目	(内容についての概要)
3.1	日本工営の Design Report on my-Thuan Bridge Project
3.2	については 別紙
3.3	

40 調査地域概略図

別紙

48 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

員氏名	格付	担当業務	職(当時)	印 商
石井 謙	(日本工営)			
山口 正史	(")			
岩淵 和世	(")			
河野 康雄	(PCKK)			
中野 博孝	(")			

49 相手国の受入態勢

1 受入機関名 Highway Department 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 Ministry of Public Works and Communications

やく名 公共事業省道路局

50 特記事項

**DESIGN REPORT
OF
THE MY-THUAN BRIDGE PROJECT**

ARTICLE	CONTENTS
SUMMARY	
1.	Project
2.	Solution
3.	Selection of bridge
4.	Construction of high-level fixed bridge
5.	Project benefit
6.	Financial aspect
SECTION I. PRINCIPAL FEATURE OF THE PROJECT	
1.1	Introduction
1.2	General
1.3	Principal figures of the bridge
1.4	Construction cost
SECTION II. SITE SELECTION	
2.1	General
2.2	River condition
2.3	Traffic economy
SECTION III. SITE INVESTIGATION	
3.1	General
3.2	Geological exploration
3.3	Flow velocity measurement
3.4	Concrete aggregates
3.5	Test piling

ARTICLE	CONTENTS
SECTION IV. DESIGN CONSIDERATIONS	
4.1	Special local condition
4.2	Design condition
4.3	Span arrangement
4.4	Unit costs for cost estimate in comparative studies
SECTION V. COMPARATIVE STUDIES OF HIGH-LEVEL FIXED BRIDGE	
5.1	General
5.2	Metal bridge
5.3	Concrete bridge
5.4	Comparison of metal and concrete bridge
SECTION VI. DESIGN OF HIGH LEVEL FIXED METAL BRIDGE	
6.1	General
6.2	Superstructure of metal bridge
6.3	Superstructure of concrete bridge
6.4	Substructure of metal bridge
6.5	Substructure of concrete bridge
6.6	Lighting facilities
6.7	Work quantities
SECTION VII. FOUNDATION AND APPROACH	
7.1	Pile foundation
7.2	Approach road
SECTION VIII. CONSTRUCTION OF BRIDGE	
8.1	Construction schedule
8.2	Construction
8.3	Construction materials, machinery, equipment and transportation

ARTICLE	CONTENTS
SECTION IX.	COST ESTIMATE
9.1	General
9.2	Basis for cost estimate
9.3	Breakdown of cost estimate
9.4	Cost estimate of low-level fixed bridge
	APPENDIX
	ECONOMIC FEASIBILITY OF BRIDGE CONSTRUCTION
SECTION A.1	ROAD TRAFFIC AND NAVIGATION REQUIREMENT
A.1.1	Road traffic requirement
A.1.2	Navigation requirement
SECTION A.II	SOLUTION
A.2.1	Comparable solutions
A.2.2	Economic comparison of three solutions
A.2.3	Recommended solution
A.2.4	Financing and repayment

調査コード

*コード番号

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容		
6.15	Vientiane/Nong Khai 橋梁	日本	1967年 1968年	¥ 74845000-	⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	1 踏査 2 予備調査 3 フィンビ リティ調査 ○ 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 架橋の技術的, 経済的, 財務的可能性の有無 2 (勧告・結論) 早急に建設すべきである。 架橋地点 タイ側 Nong Khai ラオス側 Thanaleng Vientianeまで鉄道を延長する経費 2千万ドル 3 (主たるバックデーター) 橋梁基礎地質資料, 一般経済資料, コンクリート骨材, 測量図面, 水文資料, 交通資料, 資料等 4 (その他特記事項)
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他	○ ○	1 名称 Nong Khai/Vientiane Bridge Project Feasibility Report 2 言葉の種類 英語 仏語 3 日本語のほんやく 書の有無 有 4 資金の性質 日本政府技術協力 5 実施機関 (コンサルタント名) O.T.C.A-日本工営 6* プロジェクト調査 に対し援助国又は 機関が多い場合の 関連調査カード番 号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける 資料番号	⑩ 備考 O.T.C.Aの調査は、1次2次のノンカイ橋梁調査とノン カイ鉄道調査の3段階に亘っている。 第1次調査費 ¥ 44805000- 第2次 ¥ 30040000-	方 法 論 的 分 類			
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			類		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) Nong Khai-Vientiane 地域のメコン河上に ラオスとタイを結ぶ、道路鉄道併用橋を建設する。 鉄道はタイ側よりビエンチャン迄延長ラオス向け貨客 輸送の機能を増強、又アジアハイウェイ112号線はこれ により両国を連繋する。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 内陸国ラオスの最も有利な輸出入経路であるバンコ クルートはノンカイにてフェリイを必要とし、此のフェ リイが交通量の伸びに対応して行けない状態なので、橋 梁建設による渡河手段の改良が急務となって来た。 1965年メコン委は、メコン開発10ヶ年計画の最優 先計画の1つとして採択、67年のメコン委で日本政府 は Feasibility study を行う用意ありと表明。					

⑭

調査報告書の概要

1 (報告者名) (原語) Nong Khai/Vientiane Bridge Project
Laos-Thailand Feasibility Report (日本語) Nong Khai/Vientiane橋梁計画
可能性報告書

2 調査総括責任者氏名と地位

3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1 Part 1 : Summary & Recommendations

3.2 Part 2 : Engineering Economic and Financial Studies

3.3 Part 3 : Engineering and Economic Data

⑮

調査地域概略図

別紙

⑯

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
------	----	------	-------	----

別紙

⑰

相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 ラオス側 Comité National Lao du Mékong ラオス国内メコン委員会

やく名 タイ側 Thai National Mekong Committee タイ国内メコン委員会

⑱

特記事項

PART I

CHAPTER I INTRODUCTION

- 1.1 Necessity of the Project
- 1.2 History of the Project

CHAPTER II CONSTRUCTION

- 2.1 General
- 2.2 Bridge
 - 2.2.1 Design Criteria
 - 2.2.2 Navigation Requirements
 - 2.2.3 Type of Bridge
 - 2.2.4 Layout of Bridge Floor
 - 2.2.5 Pier Foundations
 - 2.2.6 Pier Protection Against Scouring
 - 2.2.7 Bank Protection
- 2.3 Railway
 - 2.3.1 Selection of Route
 - 2.3.2 Design Criteria
 - 2.3.3 Track
 - 2.3.4 Formation Level
 - 2.3.5 Stations
- 2.4 Highway
 - 2.4.1 Design Criteria
 - 2.4.2 Cross Section
 - 2.4.3 Formation Level
 - 2.4.4 Change-Over of Traffic Direction
 - 2.4.5 Administrative Facilities
- 2.5 Construction Cost

CHAPTER III BENEFIT

- 3.1 General
- 3.2 Future Traffic
 - 3.2.1 Present Traffic
 - 3.2.2 Imaginary Initial Traffic
 - 3.2.3 Traffic Growth Index
 - 3.2.4 Possible Future Traffic on the Bridge
- 3.3 Benefit and Cost
- 3.4 Indirect Benefit
- 3.5 Financial Aspect

CHAPTER IV CONCLUSIONS AND RECOMMENDATIONS

- 4.1 Feasibility
 - 4.1.1 Feasibility
 - 4.1.2 Decisions and Studies Made on Various Items
- 4.2 Recommendations
 - 4.2.1 Financing
 - 4.2.2 Detailed Investigations and Design
 - 4.2.3 Pending Items

PART II

ENGINEERING, ECONOMIC AND FINANCIAL STUDIES

TABLE OF CONTENTS

CHAPTER I CONCLUSIONS AND RECOMMENDATION

- 1.1 Conclusions
 - 1.1.1 Feasibility
 - 1.1.2 Decisions and Studies Made on Various Items
- 1.2 Recommendations
 - 1.2.1 Financing
 - 1.2.2 Detailed Investigations and Design
 - 1.2.3 Pending Items

CHAPTER II INTRODUCTION

- 2.1 Necessities of the Project
- 2.2 History of the Project
- 2.3 Plan of Operation
- 2.4 Organization of the Japanese Survey Team
- 2.5 Acknowledgements

CHAPTER III GENERAL DESCRIPTION

- 3.1 Project Area
- 3.2 Climate
- 3.3 The Mekong's Flow
- 3.4 Topography and Geology
- 3.5 Traffic and Transportation
 - 3.5.1 Roads
 - 3.5.2 Railway

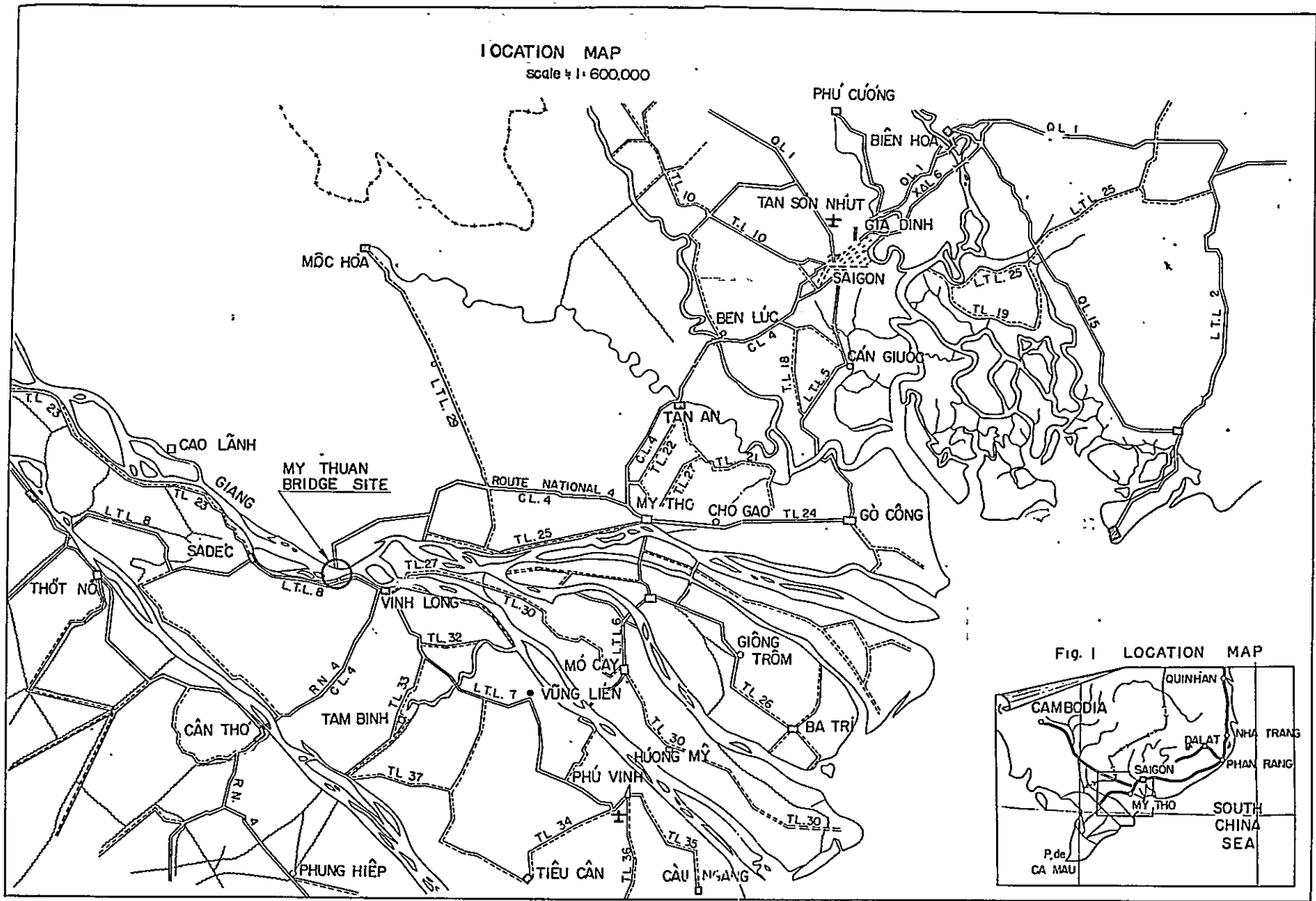
- 3.5.3 Mekong-Crossing Facilities
- 3.5.4 Other Transportation
- 3.6 Economic Condition
 - 3.6.1 Economic Condition in Laos
 - 3.6.2 Economic Condition in Thailand
- 3.7 Pa Mong Project
- 3.8 Nam Ngum Project

CHAPTER IV BASIC STUDIES

- 4.1 Selection of Bridge Site
- 4.2 Selection of Kind and Type of Bridge
- 4.3 Selection of Railway Route

CHAPTER V CONSTRUCTION

- 5.1 General
- 5.2 Main Bridge
 - 5.2.1 Superstructure
 - 5.2.2 Substructure
 - 5.2.3 Bank Protection
- 5.3 Railway
- 5.4 Highway
 - 5.4.1 Route
 - 5.4.2 Design
 - 5.4.3 Change-Over of Traffic Direction
 - 5.4.4 Administrative Facilities
- 5.5 Construction Plan
- 5.6 Administrative Facilities



CHAPTER VI ECONOMIC JUSTIFICATION

- 6.1 General
- 6.2 Future Traffic
- 6.3 Direct Benefit
 - 6.3.1 Unit Benefit
 - 6.3.2 Annual Equivalent Benefit and Capitalized Benefit
- 6.4 Benefit-Cost Ratio and Capitalized Net Benefit
 - 6.4.1 Annual Equivalent Cost and Capitalize Cost
 - 6.4.2 Benefit-Cost Ratio and Capitalized Net Benefit
- 6.5 Internal Rate of Return
- 6.6 Indirect Benefits

CHAPTER VII FINANCIAL FEASIBILITY

- 7.1 General
- 7.2 Financial Study
 - 7.2.1 Repayment Plan
 - 7.2.2 Favorable Loans For Selected Toll Rates
 - 7.2.3 Optimal Tolls

PART III
ENGINEERING AND ECONOMIC DATA

TABLE OF CONTENTS

CHAPTER I TOPOGRAPHIC SURVEYS

- 1.1 Survey Operations
- 1.2 Leveling and Elevations
- 1.3 Echo-Sounding
- 1.4 Triangulation
 - 1.4.1 General
 - 1.4.2 Computation

CHAPTER II SOIL SURVEY

- 2.1 General
- 2.2 Test Drilling
- 2.3 Soil Test

CHAPTER III MATERIAL SURVEY

- 3.1 General
- 3.2 Concrete Aggregates
- 3.3 Embankment Materials

CHAPTER IV METEOROLOGY

- 4.1 Meteorological Data of the Project Area

CHAPTER V HYDROLOGY

- 5.1 Hydrologic Data
- 5.2 Design High-Water Level

- 5.2.1 General
- 5.2.2 Bases of Computation
- 5.2.3 Probability Computation
- 5.2.4 Design High-Water Level

CHAPTER VI ECONOMIC SURVEY

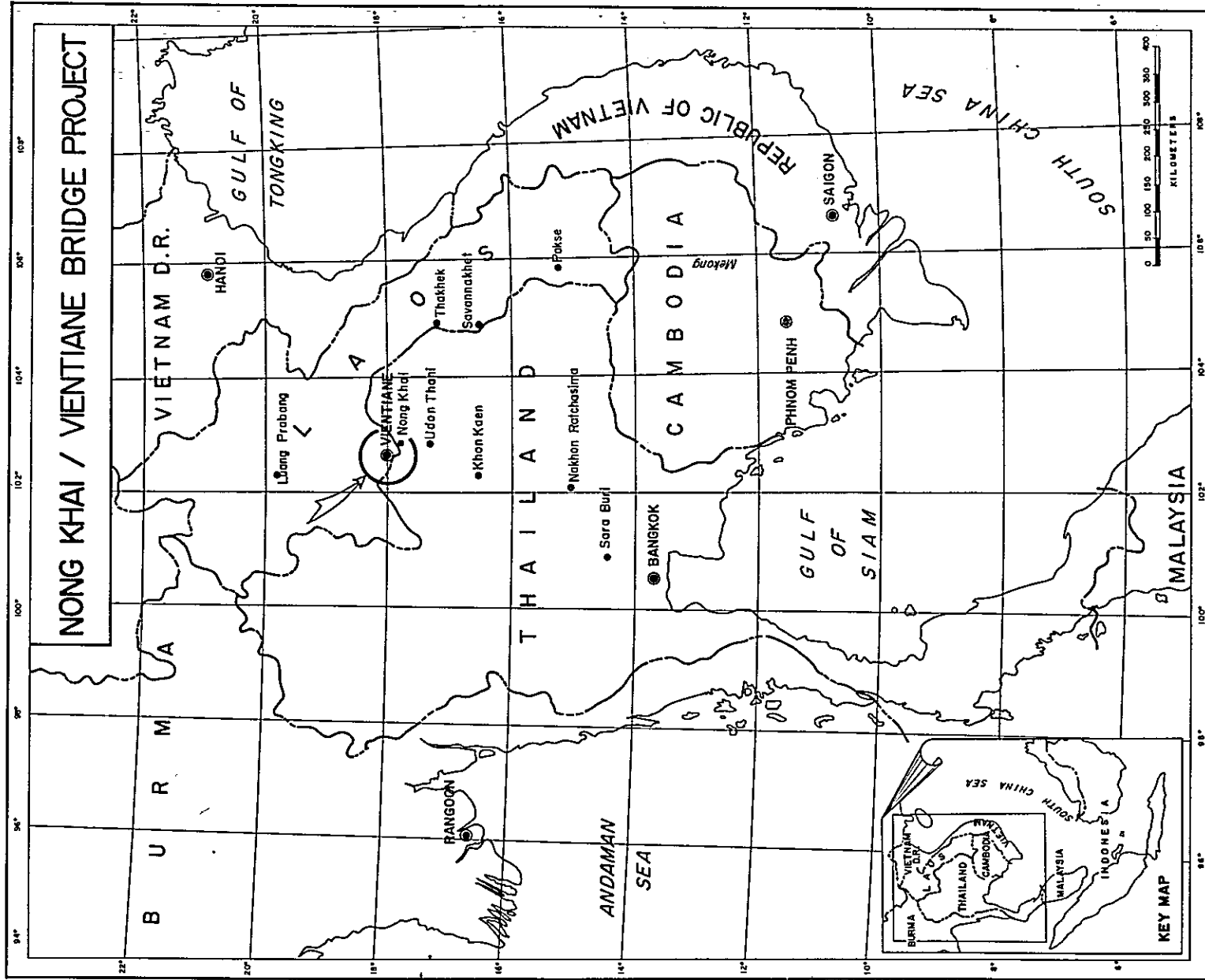
- 6.1 General
- 6.2 Data on Salient Economic Features of Laos and of Project Area
- 6.3 Possible Future Traffic
 - 6.3.1 Imaginary Initial Traffic
 - 6.3.2 Rates and Indices of Future Traffic Growth
 - 6.3.3 Influence of Bridge Tolls
- 6.4 Direct Benefits
 - 6.4.1 General
 - 6.4.2 Time Benefits
 - 6.4.3 Operation Benefits
 - 6.4.4 Total Benefits
- 6.5 Annual Cost
- 6.6 Indirect Benefit

CHAPTER VII MISCELLANEOUS DATA COLLECTED

- 7.1 General
- 7.2 Notes on Characteristic Data

表-2.3 顧問団および調査団人員名簿

第一次調査			第二次調査			鉄道補足調査		
氏名	専門及び担当業務	調査日取	氏名	専門及び担当業務	調査日取	氏名	専門及び担当業務	調査日取
A. 顧問団			A. 調査団			A. 顧問団		
1 福田 武雄 工学博士, 東大名誉教授 構造計画コンサルタント(株)社長	橋梁構造	15	1 吉田 良三 技術士, 日本工営(株)技術統轄 室副技師長兼プロジェクト部長	団長	17	1 福田 武雄 工博 東大名誉教授 構造計画コンサルタント(株)社長	橋梁構造	15
2 佐藤 寛政 工博, 三井共同建設コンサルタント(株) 副社長(前日本道路公団副総裁)	道路	16	2 境田 正宜 技術士, 日本工営(株)取締役, 地質部長	地質	29	2 佐藤 寛政 工博, 三井共同建設コンサルタント(株) 副社長(前日本道路公団副総裁)	道路	15
3 村上 永一 工博, 日本道路公団常任参与	道路・橋梁	14	3 野口 豊 技術士, 日本工営(株)顧問	道路計画	15	B. 鉄道調査団		
B. 調査団			4 徳永 勇蔵 技術師, 日本工営(株)プロジェクト部	道路・測量	89	1 中島 藤一 技術士, 日本交通技術(株)海外部次長		10
1 津田 誠 技術士, 日本工営(株)プロジェクト部々長	団長	40	5 伊藤 徹 日本工営(株)プロジェクト部	橋梁・水文	90	2 志村 卓也 海外技術協力事業団開発調査部	測量・渉外・会計	15
2 境田 正宜 技術士, 日本工営(株)取締役 地質部長	地質	21	6 中島 藤一 技術士, 日本交通技術(株)海外部次長	鉄道計画	30	**3 谷口 伊十生 日本工営(株)土木部	測量	97
3 野口 豊 技術士, 日本工営(株)顧問	道路計画	15	7 佐々木 恒一 (財)計量計画研究所専務理事	経済	10	4 石崎 晴也 日本工営(株)土木部	測量	63
4 徳永 勇蔵 技術士, 日本工営(株)プロジェクト部	道路・測量	45	8 小林 八一 (財)計量計画研究所研究員	経済	45	5 井手 勇七 日本工営(株)土木部	測量	97
5 中島 藤一 ¹ 技術士, 日本交通技術(株)海外部次長	鉄道計画	21	9 小川 哲夫 (財)計量計画研究所研究員	経済	45	C. 橋梁調査団		
6 青山 正樹 日本交通技術(株)計画調査部々長	橋梁	30	10 木村 博 海外技術協力事業団開発調査部	渉外・会計	15	1 吉田 良三 技術士, 日本工営(株)技術統轄 室副技師長兼プロジェクト部長	団長	23
7 小林 八一 (財)計量計画研究所 ¹ 研究員	経済	54	11 大山 広喜 海外技術協力事業団開発調査部	渉外・会計	15	**2 徳永 勇蔵 技術士, 日本工営(株)プロジェクト部長	道路・測量	23
8 福島 千哲 (財)計量計画研究所 研究員	経済	54	12 谷口 伊十生 日本工営(株)土木部	測量	129	注 ¹ : 日本工営(株)の協力団体である。 *: 第一次調査団員 **: 第一次, 第二次調査団員		
9 上条 悦司 (財)計量計画研究所 研究員	経済	54	13 池田 博 日本工営(株)プロジェクト部	測量	104			
10 桑原 正男 海外技術協力事業団開発調査部	渉外・会計	40	14 白山 喜久郎 日本工営(株)地質部	試雑	129			
11 谷口 伊十生 日本工営(株)土木部	測量	45	15 尾上 喬	試雑	129			
12 鈴木 勇 日本工営(株)土木部	測量							



調査コード

*コード番号

① 調査カード番号		② 調査対象プロジェクト名		③ 援助国又は機関名		④ 調査年度又は期間(西暦)		⑤ 調査金額円又はドル	
		タゴノ農業開発計画		日本 OTOA		1968~1969		¥46627000	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)				⑨ 報告書の構成等					
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 10. 管理 11. その他				1. 名称 2. 言葉の種類 3. 日本語のほんやく書の有無 4. 資金の性質 5. 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号		英語, 仏語 有 日本政府技術協力 OTOA-日本工営			
⑦ 備考				⑩ 備考					
				第1次調査 ¥19731000		第2次調査 ¥26896000			
⑧ 調査対象プロジェクトの概要				⑪ プロジェクト地点の国名		ラオス			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) ナムナム河沿岸地域に広がる広大な遊女地に米増産のモデルプロジェクトとして約800haのpilot farmを造成し、灌漑による農業の近代化をはかるとするもの。				⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 ラオス政府は、かねてナムナム総合開発計画の一環として、ビエンチャン平原の農業開発を計画して居り、その手始めとしてタゴン地区800haの開発プロジェクトにつき日本政府に技術協力要請がなされ、2回にわたり調査団が派遣されることとなった。また、1000haのパイロットファームについては日本政府の出資で建設計画がたてられ、1回調査団が派遣される。					
調 査 内 容									
⑬ 性格的分類(○印を記入)			⑭ 内 容 説 明						
段 階 的 分 類	1. 路 査		1. (調査の目的) タゴン地区800ha余の大部分草地でおおわれている土地を開発して近代かんがい農業を導入、ビエンチャン平野8万ha以上開発のパイロットとするもので、この開発の実施可能性の調査及び実施設計を行なう。						
	2. 予備調査		2. (勧告・結論) ビエンチャン平野のパイロット開発計画として早急に工事を行いラオスに近代かんがい農業を導入する必要がある。そのため一気に機械排水による過かんがい農業を行きよりもまず乾期のかんがいを考え、次いで機械排水による完全な農場建設が望ましい。						
方 法	3. フィジビリティ調査		3. (主なるバックデータ) Nam Ngum水文データ, ビエンチャン気温データ Nam Ngum総合開発計画 Feasibility Report						
	4. 実施調査		4. (その他特記事項) この報告書をもとにADBラ政府はADBにローンの申請を行い、ADB側は機械排水も含めた完全計画にすべきRecommendがあった。						
論 点	5. その他		⑮ 調 査 評 価						
	1. 実態調査		1. (調査精度)						
的 分 類	水文観測		2. (技術水準) 水文資料が十分でなく、又、Nam Ngumダム完成後のNam Ngum川の水位が予測しにくく、排水計画は十分な再検討を要す。						
	地質調査		3. (用いられた主なる理論・公式)						
的 分 類	地図作製		4. (技術的特色)						
	2. 実態解析		5. (調査効果) ADBの融資を受け得る様になり近く着工される。 70年3月10日 ADB融資決定 建設関係 US\$978000(loan) コンサルティング US\$275000(grant)						
的 分 類	水文解析								
	地質								
的 分 類	地形								
	3. 統計調査								
的 分 類	4. 開発計画(提案)								
	5. 土木施設の設計								
的 分 類	詳細概略								
	6. 経済予測								
的 分 類	7. 産業開発計画								
	8. 社会開発計画								
的 分 類	9. モデルファーム								
	10. その他								

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) Tha Ngon Agricultural Development Project Design Report

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の目次項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

別紙

⑰ 調査地域概略図

別紙

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	取(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

Direction de l' Agriculture, Ministère de l' Economic

原 名 Commissariat au Plan, Ministère du Plan et de la Coopération

やく名 計画省計画局, 経済省農業局

⑳ 特記事項

- ① Feasibility Report on
The Tha Ngon Agricultural
Development Project
- ② The Tha Ngon Agricultural
Development Project
Design Report

〈第 一 次〉		担 当 業 務	所 属
福沢 達一	団 長	農 業 経 済	農林省農地局調査官
大島 文雄	農 業 経 済	経 済	海外技術協力事業団
大橋 哲郎	栽 培	栽 培	関東農政局
菅原道太郎	土 壌	土 壌	日本工営株式会社
鈴木 博彦	かんが	かんが	"
矢野 信一	構 造	構 造	"
川勝 隆雄	水 文	水 文	"
遠矢 勇作	測 量	測 量	"
尾中健二郎	土 質	土 質	"
佐伯 一郎	渉 外 会 計	渉 外 会 計	海外技術協力事業団
〈第 二 次〉			
福沢 達一	団 長(総 括)	農 業 経 済	農林省農地局調査官
金津 昭治	団長代理(地区内計画)	農 業 経 済	海外技術協力事業団 農業開発協力室技術参事
大橋 哲郎	稲 作 栽 培	栽 培	農林省農地局計画部資源課干拓係長
藤井 信雄	農 業 経 営	農 業 経 営	農林省農林水産技術会議研究調査官補佐
河内 三郎	用 水 路	用 水 路	日本工営株式会社農業部副理事
佐藤 健二	排 水 路	排 水 路	日本工営株式会社土木課
川勝 隆雄	洪 水 防 止 堤	洪 水 防 止 堤	日本工営株式会社農業部
進藤 茂	用 排 水 機 場	用 排 水 機 場	日本工営株式会社土木部
遠矢 勇作	通 路	通 路	日本工営株式会社農業部
脇田 博	渉 外	渉 外	海外技術協力事業団農業開発協力室
〈100haパイロットファーム調査団〉			
坂本 正	団 長(総 括)	農 業 経 済	海外技術協力事業団 農業開発協力室長
金津 昭治	副 団 長(かんがい)	農 業 経 済	海外技術協力事業団 農業開発協力室参事
田代 秀臣	稲 作 栽 培	栽 培	農林省農地局計画部資源課
山本 俊夫	農 業 経 営	農 業 経 営	農林省農地局管理部入植営農課
小笠原 昭	圃 場 整 備	圃 場 整 備	農林省農地局建設部かんがい排水課
随林 吉衛	農 業 機 械	農 業 機 械	東京農大厚木試験場
後藤亮之助	渉 外 兼 農 民 組 織	渉 外 兼 農 民 組 織	海外技術協力事業団 農業開発協力室

REVISED FEASIBILITY REPORT
THE THA NGON AGRICULTURAL
DEVELOPMENT PROJECT
IN
LAOS
TABLE OF CONTENTS

Preface

Summary and Conclusion

CHAPTER I INTRODUCTION

CHAPTER II GENERAL

- 2.1 Situation and Relief
 - 2.1.1 The Kingdom of Laos
 - 2.1.2 Vientiane Plain
- 2.2 Present Condition of Agriculture in the Vientiane Plain
- 2.3 General Economy of Laos
 - 2.3.1 Population
 - 2.3.2 Education and Religion
 - 2.3.3 Agriculture and Forestry
 - 2.3.4 Mining and Industry
 - 2.3.5 Incomes and Prices
 - 2.3.6 Overseas Trade
 - 2.3.7 Communication
 - 2.3.8 Power Supply

CHAPTER III PROJECT AREA

- 3.1 General
- 3.2 Topography
- 3.3 Meteorologic Data
- 3.4 Soil Condition
- 3.5 Hydrology
 - 3.5.1 Nam Ngum River
 - 3.5.2 Nong Sam Kha Stream

CHAPTER IV PRESENT CONDITION OF AGRICULTURE

- 4.1 General
- 4.2 Land-use
- 4.3 Method of Cultivating
- 4.4 The Yield
- 4.5 Livestock
- 4.6 Farm Size
- 4.7 Farm Receipts
- 4.8 Market for Agricultural Products

CHAPTER V PROSPECTIVE FARMING PROGRAM

- 5.1 General
- 5.2 Cropping Pattern
- 5.3 Adapted Standard Farm
- 5.4 Annual Farm Budget
 - 5.4.1 Annual Farm Receipt
 - 5.4.2 Annual Farm Expenses
 - 5.4.3 Capacity to Pay
- 5.5 Pilot Farm and Farmer's Organization

CHAPTER VI IRRIGATION AND DRAINAGE

6.1 General

6.2 Irrigation Water Requirements

6.3 Irrigation System

6.3.1 Pumping Station and Regulation Pond

6.3.2 Irrigation Canals

THA NGON AGRICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT

- DESIGN REPORT -

TABLE OF CONTENTS

FORWORD

CHAPTER I GENERAL DESCRIPTION

- 1.1 Description of Project Area
- 1.2 Outline of Project

CHAPTER II PROJECT DESIGNS

- 2.1 Water Requirements
- 2.2 Irrigation Facilities
 - 2.2.1 Tha Ngon pumping station
 - 2.2.2 Irrigation canal system
- 2.3 Drainage Facilities
 - 2.3.1 Drainage canal system
 - 2.3.2 Flood gate
 - 2.3.3 Protective embankment
- 2.4 Farm Road and Field Layout
 - 2.4.1 Farm road
 - 2.4.2 Field layout and irrigation method
- 2.5 Power Distribution Line

CHAPTER III CONSTRUCTION PLAN AND EQUIPMENT

- 3.1 General
- 3.2 Construction Plan
 - 3.2.1 Tha Ngon pumping station
 - 3.2.2 Irrigation canal system
 - 3.2.3 Drainage canal system

- 3.2.4 Flood gate
- 3.2.5 Protective embankment
- 3.2.6 Farm roads
- 3.2.7 Land preparation
- 3.3 Construction Facilities
 - 3.3.1 Access road
 - 3.3.2 Office and quarters
- 3.4 Construction Machineries
- 3.5 Construction Materials
- 3.6 Compensation

CHAPTER IV COST ESTIMATE

- 4.1 Construction Cost
- 4.2 Operation, Maintenance and Replacement Cost

APPENDIX

APPENDIX A METEOROLOGY AND HYDROLOGY

- A.1 General
- A.2 Meteorology
- A.3 Hydrology

APPENDIX B INVESTIGATIONS

- B.1 Topographic Survey
- B.2 Test Pitting and Soil Test

APPENDIX C BREAKDOWN OF CONSTRUCTION WORK

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3.6	② 調査対象プロジェクト名 水文気象	③ 援助国又は機関名 WMO, フランス, イント ニューゼランド, 英国, 米国, メコン委	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑬ 性格的分类 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 10. 管理 11. その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aに於ける資料番号			1 箱査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 ○	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論 1 実態調査 ○ ○ 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 ○ ○ 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 総合的な水分・気象データの収集・処理 2 3				

⑥ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑦ 調査地域概略図

⑧ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑨ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑩ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3.7	② 調査対象プロジェクト名 新水文気象観測所	③ 援助国又は機関名 英国, フランス, 米国の メコン委	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aに於ける資料番号 ⑩ 備考				
⑪ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			⑩ 方法論的分類	⑫ 調査評価
⑫ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 水位観測所 合計 196カ所 気象観測所 合計 562カ所		⑬ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1. 2. 3.				

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3.8	② 調査対象プロジェクト名 水文年鑑	③ 援助国又は機関名 ノコン委	④ 調査年度又は期間(西暦) 1967	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		○	⑨ 報告書の構成等		段階的 分類 1 緒 査 2 予備調査 3 フィンビィリディ調査 4 実施調査 5 その他 ○	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		1 名称 水文年鑑 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考		方 法 論 的 分 類 1 実態調査 ○水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 # 地形 # 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業研究計画 8 社会開発計画 9 モデルフォーム 10 その他		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3			

06 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____ 水文年度 _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

項目	内容についての概要
3.1 第1巻 水文データ	1967年4月1日～1968年3月31日
3.2 第2巻 気象データ	1967年1月1日～1967年12月31日 メコン河下流域の月間・年間平均雨量を示す地図。東南アジアの地震震源地を示す地図、各観測所の雨天日数・降雨強度も収録
3.3	

07 調査地域概略図

18 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

09 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

ヤク名 _____

09 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3.9	② 調査対象プロジェクト名 拡大流域計画	③ 援助国又は機関名 オランダ、イコンダ、 総務省、ECAPE、 日本、米国	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1968~	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Pa Mong (米内務省開拓局)の中間報告書とSam-bor (日本OTCA)のフィジビリティレポートが1969年末に完成し、1970年に検討される。		⑪ プロジェクト地点の国名				1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1 2 3				

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の手なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1
3.2
3.3

⑪ 調査地域概略図



⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____
 原 名 _____
 やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3-11	② 調査対象プロジェクト名 メコン計算機センター	③ 援助国又は機関名 UNDP / UNESCO / メコン委	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1968~	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		⑧ 報告書の構成等 1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考			⑧ 性格的分類(○印を記入) 段階的 1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 ○ 方法論的 1 実態調査 2 実態解析 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルフォーム 10 その他	
⑨ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) IBM360-40(タイ国立統計局)を用いて600時間以上の計算時間を費す。		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ			⑨ 調査内容説明	
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			⑨ 調査内容説明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項) ⑩ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	

⑭ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の子なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑮ 調査地域概略図

⑯ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑰ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 _____

2. 要請した便宜供与 _____

3. 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

ヤク名 _____

⑱ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 3.12	② 調査対象プロジェクト名 システムアナリシス	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調 査 内 容					
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと) 1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他					⑦ 報告書の構成等		⑧ 性格的分類(○印を記入)		⑨ 内容説明	
					1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号		1 踏 査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他		1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)	
⑩ 備考					⑪ 備考		⑫ 調査評価		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
⑬ 調査対象プロジェクトの概要					⑭ プロジェクト地点の国名		⑮ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 流量の合成, 貯水池調節, 電力調整, デルタ開発調査, 水文データ調査, その他に用いられる。 河川流量の再編成, 発電(火力)の調整, 流量調節による治水効果。					1 2 3		1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他			

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

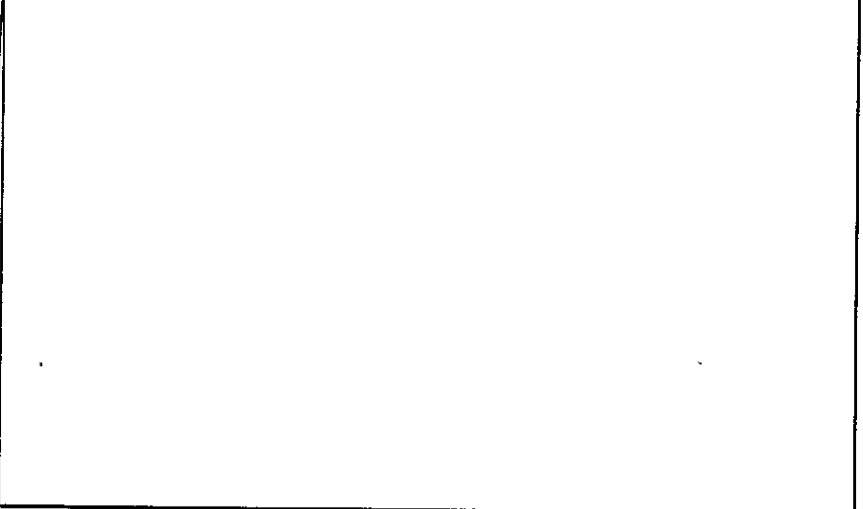
① 調査カード番号 3.13	② 調査対象プロジェクト名 数学的デルタモデル	③ 援助国又は機関名 SOGREAH, UNESCO, ノコン委	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容						
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明					
1 流域計画	○	1 名称			1 総査	1 (調査の目的)					
2 主流計画		2 言葉の種類			2 予備調査		2 (勧告・結論)				
3 支流計画		3 日本語のほんやく書の有無			3 フィジビリティ調査						
4 舟航その他輸送		4 資金の性質			4 実施調査			3 (主なるバックデータ)			
5 洪水警報と治水		5 実施機関 (コンサルタント名)			5 その他						
6 農業・林業及び漁業		6* プロジェクト調査 に対し援助国又は 機関が多い場合の 関連調査カード番 号とそのコード			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の 設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他				4 (その他特記事項)		
7 電力市場 工業 鉱物資源		7* O.T.C.Aに於ける 資料番号									
8 社会開発と公衆衛生		⑩ 備考								⑮ 調査評価	
9 運用資金		⑪ プロジェクト地点の国名								⑯ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等	
10 管理										1	1 (調査精度)
11 その他		2								2 (技術水準)	
⑦ 備考	3	3 (用いられた主なる理論・公式)									
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等		⑰ 調査精度		4 (技術的特色)					
						5 (調査効果)					

⑩ 調査報告書の概要

- (原語) (日本語)
- 1 (報告者名) _____ MEK001計画
MEK002計画
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1 MEK001計画	潮汐の影響を考慮にいれない数学的デルタモデル。平水・高水位状態の解析に有効。SSARRモデルと組合せると河口までの水の動きを算出できる。高水予知システムの開発に貢献するであろう。
3.2 MEK002計画	潮汐の影響を考慮にいれた数学的デルタモデル。乾期の水の動き、特にヴェトナムの低デルタ地帯への塩水侵入調査に特に有効。
3.3	

⑪ 調査地域概略図



⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

- ⑬ 相手国の受入態勢
- 1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の尺慮 _____
- 原 名 _____
- やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号 _____

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3.14	② 調査対象プロジェクト名 経済面社会面	③ 援助国又は機関名 メコン委	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑧ 性格的分類 (○印を記入)	
					⑧ 内 容 説 明	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		⑨ 報告書の構成等 1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考		段 階 的 分 類 1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 方 法 論 的 分 類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 詳細 概略 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム ⑩ その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)	
					⑦ 備考	
⑬ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) メコン河下流域の自然資源及び人的資源についての算定を完成。同時に現存するインフラストラクチャー(農業・工業・輸送部門)における開発の必要性についての調査。			⑭ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	

⑯

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑰

調査地域概略図

⑱

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲

相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑳

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3.15	② 調査対象プロジェクト名 メコン資源地図	③ 援助国又は機関名 The Engineer Agency for Resources Inventories, TVA, タイ	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)				⑦ 報告書の構成等		
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他				⑧ 報告書の構成等 1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考		
⑦ 備考				⑨ 性格的分類(○印を記入)		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要				⑪ 調査内容説明		
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____				⑨ 性格的分類(○印を記入) 段階的分類 1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 ⑩ 備考		
⑩ プロジェクト地点の国名				⑫ 調査内容説明		
⑪ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等				⑬ 調査評価		
1 2 3				⑫ 調査内容説明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデーター) 4 (その他特記事項)		
⑬ 調査評価				⑭ 調査評価		
⑭ 調査評価				⑮ 調査評価		
⑮ 調査評価				⑯ 調査評価		
⑯ 調査評価				⑰ 調査評価		
⑰ 調査評価				⑱ 調査評価		
⑱ 調査評価				⑲ 調査評価		
⑲ 調査評価				⑳ 調査評価		
⑳ 調査評価				㉑ 調査評価		
㉑ 調査評価				㉒ 調査評価		
㉒ 調査評価				㉓ 調査評価		
㉓ 調査評価				㉔ 調査評価		
㉔ 調査評価				㉕ 調査評価		
㉕ 調査評価				㉖ 調査評価		
㉖ 調査評価				㉗ 調査評価		
㉗ 調査評価				㉘ 調査評価		
㉘ 調査評価				㉙ 調査評価		
㉙ 調査評価				㉚ 調査評価		
㉚ 調査評価				㉛ 調査評価		
㉛ 調査評価				㉜ 調査評価		
㉜ 調査評価				㉝ 調査評価		
㉝ 調査評価				㉞ 調査評価		
㉞ 調査評価				㉟ 調査評価		
㉟ 調査評価				㊱ 調査評価		
㊱ 調査評価				㊲ 調査評価		
㊲ 調査評価				㊳ 調査評価		
㊳ 調査評価				㊴ 調査評価		
㊴ 調査評価				㊵ 調査評価		
㊵ 調査評価				㊶ 調査評価		
㊶ 調査評価				㊷ 調査評価		
㊷ 調査評価				㊸ 調査評価		
㊸ 調査評価				㊹ 調査評価		
㊹ 調査評価				㊺ 調査評価		
㊺ 調査評価				㊻ 調査評価		
㊻ 調査評価				㊼ 調査評価		
㊼ 調査評価				㊽ 調査評価		
㊽ 調査評価				㊾ 調査評価		
㊾ 調査評価				㊿ 調査評価		

<p>⑯ 調査報告書の概要</p> <p style="text-align: center;">(原語) (日本語)</p> <p>1. (報告者名) _____</p> <p>2. 調査総括責任者氏名と地位 _____</p> <p>3. (報告書的主要項目についての説明 — 主として目次による)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%; text-align: center;">(項 目)</th> <th style="text-align: center;">(内容についての概要)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">3.1</td> <td>流域の天然・人的・経済的資源に有効な資料を図面で統計的でわかりやすい形にまとめたもの。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">3.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">3.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> </td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	(項 目)	(内容についての概要)	3.1	流域の天然・人的・経済的資源に有効な資料を図面で統計的でわかりやすい形にまとめたもの。	3.2		3.3						<p>⑰ 調査地域概略図</p> <div style="height: 150px; border: 1px solid black; margin: 10px 0;"></div> <p>⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項</p> <p>(調査団の編成と調査期間)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">団員氏名</th> <th style="width: 10%;">格 付</th> <th style="width: 20%;">担当業務</th> <th style="width: 15%;">職(当時)</th> <th style="width: 35%;">期 間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>⑲ 相手国の受入態勢</p> <p>1. 受入機関名 _____</p> <p>2. 要請した便宜供与 _____</p> <p>3. 便宜供与の状況 _____</p> <p>原 名 _____</p> <p>やく名 _____</p> <p>⑳ 特記事項</p>	団員氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間										
(項 目)	(内容についての概要)																											
3.1	流域の天然・人的・経済的資源に有効な資料を図面で統計的でわかりやすい形にまとめたもの。																											
3.2																												
3.3																												
団員氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間																								

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3.16	② 調査対象プロジェクト名 舟 航 由	③ 援助国又は機関名 The Navigation Improvement Division (コン委)	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと) 1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他 ○					⑨ 報告書の構成等	
					1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考	
⑦ 備考					⑪ プロジェクト地点の国名	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____					⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3	
⑬ 性格的分類 (○印を記入) 段 階 的 分 類 1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 方 法 論 的 分 類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 地形 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他					⑭ 内 容 説 明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項) ⑮ 調 査 評 価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1	内陸水路輸送及びその将来の開発の必要性について
3.2	
3.3	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期 間

⑬ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 _____
原 名 _____
やく名 _____
- 2 要請した便宜供与 _____
- 3 便宜供与の甚績 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

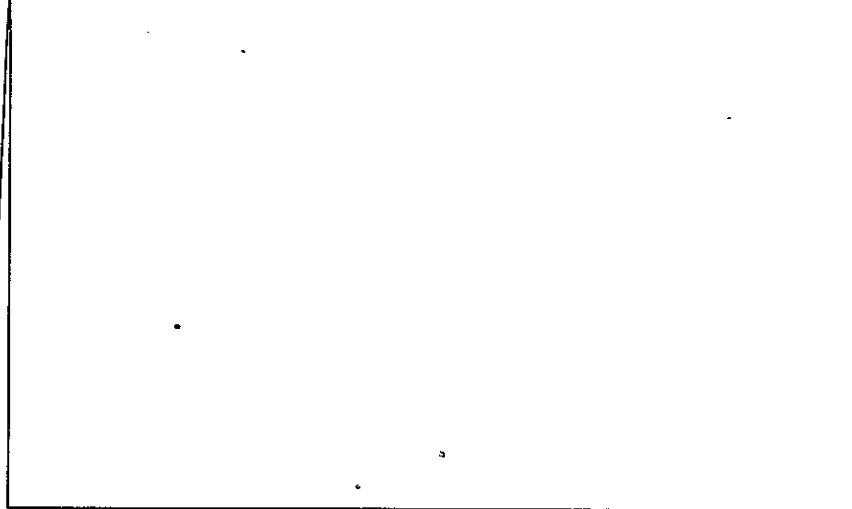
① 調査カード番号 3.17	② 調査対象プロジェクト名 計画調査	③ 援助国又は機関名 /コン委員会と沿岸4カ国	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			③ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		○ 1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにかける資料番号			段階的 1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑤ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名			① (調査精度)	
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			② (技術水準)	
		1			③ (用いられた主なる理論・公式)	
		2			④ (技術的特色)	
		3			⑤ (調査効果)	

⑯ 調査報告書の概要

- (原語) (日本語)
- 1 (報告者名) _____
 - 2 調査包括責任者氏名と地位 _____
 - 3 (報告書の主な項目についての説明 — 主として目次による)

項 目	(内容についての概要)
3.1 ラオス 1969~1973	Nam Ngum計画, Vientian平野開発計画, Vientian/Nong Khai橋梁, Pa Mong支援調査。
3.2 タイ 1968~1972	Nam Pong計画に3番目のタービンを装備, Lan Don Noi計画の建設, Pa Mong支援調査, かんがい計画
3.3 カンボディア	Prek Thnot計画の建設 Battambang実験農場の完成
3.3 ベトナム	数後開発計画の中のデルタの開発

⑰ 調査地域概略図



⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

社員氏名	格 付	担当業務	取(当時)	期 間

⑲ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 _____
 - 2 要請した便宜供与 _____
 - 3 便宜供与の実績 _____
- 原 名 _____
- や く 名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3.18	② 調査対象プロジェクト名 法律面	③ 援助国又は機関名 イタリー ノコン委 ECAFE	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明	
1 流域計画	○	⑨ 報告書の構成等			⑬ 段階的分類 1 1類調査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 ○	⑭ 内容説明 1 (調査の目的) 4カ国の水利権及び水管理の調査 2 (動告・結論) 3 (主たるバックデータ) 4 (その他特記事項) カンボディア(報告書Part Iに収録) ラオス・ウィエトナム(Water Legislation and Management in Laos, Water Legislation and Management in Vietnamに収録)	
2 主流計画		1 名称					⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
3 支流計画		2 言葉の種類					
4 舟航その他輸送		3 日本語のほんやく書の有無					
5 洪水警報と治水		4 資金の性質					
6 農業・林業及び漁業		5 実施機関(コンサルタント名)					
7 電力市場 工業 鉱物資源		6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード					
8 社会開発と公衆衛生		7* O.T.C.A.における資料番号					
9 運用資金		⑩ 備考					
10 管理		⑪ プロジェクト地点の国名					
11 その他		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					
⑦ 備考					⑬ 方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他 ○		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要							
(プロジェクトの種類番号)							
(プロジェクトの概要)							

⑩ 調査報告書の概要

(原 語) Water Legislation in Asia and (日本語)

1 (報告者名) _____ the Far East, Part I & II

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目) (内容についての概要)

3.1 4か国の水利権及び水管理の調査

3.2

3.3

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職 (当時)	期 間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 3.18	② 調査対象プロジェクト名 法律面	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑩ 備考		⑪ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他 ○	⑫ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑬ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑭ プロジェクト地点の国名 _____				
		⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑯

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑰

調査地域概略図

⑱

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲

相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

㉑

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.4 ~ 4.6	② 調査対象プロジェクト名 Pa Mong (第1次)	③ 援助国又は機関名 USBR, メコン委, オーストラリア	④ 調査年度又は期間(西歴) 1961~1965	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)							③ 性格的分類 (○印を記入)
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 そ の 他		<input type="radio"/>	⑦ 報告書の構成等 1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号		USBR	1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) タイ東北地方及びラオスに対して最大約200万haのかんがいと1,200万kw程度の発電, その他を含む多目的利水計画を製作する。(洪水調節・舟航・工業用水上水道をも含む) 2 (勧告・結論) 1966年に第1次報告書作製。第2次調査を継続すべきことを勧告。
⑦ 備考		⑧ 備考		1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他		3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要			⑨ プロジェクト地点の国名 ラオス・タイ	⑤ 調 査 評 価			
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 本流の Pa Mong 支流 Nam Lik(ラオス) 3つのダムによる調節によって発電とかんがいを主にした多目的な水利計画 NamMong(タイ)			⑩ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)		
かんがい面積 約 200万ha 発電規模 1,200万kw							

⑯ 調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.7 ~ 4.12	② 調査対象プロジェクト名 Pa Mong (第2次)	③ 援助国又は機関名 USBR	④ 調査年度又は期間(西暦) 1965~	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他	○	1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号	USBR	1 路 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他			
⑦ 備考		⑩ 備考			⑧ 方 法 論 的 分 類	⑨ 調査評価	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Pa Mong (第1次)に同じ		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス・タイ	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑯ 調査報告書の概要

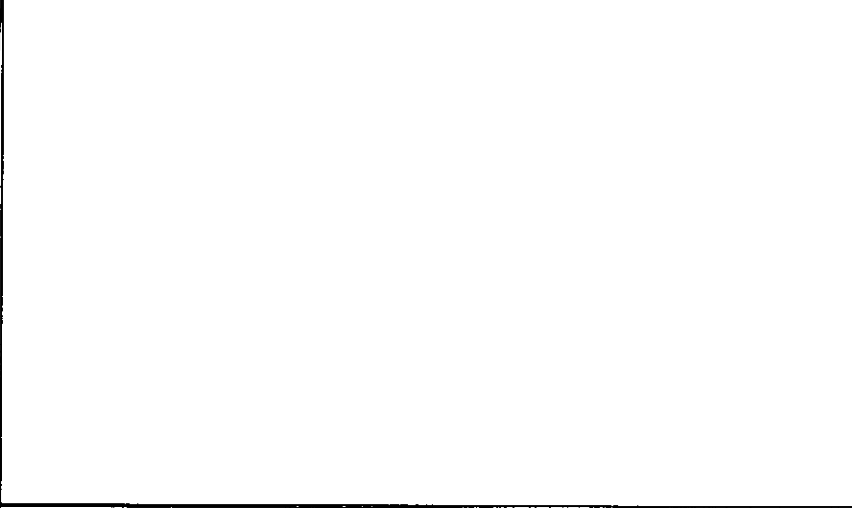
1 (報告者名) (原語) Pa Mong Project, Lower Mekong (日本語) 発電部門に
River Basin - Stage 1, Interior Report 関する中間報告書

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	ダム・発電所・送電線、4万haのかんがいの第一段階開発について
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図



⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____
- 原 名 _____
- やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.13	② 調査対象プロジェクト名 Pa Mong 支援調査	③ 援助国又は機関名 メコン委, 米国	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分类 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 AID(アメリカ)			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) フィジビリティ分析が可能となる特定の調査と経済資料の提供をメコン委員会、タイ・ラオス両国政府から行なう。 1) 農業経済調査……生産性、農耕労働力、用水量、農作物管理、土地開発経費、かんがい用水利用による畜産経済、周辺地の利用、肥料石灰の穀物生産への影響 2) 治水、舟航、漁業による便益調査 3) 上水道・工業用水道・電力による便益調査 (勧告・結論) 2
⑦ 備考		⑩ 備考			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ・ラオス			⑮ 調査評価	
		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
		1				
		2				
		3				

⑯

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑰

調査地域概略図

⑱

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原 名 _____		
やく名 _____		

㉔ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.20 ~ 4.22	② 調査対象プロジェクト名 Tonle Sap (第1期)	③ 援助国又は機関名 インド・ノコン委	④ 調査年度又は期間(西暦) 1962~1964	⑤ 調査金額又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考				
⑪ 備考		⑫ プロジェクト地点の国名 カンボディア			⑭ 調査評価	
⑬ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 大湖の水位維持と漁獲量増加、デルタ下流の洪水防止、航行可能な水深の確保・塩害防止、かんがい開拓等のためにコムボン・チナン地点に水門付きの堰を設ける。		⑯ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果) 洪水ピークを小にする。 大湖の水位を現在の最低水位より1m高くすることによって乾季のメコン河の水量を確保し、航行可能とする。水門付き堰の新設によって大湖の漁獲高増加、かんがい用水確保、塩害防止、治水、開拓等の効果が考えられる。	

⑯

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑰

調査地域概略図

⑱

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団長氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.23 ~ 4.24	② 調査対象プロジェクト名 Tonle Sap (第2期)	③ 援助国又は機関名 UNESCO, 日本, フランス, ノコン委	④ 調査年度又は期間(西暦) 1965~	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 10. 管理 11. その他		1. 名称 2. 言葉の種類 3. 日本語のほんやく書の有無 4. 資金の性質 5. 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにむける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 1) 大湖の調整による漁獲高の増加 周辺地域の洪水期間短縮と被害減少 2) デルタ地帯の排水路改良, 塩水排除, かんがい, 舟航改善のための乾季におけるメコン河水位0.4m上昇 3) 水力発電 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名	カンボディア		⑯ 統計調査	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) Tonle Sap (第1期)に同じ		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等			⑰ 開発計画	
		1.			⑱ モデルファーム	
		2.			10 その他	
		3.				

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 _____ 2. 要請した便宜供与 _____ 3. 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項 _____

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.25 ~ 4.26	② 調査対象プロジェクト名 土質コンクリート研究所	③ 援助国又は機関名 インド、ノコン委、ニュージーランド	④ 調査年度又は期間(西暦) 1963~	⑤ 調査金額又はドル	調査内容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的区分 (○印を記入)	⑨ 内容説明	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)	
⑩ 備考		⑩ 備考			方 法 論 的 分 類	1 突想調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 突想解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑪ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果) Prek Thnot - Kirirom 両計画で利用 Sen Monorom 堤の基礎調査・資源調査 Pochentong 空港拡張計画の同上調査 Stung Treng ダムサイトの地質テスト等も当所で実施する。
⑪ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 5 部門構成 1) 土質力学 2) コンクリート 3) 土壌調査 4) 沈降 5) 小規模化学		⑫ プロジェクト地点の国名 カンボディア	⑬ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑭

調査報告書の概要
(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の異なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑮

調査地域概略図

⑯

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)*	期間

⑰

相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実績

原 名 _____

ヤク名 _____

⑱

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.27	② 調査対象プロジェクト名 Pak Beng	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦) 1967~68~	⑤ 調査金額円又はドル
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等		
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農菜・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号		
⑦ 備考		⑩ 備考 予備的レイアウトと費用概算		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 最も上流にあるダム		⑪ プロジェクト地点の国名 _____		
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3		
調 査 内 容				
⑬ 性格的分類(○印を記入)		⑭ 内容説明		
段 階 的 分 類	1 踏 査	○	1 (調査の目的)	
	2 予備調査		2 (勧告・結論)	
3 フィジビリティ調査	3 (主なるバックデーター)			
4 実施調査	4 (その他特記事項)			
5 その他				
方 法 論 的 分 類	1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製	○	⑮ 調査評 価	
	2 実態解析 水文解析 地質 地形		1 (調査精度)	
	3 統計調査		2 (技術水準)	
	4 開発計画(提案)		3 (用いられた主なる理論・公式)	
	5 土木施設の設計 詳細 ○ 概略		4 (技術的特色)	
	6 経済予測		5 (調査効果)	
	7 産学研計画			
	8 社会開発計画			
	9 モデルファーム			
	10 その他			

㉞

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査包括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

㉟

調査地域概略図

㊱

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査日の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

㊲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原 名 _____		
ヤク名 _____		

㊳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.28	② 調査対象プロジェクト名 Luang Prabang	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1968~	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考			1 踏査 2 予備調査 ○ 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 1. 5,000写真測量図1968年完成(上流ダムサイト全域) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックグランド) 4 (その他特記事項)
⑪ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等	⑬ 調査評価
⑫ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 貯水池の建設(Pak Beng 下流)		1 2 3			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
					1 実態調査 ○ 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産学研究計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	

09 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査誌括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑩ 調査地域概略図

⑪ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職 (当時)	期 間

⑫ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑬ 特記事項

調査カード

*コード番号 _____

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.29	② 調査対象プロジェクト名 Sayaboury	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 論 的 分 類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 # 地形 # 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルフォーム 10 その他 ○	⑮ 調 査 評 価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 貯水池の建設 (Luang Prabang下流)		⑪ プロジェクト地点の国名				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑩ 調査報告書の概要			
	(原語)	(日本語)	
1.	(報告者名) _____		
2.	調査総括責任者氏名と地位 _____		
3.	(報告書の主要項目についての説明 —— 主として目次による)		
	(項目)	(内容についての概要)	
3.1			
3.2			
3.3			
:			
:			
:			
⑪ 調査地域概略図			
⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項			
(調査団の編成と調査期間)			
団員氏名	格付	担当業務	職(当時)
			期間
⑬ 相手国の受入態勢			
1.	受入機関名	2. 要請した便宜供与	3. 便宜供与の実績
	原 名 _____		
	ヤク名 _____		
⑭ 特記事項			

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 1.30	② 調査対象プロジェクト名 Bung Kan and Thakhek	③ 援助国又は機関名 メコン委員会	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 ○ 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (なるバックデーター) 4 (その他特記事項) 両ダムの変更案として、両サイト間に単一のThakhekハイダム計画がメコン委員会事務局で検討された。
⑩ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実地調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	15 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑪ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 自然流下式低ダムで、Pa Mong, Nam Ngum両計画の建設後雨季にかなりの発電量が期待される。		⑪ プロジェクト地点の国名				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1				
		2				
		3				

09

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査統括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 上として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

09 調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	印

09 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実際

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 4.31	② 調査対象プロジェクト名 Khemarat and Pakse	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考				
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名				
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 自然流下式の低ダムの計画で Pa Mong, Nam Ngum の両計画のダムが建設されれば有効落差はさらに大きくなる。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑨ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑩ 調査地域概略図

⑪ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑫ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 _____ 2. 要請した便宜供与 _____ a. 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

ヤク名 _____

⑬ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 4.32	② 調査対象プロジェクト名 Khone Falls and Stung Treng	③ 援助国又は機関名 ユーゴスラビア メコン委員会	④ 調査年度又は期間(西暦) 1967~1968 1969	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 Final Report on Seismic Investigation of Stung Treng Dam-site 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) Geofizika Enterprise for Applied Geophysics, Zagreb 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 第 一 次 査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項) 1969年1月以降ダム予定線のボーリング地質調査 発注先: Societe Francaise d'Enterprises de Dragages et de Travaux Publics
⑦ 備考		⑩ 備考 メコン事務局の机上調査によると、スタントレンの水を水路を通してStung Senに分流することによってカンボディア大湖の北岸をかんがいし、発電と治水上大きな可能性があるとしている。			方 法 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 実態解析 水文解析 地質 地形 統計調査 開発計画(提案) 土木施設の設計 詳細概略 経済予測 産業開発計画 社会開発計画 モデルファーム その他	⑮ 調 査 評 価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) カンボディアとヴィエトナムの下流デルタ地帯の治水に有効		1 2 3				

⑥ 調査報告書の概要

(原語) Travaux de sondage géologiques (日本語)
 sur le site du barrage du Stung Treng

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の本なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑦ 調査地域概略図

⑧ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑨ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 _____

2. 要請した便宜供与 _____

3. 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑩ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.7 ~ 5.10	② 調査対象プロジェクト名 Mam Pong	③ 援助国又は機関名 日本, フランス, パキスタン, 中華民国	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑧ 報告書の構成等	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他					1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号	
⑦ 備考					⑩ 備考 予備調査: 日本 上流調査: フランス フィージビリティ調査: Rogers International Cooperation ダム・発電所・送電線の設計・監督: Salzgitter Industriean GmbH かんがい計画の予備設計: パキスタン かんがい計画の計画樹立: タイ王立かんがい庁 ダム・発電所建設: Philip Holzman AG および Siemens Bauunion GmbH 送電線の建設: Brown, Boverie Cie および S. A. Elektrifkatione SpA Nong Wai 分水理建設: タイ王立かんがい庁 中華民国: 計画用セメント 1,000 トン	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要					⑪ プロジェクト地点の国名 タイ	
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) ダム・発電所完成 1966年 発電設備 3 × 8.3 MW (設置中) かんがい面積 5 3,000 ha 治水 漁業(貯水池利用) レクリエーション Nam Pong と Nam Pung 両発電所を連結するための 69 KV の送電線の結合 電力は 1969年 かんがいは 1971年完成予定					⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3	
					⑨ 性格的分類(○印を記入)	
					⑬ 内容説明	
					⑭ 調査評価	
					⑮ 調査精度	
					⑯ 技術水準	
					⑰ (用いられた主なる理論・公式)	
					⑱ (技術的特色)	
					⑲ (調査効果)	
					⑳ 調査方法	
					㉑ 調査的	
					㉒ 分類	
					㉓ 詳細	
					㉔ 概略	
					㉕ 経済予測	
					㉖ 産業開発計画	
					㉗ 社会開発計画	
					㉘ モデルファーム	
					㉙ その他	

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原名 _____

ヤク名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.11 ~ 5.12	② 調査対象プロジェクト名 Lower Se Done	③ 援助国又は機関名 フランス, セドナムダムダム委員会	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 フランスのラオスに対する相互借款と贈与				
⑦ 備考		⑩ 備考			⑮ 方法論的分類	⑯ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス				
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Pakse 北方約 30 km のセラバム滝で目下建設中: ダム及び発電所 (720 kw x 3) 予備調査: フランス-ラオス水力局 フィジビリティ調査: SOFRELEC ダム建設と電気設備取り付け: ラオス電力公社 向上施工監督: セドナムダムダム委員会		⑫ 調査が実施されるに至った理由, はいけい等				
		1 2 3				

⑭

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の本主な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑮

調査地域概略図

⑯

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑰ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑱ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 5.13	② 調査対象プロジェクト名 Nam Dong	③ 援助国又は機関名 フランス、セドン・ナムドンダム委員会、米国	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 フランスの相互借款 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑩ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム ⑩ その他	⑪ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑥ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Luang Prabang 南方9 kmに位置し、1969年末ダムと水力発電所(345kwx3)の建設工事開始予定計画調査や施工は Se Dohg 下流と同一機関			1 2 3			

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1 _____

3.2 _____

3.3 _____

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号 _____

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容		
5.16	Nam Ngum (財 政)	オーストラリア・カナダ・デンマーク・日本・オランダ・ニュージーランド・米国・タイ・フランス・カンボディア・ラオス・フィリピン・インドネシア			⑬ 性格的 分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	⑬ 1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	⑭ 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデータ) 4 (その他特記事項)
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他	○	1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号	⑩ 備 考 ○ 1966年6月比推:オーストラリア・カナダ・デンマーク・日本・オランダ・ニュージーランド・米国 計22,815千ドル ○ タイ国:セメント購入費1,000千ドル ○ フランス:300万フラン ○ 1966年3~4月:ナムグム開発基金(カンボディア・ヴィエトナム・ECAFE-委員会) ○ 1968年の追加:オーストラリア デンマーク・日本・オランダ・タイ 米国 ○ 1969年の追加 ニュージーランド 合計 約30,000,000ドル(S)				
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			方 法 論 的 分 類	⑬ 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑭ 3 (主たるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		ラオス					
⑦ 備考		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等					
		1 2 3					

09

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑩ 調査地域概略図

08 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑪ 相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原名 _____		
やく名 _____		

⑫ 特記事項

調査カード

*コード番号 _____

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.17 ~ 5.18	② 調査対象プロジェクト名 Nam Ngum (建設)	③ 援助国又は機関名 カナダ・日本・世銀	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 ⑩ 備考 建設(送電線・変電所): 東洋棉花KK (間組・三井・Joint Venture) 建設(Ban Thaletの工事用橋梁): Christian & Nielsen Ltd.			1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックグランド) 4 (その他特記事項)
⑪ 備考 管理: Acres International Ltd (カナダ) 実施設計・入札仕様書作成 工事監督: 日本工務KK (日)		⑫ プロジェクト地点の国名 ラオス			1 実地調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 # 地形 # 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルフレーム 10 その他	⑭ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑬ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

36

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査責任者氏名と地位 _____

3 (報告書的主要項目についての説明 — 主として目次による) •

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

37

調査地域概略図

38

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

39

相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

, やく名 _____

40

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.19 ~ 5.20	② 調査対象プロジェクト名 Nam Ngum (電力の交換)	③ 援助国又は機関名 タイ・ラオス	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 詳細 概略 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑨ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) タイ・ラオス内国間の国内電力送電網を連結し、国際間電力交換をする。 Mam Ngum完成まではタイがNam PongとNam Pung内計画等で供給し、Nam Ngum完成後ラオスが返還 ウソン・グエンチャン間送電線1968年10月完成 グエンチャン・ナムダム間送電線1968年12月建設開始 1970年早々完工予定		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ ラオス	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)

⑥ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1 _____

3.2 _____

3.3 _____

⑦ 調査地域概略図

⑧ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑨ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

ヤク名 _____

⑩ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.22	② 調査対象プロジェクト名 Lam Nom Doi (建設)	③ 援助国又は機関名 タイ	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏 査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考 1968年度完了した作業名・工事用道路(13km) 幹部築堤,分水トンネル掘削,セメント注入, コンクリート作業契約Ostriani & Nielsen Ltd		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産学開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 前項と同一。		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ				1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
		⑫ 調査が実施されるに到った理由,はいけい等				
		1				
		2				
		3				

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書のなる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項 _____

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.27 ~ 5.28	② 調査対象プロジェクト名 Battambang	③ 援助国又は機関名 SOGREAH (フランス)スイス	④ 調査年度又は期間(西暦) 1961~1964	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画		1 名称			1 (調査の目的)	2 (勧告・結論) 4期に分けた建設計画(フランス案)(2040万ドル) 第1期: Kantu damの建設と23千haのかんがい 第2期: Phum Leao Dam, 発電所, 送電線(33百万ドル) 第3・4期: かんがい拡大, Phum Leaoダムのかさ上げ
2 主流計画		2 言葉の種類				
3 支流計画	○	3 日本語のほんやく書の有無			3 (主なるバックデータ)	4 (その他特記事項)
4 舟航その他輸送		4 資金の性質				
5 洪水警報と治水		5 実施機関(コンサルタント名)			⑮ 調査評価	1 (調査精度)
6 農業・林業及び漁業		6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード				
7 電力市場 工業 鉱物資源		7* O.T.C.Aにかける資料番号			2 (技術水準)	3 (用いられた主なる理論・公式)
8 社会開発と公衆衛生						
9 運用資金		⑩ 備考			4 (技術的特色)	5 (調査効果)
10 管理						
11 その他						
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア			⑯ 方法論的分類	6 経済予測
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) カンボディア西部スタン・サンクール河で計画され、カンボディア政府の最も高い優先度で、1966年のメコン委員会優先計画リストにもせられている。 河川調査、かんがい(58,000ha)、水力発電(31.5MW)を内容としている。 1969年9月からスイス政府も1972年迄の予定で準備作業に入った。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1			8 社会開発計画	9 モデルファーム
		2			10 その他	
		R				

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.35	② 調査対象プロジェクト名 Nam San	③ 援助国又は機関名 オーストラリア	④ 調査年度又は期間(西暦) 1966~1968	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分类 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 ⑩ 備考 第2期フィシビリティ調査(1966~1968, オーストラリア)。 なお, 第1期はタイの国家動力庁によって完成。			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ			方 法 論 的 分 類	⑫ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) Nam Heungの支流に位し, 高さ375mのダムの建設と, 32MWの発電容量を持つ発電所の建設。 タイ国家動力庁が1968年に実施した内容: 17kmの工事用道路 ドリリング800m(導水トンネル・サージンク・発電所の各サイト)		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいはい等 1 2 3				

⑭

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の子なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑮

調査地域概略図

⑯

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑰

相手国の受人態勢

1 受人機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑱

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.38 ~ 5.39	② 調査対象プロジェクト名 Stung Chinit	③ 援助国又は機関名 日本, ノコン委	④ 調査年度又は期間(西暦) 1966~1967 1968~	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑩ 性格的分類 (○印を記入)	⑪ 内容説明	
1 流域計画	○	1 名称	OTCA		段階的 分類	1 (調査の目的)	
2 主流計画		2 言葉の種類					
3 支流計画		3 日本語のほんやく書の有無					
4 舟航その他輸送		4 資金の性質					
5 洪水警報と治水		5 実施機関(コンサルタント名)					
6 農業・林業及び漁業		6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード					
7 電力市場 工業 鉱物資源		7* O.T.C.A.における資料番号					
8 社会開発と公衆衛生		⑩ 備考		方法論 的 分 類	2 (勧告・結論) 本支流の多目的開発計画のフィジビリティ調査をすぐ実施するよう勧告している。		
9 運用資金						1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製	3 (主なるバックデーター)
10 管理						2 実態解析 水文解析 地質 地形	4 (その他特記事項)
11 その他						3 統計調査	⑫ 調査評価
⑦ 備考						4 開発計画(提案)	1 (調査精度)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア	⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等		5 土木施設の設計	2 (技術水準)	
(プロジェクトの種類番号)				1	3 (用いられた主なる理論・公式)		
(プロジェクトの概要)				2	4 (技術的特色)		
大湖に注ぐ支流の一つStung Chinitに高さ20m容量3.7億m ³ のダムを築造し, 常時電力45MWの発電と2.5万haのかんがいを可能にし, 舟航と漁業を改善する。 費用2,500万ドル, 投資効率2.17 (以上 1969年のドラフトレポートから)				3	5 (調査効果)		
				8			

09

調査報告書の概要

(原語) ① Interim Report for the Feasibility Survey of the Ssang Chumit Multi-Purpose Project

(日本語) ② Draft Feasibility Report

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑩ 調査地域概略図

09

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑪ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の人員

原 名 _____

やく名 _____

⑫ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.40	② 調査対象プロジェクト名 大湖湖西地域	③ 援助国又は機関名 メコン委・日本	④ 調査年度又は期間(西暦) 1966~1967 1968~1969	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑦ 報告書の構成等	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他					1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 OTCA	
⑦ 備考					⑧ 備考	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要					⑨ プロジェクト地点の国名 カンチャディア	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 第1次 1966~67 第2次 1968~69(中間報告) 110,500haのかんがい貯水地と分水堰(Stung Barbo, Stung Kompong La, Stung Pursat)の流域と、支流の Stung Dauntri, Stung Mankol Ebrei, Stung Sisophon)によって可能で、また20万ha(うち干拓地115千ha)が洪水防壁される。最終報告は1970年予定。					⑩ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3	
					⑪ 性格的区分(○印を記入)	
					⑫ 内容説明	
					1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	
					1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) かんがい 110500ha コク水防止 200000ha(うち干拓地115000ha) 貯水地と分水堰の建設 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)	
					⑬ 調査評価	
					1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
					⑭ 方法的分類	
					1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	

109

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査員氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

110

調査地域概略図

111

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

112 相手国の受人態勢

- 1 受人機関名
- 2 要請した使直供与
- 3 使直供与の未結

原 名 _____

やく名 _____

113 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.41	② 調査対象プロジェクト名 Stung Sen	③ 援助国又は機関名 日本・メコン委 UNDP	④ 調査年度又は期間(西暦) 1960 1968~	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 予備調査 2 フィジビリティ調査 3 実施調査 4 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考 第1次 1960 日本:贈送 第2次 1968~1969			1 実態調査 2 実態解析 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 6 経済予測 7 社会開発計画 8 モデルファーム 9 その他	⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 貯水池 H, W, L・50m 発電 150GWH かんがい 10万ha (Kompong Thom州) 治水・舟航 Stung Treng又はKhone 滝本流ダムから Stung Senへ分水すれば30~50万haのかんがいが可能。		⑪ プロジェクト地点の国名 カンガディア			⑫ 調査が実施されるに至った理由、はいけい等 1 2 3	

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の本主な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 他国供与の状況 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.42	② 調査対象プロジェクト名 Se Bang Fai	③ 援助国又は機関名 日本・メコン委員会	④ 調査年度又は期間(西暦) 1960年及び1966年	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分类(○印を記入)	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) OTCA メコン委事務局技術部 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			⑭ 内容説明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項) ⑩参照。	
⑦ 備考		⑩ 備考			⑮ 調査評価	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名	ラオス		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 合流点直下流に高35mのフィルダムを築造し、約4万haのかんがいと、25MWHの電力供給の可能性があるとされており、Se Bang Fai河開発後Nam Theun I流から分水することによって発電量増大の見込みがある。		⑫ プロジェクトが実施されるに到った理由、はいけい等	1 2 3		⑯ 方法論 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設的设计、詳細概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	

⑥ 調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の手続き項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑦ 調査地域概略図

⑧ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(日時)	期間

⑨ 相手国の受人態勢

1 受人機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑩ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
5.43	Huai Bang Sai	日本・メコン委員会 SOGREAH	1969~1961 1966		⑥ 性格的分類 (O印を記入)	⑦ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (O印を記入のこと)		⑧ 報告書の構成等			段階的 分類	1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他	1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタンツ名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号		OTCA メコン委員会 SOGREAH			
⑦ 備考		⑨ 備考			方法 論 的 分 類	1 実地調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実地解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他
⑩ 調査対象プロジェクトの概要		⑩ プロジェクト地点の国名		⑫ 調査評価		
(プロジェクトの種類番号)		⑪ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)		
(プロジェクトの概要) Huai Bang Saiとメコン河分岐点の1流30kmに高さ4.5mのダムを築造することによって7.5MW(年間約27MWH)の発電と8千haのかんがいが可能となるものである。 SOGREAHは可能かんがい地域の耕地1.75万haの調査(12500ha)を実施し、この68%はかんがい適地としている。		1 2 3				

09

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

07

調査地域概略図

18

日本に行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(号時)	期間

09 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与のし給

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
5.44	Se Bang Hieng	日本	1960年及び1968年		⑬ 性格的 分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	⑮ 調査評価
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* D.T.C.Aにかける資料番号 ○日本籍チーム ○メコン計画ユニット				
⑦ 備考		⑩ 備考			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 水文研究計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス				
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要)		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1 2 3				

09 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

項目	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

07 調査地域概略図

18 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	印 刷

19 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の結果

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.45	② 調査対象プロジェクト名 Nam Theun	③ 援助国又は機関名 メコン事務局	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 官業の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他(机上計画)	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルフォーム 10 その他	⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 主要支流に2つの連続ダムを設け、1,200MWの発電をする。また上流の置れをSe Bang Fai 支流に分水して、Se Bang Faiの発電可能量は3.3 MWから2.5~3.0MWに増加する。		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス				⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3

⑭ 調査報告書の概要

1 (報告者名) _____
 (原語) (日本語)

2 調査結括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書のなる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

㉑ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.46	② 調査対象プロジェクト名 Stung Pursat	③ 援助国又は機関名 日本・メコン事務局	④ 調査年度又は期間(西暦) 1960年	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			⑮ 調査評価	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Stung Pursat は大湖に南から流入する主要支流の一つで、上流にダムサイト適地があり、発電が可能であり、また堰によって自然流下式のかんがいも可能である。 6つのダム(総貯水量41億m ³)によりかんがい(雨季3万ha 乾季2.2万ha)と発電(11MW 1億kwh/年)を可能にしている。		1 2 3			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 5.47	② 調査対象プロジェクト名 Se Dong 上流	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 路 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 6 詳細 概 略 7 経済予測 8 産業開発計画 9 社会開発計画 10 モデルファーム 11 その他	⑮ 調 査 評 価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 上流にダム構築が可能で、この場合Se Dong 下流の発電規模は増大し、Saravane平野のための発電がいよいよ治水上の便益が増加する。		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス				1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はげしい等				
		1				
		2				
		3				

①

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1. (報告者名) _____
2. 調査総括責任者氏名と地位 _____
3. (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

② 調査地域概略図

③

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

④ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 2. 要請した便宜供与 3. 他機関との実績

原 名 _____

やく名 _____

⑤ 特記事項

調査カード

*コード番号 _____

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 5.48	② 調査対象プロジェクト名 Nam Mae Ing	③ 援助国又は機関名 ノコン委・NEA	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968年	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.にかける資料番号			1 踏査 ○ 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) Nam Mae Kok からかんがい用水を分水できるなら, Nam Mae Ing にダムを建設する必要はなく, 堰のみ作ればよい。 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ			⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書的主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
------	----	------	-------	----

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

㉑ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 5.49	② 調査対象プロジェクト名 Nam Mae Kok	③ 援助国又は機関名 Salzgitter Industrie- ban GmbH, スイス・ 独	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968~	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 10. 管 理 11. そ の 他		1. 名 称 2. 言葉の種類 3. 日本語のほんやく書の有無 4. 資金の性質 5. 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			段階的 1. 踏 査 2. 予備調査 ○ 3. フィジビリティ調査 4. 実施調査 5. その他 ⑤	1. (調査の目的) 2. (勧告・結論) 3. (主なるバックデータ) 4. (その他特記事項) 1969年にフィジビリティ調査に対する援助が行なわれる。
⑦ 備考		⑩ 備考 スイス：地下水流動(1969~1971) ドイツ：表流水(発電・かんがい用)			方 法 論 的 分 類	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Chiang Rai 上流約15kmのダムによって78千haのかんがいと約100GWhの発電量が期待でき、Nam Mae Ing 流域にかんがい用水を分水できる。		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等		
		1		6 経済予測		
		2		7 農業開発計画		
		3		8 社会開発計画		
				9 モデルファーム		
				10 その他		

⑭ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査結括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑮ 調査地域概略図

⑯ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑰ 相手国の受人態勢

1 受人機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑱ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 5.50	② 調査対象プロジェクト名 Pak Mun	③ 援助国又は機関名 フランス	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968~	⑤ 調査金額 円又はドル -	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックグランド) 4 (その他特記事項)
⑩ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑪ 調査評価
⑥ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名	タイ			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 25mの高さのダムによって設備容量80MWの発電所、送電線を建設し、Ram Dom Noi 計画と運けいする。その他漁業、かんがい等に便益が及ぶ。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1 2 3				

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実際

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 6.3	② 調査対象プロジェクト名 舟航改善	③ 援助国又は機関名 メコン委員会	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑩ 性格的分類 (○印を記入)	⑪ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考 1960年舟航改善計画起草 引続きAd Hoc 舟航小委によってメコン委員会5 次年(64~68)作業計画に編入。 1968年舟航改善セミナーにおいて検討。			⑫ 調査評価	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要)		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1 2 3				

06

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書的主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

① 調査地域概略図

08

日本に行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

② 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

③ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 6.4	② 調査対象プロジェクト名 水路測量	③ 援助国又は機関名 メコン委員会・ ヘルギー・カプダ・フランス・ ニューゼーランド・英・米	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968年	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 ○ 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 飲物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考				
⑦ 備考					⑮ 方法論	⑯ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア・ラオス・タイ				
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 航行困難な部分の水路測量		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1				
		2				
		3				

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受人態勢

1 受人機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実際

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 6.6	② 調査対象プロジェクト名 水路標識	③ 援助国又は機関名 インドネシア	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			⑮ 調査評価	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 4カ国	⑫ 調査が実施されるに至った理由、はいけい等			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 発光浮標の維持 カンボディアにおける発光浮標の再設置 ヴィエトナムでは Bassac 河口と Can Tho に至る水路への浮標設置 ラオス難航水路に対する竹製浮標設置		1 2 3			1 実施調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実施解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産出調査 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

ヤク名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号 _____

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 6.7	② 調査対象プロジェクト名 運河改良	③ 援助国又は機関名 英国・Esso・オランダ	④ 調査年度又は期間(西暦) 1964, 1967 1968	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容				
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと) <table border="1"> <tr> <td> 1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">○</td> <td> ⑨ 報告書の構成等 1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考 </td> </tr> </table>					1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他	○	⑨ 報告書の構成等 1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考	⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
					1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他	○	⑨ 報告書の構成等 1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考		
⑦ 備考	⑪ プロジェクト地点の国名	⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等	段階的 分類	1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 1 災態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 災態解析 水文解析 地質" 地形" 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業研究計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項) ⑯ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)				
⑧ 調査対象プロジェクトの概要									
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) イギリス: Keng Kabao で, 運河にある岩盤障害物を爆破 Esso : 上記爆破操作を記録映画 オランダ: 渡せつ船の寄贈 Luang Prabang - Vientian の間の上流部の航空写真測量のための明細書の準備完了。									

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査包括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の手なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

- 3.1
- 3.2
- 3.3

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 _____
 - 2 要請した便宜供与 _____
 - 3 便宜供与の夫積 _____
- 原 名 _____
- やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 6.8	② 調査対象プロジェクト名 港務・船着き場 船荷取扱	③ 援助国又は 機関名 水国	④ 調査年度 又は期間(西暦) 1968年	⑤ 調査金額 又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく 書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) Transportation Consultant Inc 6* プロジェクト調査 に対し援助国又は 機関が多い場合の 関連調査カード番 号とそのコード 7* O.T.C.A.における 資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 # 地形 # 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の 設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑮ 調 査 評 価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス・タイ				
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Paske, Luang Prabang間の航行改善のため の報告書						

⑤ 調査報告書の概要

(原語) Feasibility Study of (日本語)
 Port, Cargo-Handling and Boat-building
 Facilities, Mecong River,

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の子なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑥ 調査地域概略図

⑦ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑧ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 _____

2. 要請した便宜供与 _____

3. 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑨ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 6.9	② 調査対象プロジェクト名 造船所兼訓練センター	③ 援助国又は機関名 英国	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968年	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 10. 管理 11. その他		1. 名称 2. 言葉の種類 3. 日本語のほんやく書の有無 4. 資金の性質 5. 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1. 踏査 2. 予備調査 3. フィンビリティ調査 4. 実施調査 5. その他	1. (調査の目的) 2. (勧告・結論) 3. (主なるバックデーター) 4. (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考 1968年の舟航改善セミナーでさらに高度なものとなる。			方法論的分類 1. 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2. 実態解析 水文解析 地質 地形 3. 統計調査 4. 開発計画 (提案) 5. 土木施設的设计 詳細 概略 6. 経済予測 7. 産業開発計画 8. 社会開発計画 9. モデルファーム 10. その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス・タイ				1. (調査精度) 2. (技術水準) 3. (用いられた主なる理論・公式) 4. (技術的特色) 5. (調査効果)
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1.				
		2.				
		3.				

⑯

調査報告書の概要

- (抄訳) ① Report on Technical Training and Mekong Ship-
building Training Center. (日本語)
② Navigation Improvement Programme for the Lower
Mekong Basin - Proposed Training Arrangements for
Shipyard and Other Industrial Personnel with Particular
Reference to Thailand and Laos
- 1 (報告者名) _____
- 2 調査結括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑱ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ a 便宜供与の実績 _____
- 原 名 _____
- やく名 _____

㉑ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 6.10	② 調査対象プロジェクト名 船 舶	③ 援助国又は機関名 ニュー・ラント・香港	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑦ 備考 ニュー・ラント:ジェットポート4隻寄贈 香港:贈与金でクアイバークラス製ポート1隻購入		⑩ 備考			方 法 論 的 分 類	⑮ 調 査 評 価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書的主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

日員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 他官供与の状況

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 6.11	② 調査対象プロジェクト名 パイロット	③ 援助国又は機関名 オランダ	④ 調査年度又は期間(西暦) 1965~1969	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容			
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分类 (○印を記入)	⑭ 内容説明		
1 流域計画	○	1 名称			段 階 的 分 類	1 (調査の目的)		
2 主流計画		2 言葉の種類				方 法 論 的 分 類	2 (勧告・結論)	
3 支流計画		3 日本語のほんやく書の有無					3 フィジビリティ調査	⑯ 調査評価
4 舟航その他輸送		4 資金の性質					4 実施調査	
5 洪水警報と治水		5 実施機関 (コンサルタント名)					5 その他	
6 農業・林業及び漁業		6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製		3 (主なるバックデータ)	
7 電力市場 工業 鉱物資源		7* O.T.C.Aにおける資料番号			2 実態解析 水文解析 地質 地形	4 (その他特記事項)		
8 社会開発と公衆衛生		⑩ 備考			3 統計調査			
9 運用資金		⑪ 備考 感潮域パイロット訓練計画 Kompong Cham Phnom Penhとカンオディア・ヴィエトナム国境間の航行安全のためのパイロット訓練(13人)			4 開発計画 (提案)			
10 管理					⑫ プロジェクト地点の国名 カンオディア	5 土木施設の設計 詳細 概略	1 (調査精度)	
11 その他					⑬ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等	6 経済予測	2 (技術水準)	
⑦ 備考			1	7 産出開発計画	3 (用いられた主なる理論・公式)			
⑧ 調査対象プロジェクトの概要			2	8 社会開発計画	4 (技術的特色)			
(プロジェクトの種類番号) _____		3	9 モデルファーム	5 (調査効果)				
(プロジェクトの概要) _____			10 その他					

⑥ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑦ 調査地域概略図

⑧ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑨ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 _____
 - 2 要請した便宜供与 _____
 - 3 便宜供与の実績 _____
- 原 名 _____
- やく名 _____

⑩ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 6.12	② 調査対象プロジェクト名 本湖ダムの舟航面	③ 援助国又は機関名 メコン委	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968年	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑩ 備考 Pa Mongダム, Samborダムの舟航面について第4回舟航改善セミナーで議論。(4.14~4.19参照)		⑪ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 詳細 概略 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ・ラオス・カンボディア	⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)

09 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

項目	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

09 調査地域概略図

18 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

09 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 6.13	② 調査対象プロジェクト名 セミナー (第4回地域セミナー)	③ 援助国又は機関名 メコン委 カナダ イスラエル フランス 日本 英国 米 国 国連 機関 アジア 開発 イデア	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968年	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的区分 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考 1960年以降のメコン河の輸送舟航の再検討 1)メコン河輸送に関する国内問題と将来の展望 2) Luang Prabang - Pakse 間の舟航改善, 船荷取扱い, 港務船着場, 造船等 3) 岩盤爆破 4) 造船と訓練 5) 舟航の法制上の問題 6) 輸送舟航計画 7) 舟航と各ダム 8) 各橋梁との関連 9) 1969年改善計画の作成		⑩ 備考			1 災患調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 災患解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	09 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名 _____			⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3	

⑩ 調査報告書の概要

1. (報告者名) (原語) Fourth Regional Seminar on Navigation Improvement, Bangkok (日本語)

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書的主要項目についての説明 — 主として目次による)

(目 次)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間
------	-----	------	-------	-----

⑬ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 _____ 2. 要請した便宜供与 _____ 3. 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 7.1 ~ 7.4	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名 UNDP, CNESCO, アフリカ, インド, WMO, ITU	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.にかける資料番号			⑭ 内容説明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)	
⑦ 備考 ・UNESCO/SOGREAH 数学的モデル研究を奨励させた洪水予報図を開発させるために、UNDP の援助を要請している。 ・メコン委から UNDP にメコン河全流域の洪水予報システム設置のための援助を求めている。		⑩ 備考 1969年1月に UNESCO, WMO, ITU の専門家チームを UNDP によって派遣。			⑯ 調査評価	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア		⑰ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3		
					⑫ 方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

副員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.3	② 調査対象プロジェクト名 実施展示農場	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 官業の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 将来のかんがい開発に関する比較・基本データ入手および流域内の水利用の促進のため、すでに運営しているもの：4農場 フォス：Vientiane Plain Farm カンガディア：Prek Thnot, Battambang タイ：Kalasin 設立する予定：ヴェトナム：Eat Mat (中国の援助) 検討中のもの：3農場 ヴィエトナム：My Phuoc, Trans Bussac, Plain des Jones			1 2 3			

⑩ 調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査陸括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	取(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容		
8.4 ~ 8.5	Vientiane Plain 農場	FAO USAID イスラエル オーストラリア	1962年~		⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段階的 分類	⑬ 性格的分類 1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	⑭ 内容説明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデーター) 4 (その他特記事項)
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他	○	1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 国連特別基金 5 実施機関 (コンサルタント名) FAO Italconsult 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号	⑩ 備考	1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 # 地形 # 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他			
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス			方法的 分類	⑬ 性格的分類 1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	⑭ 内容説明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Nam Ngum/Vientiane 平野かんがい計画での最初の5000 haのため設立。 200人の農民が参加し、1968年には乾季と雨季の耕作実験を行った。 主要活動 1) タバコ・トマトに対するうね間かんがい法 2) トウモロコシの改良耕作法 3) トウモロコシを市場に出す上での助力 1969年は水稲の実験が行われた 1) 収穫・植付の労働力と最適植付期の決定 2) 短量化に対するCCCの取扱い、他。 また1969年に実施されたものは 揚水機場(ディーゼルポンプ4台) 1969年45ha 1970年200haにかんがい (アメリカから) トラクター1台(コンソ計画によりオーストラリアから)がある。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3					

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 8.6	② 調査対象プロジェクト名 Kalasin農場	③ 援助国又は機関名 FAO メコン委員会	④ 調査年度又は期間(西暦) 1965年~	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 国連特別基金 5 実施機関 (コンサルタント名) FAO 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにかける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックグーター) 4 (その他特記事項)
⑩ 備考		⑪ 備考			方法論的分類 1 実態調査 2 実態解析 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑫ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑬ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) タイ北東部のほとんど全域 耕作農作物 耕作方法決定のためいっそうの土壌試験を必要とする。 また、1969年には、かんがいシステムの展示、品種比較試験が実施された。		⑭ プロジェクト地点の国名	タイ	⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3		

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.7	② 調査対象プロジェクト名 Prek Thnot 農場	③ 援助国又は機関名 イスラエル	④ 調査年度又は期間(西暦) 1965年~	⑤ 調査金額又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑩ 性格的分類(○印を記入)	⑪ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考			1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックグーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア			方法論的分類 1 実態調査 2 実態解析 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑫ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Prek Thnot 支流かんがい計画における作付パターンの開発を計画し、技術者・労務者の養成を計画。農場に近接した模範村の拡張事業の継続と、Phnom Penh 市場向け野菜作りが進行している。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑯

調 査 報 告 書 の 概 要

(原 語)

(日 本 語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の異なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑰

調査地域概略図

⑱

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	取(当時)	期 間

⑲

相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑳

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.8	② 調査対象プロジェクト名 Battambang農場	③ 援助国又は機関名 フランス・FAO	④ 調査年度又は期間(西暦) 1966年~	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		国連特別基金 FAO BDPA(フランス)			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑩ プロジェクト地点の国名 カンボディア			⑪ 調査が実施されるに到った理由、はげしい等	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 1970年にかんがい用水利用可能となるよう建設が1969年に完成した。 実験ほ場15ha展示ほ場300haとなっている。 1969年末でBDPA専門家3人、カンボディア人は技師2人、技能者7人がスタッフを構成している。		1 2 3				

09

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑩ 調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑪ 相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原名 _____		
やく名 _____		

⑫ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.9	② 調査対象プロジェクト名 Eat Mat 農場	③ 援助国又は機関名 中 華 民 国	④ 調査年度又は期間(西歴) 1967年~	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑦ 報告書の構成等	
					⑧ 備考	
⑨ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 16.4 haのかんがい実験地区の運営					⑩ プロジェクト地点の国名 ウ ィ ー ト ナ ム	
					⑪ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3	
⑩ 備考					⑫ 調査の性格的分類(○印を記入)	
					⑬ 内容説明	
⑪ 備考					⑭ 調査評価	
					⑮ 調査精度	
⑫ 備考					⑯ 調査効果	
					⑰ 調査結果	

⑥

調 査 報 告 書 の 概 要

(原 語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の異なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑦

調査地域概略図

⑧

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間

⑨

相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の夫続

原 名 _____

やく名 _____

⑩

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.10	② 調査対象プロジェクト名 My Phuoc 農場	③ 援助国又は機関名 フランス	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 路査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 ヴェトナム	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 25haの実験地と200~300ha属小地区とからなりQuan-Lo, Phung Hiep地域の約40haに与えている潮汐による浸水の問題を解決することを目的としている。 フランスが開拓プランを準備したが1964年中断した。		1 2 3				

06

調 査 報 告 書 の 概 要

(原 語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として日仏による)

(項 目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

07

調査地域-概略図

08

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	取(当時)	期 間

09 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 _____
- 2 要請した便宜供与 _____
- 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

10 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 8.11	② 調査対象プロジェクト名 その他の実験農場	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑩ 備考		⑪ 備考			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑬ プロジェクト地点の国名	⑭ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) メコンデルタと Jones 平野に役立つ。ヴィエトナムでの3カ所の実験展示農場の設立が提案されている。 Trans Bassac 地区 } 排水洪水問題 My Phuoc 地区 } Jones 平野の農場、Sambor・Tonle Sap 水産開発計画と関連して排水改良調査をすること。		ヴィエトナム	1 2 3			

調査カード

*コード番号 _____

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.12 ~ 8.14	② 調査対象プロジェクト名 4カ所の実験農場の比較	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)	
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 論 的 分 類	1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 作物の生産性水準に関するもの考察 (1) もみ収量に及ぼす土壌の固有の肥力の影響 (2) もみまたは乾季穀物収量に及ぼす化学肥料の影響 詳細な比較については省略		⑪ プロジェクト地点の国名 _____					
		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3					

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.15	② 調査対象プロジェクト名 開拓計画	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 官業の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 ⑩ 備考				
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			方 法 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 詳細 概 略 7 経済予測 8 産業開発計画 9 社会開発計画 10 モデルファーム 11 その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 大規模かんがい計画の第1期事業で、数千の家族が含まれている。主要目的は以後に続く、大々的な開発の維持管理を効率的に行なっていく上で必要な機構を作り上げていくことにある。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の手なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 他国供与の状況 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.16	② 調査対象プロジェクト名 Vientiane Plain	③ 援助国又は機関名 フィリピン、ニュージーランド イスラエル、アジア 開発	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1968年	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考 アジア開発 32000haの総合農業開発計画の準備を行なう技術援助調査団の派遣に同意した(68年10月)			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) フィリピン: 5,000haの詳細な地形図 イスラエル: 第1期開拓分 1,000ha分の研究 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項) ⑪ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑪ 調査対象プロジェクトの概要		⑫ プロジェクト地点の国名				
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 5000haのバイオミアプロジェクトとしてイスラエルが総合計画を1970年にレポートとする予定でまたポンプ場と幹線水路の設計レポートが1970年8月迄に提出される。		⑬ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1 2 3				

<p style="text-align: center;">⑩ 調査報告書の概要</p> <p style="text-align: center;">(原語) (日本語)</p> <p>1 (報告者名) _____</p> <p>2 調査総括責任者氏名と地位 _____</p> <p>3 (報告書の異なる項目についての説明 — 主として目次による)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; border-bottom: 1px dashed black; text-align: center;">(項目)</td> <td style="border-bottom: 1px dashed black; text-align: center;">(内容についての概要)</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px dashed black;">3.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px dashed black;">3.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px dashed black;">3.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px dashed black;"> </td> <td></td> </tr> </table>	(項目)	(内容についての概要)	3.1		3.2		3.3				<p style="text-align: center;">⑪ 調査地域概略図</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; margin: 5px 0;"></div> <p style="text-align: center;">⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項</p> <p style="text-align: center;">(調査団の編成と調査期間)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">団員氏名</th> <th style="text-align: left;">格付</th> <th style="text-align: left;">担当業務</th> <th style="text-align: left;">職(当時)</th> <th style="text-align: left;">期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">⑬ 相手国の受入態勢</p> <p>1 受入機関名 _____</p> <p style="margin-left: 150px;">2 要請した便宜供与 _____</p> <p style="margin-left: 300px;">3 便宜供与の実績 _____</p> <p style="margin-left: 150px;">原 名 _____</p> <p style="margin-left: 150px;">やく名 _____</p> <p style="text-align: center;">⑭ 特記事項</p>	団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間					
(項目)	(内容についての概要)																				
3.1																					
3.2																					
3.3																					
団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間																	

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.17	② 調査対象プロジェクト名 Drek Thnot	③ 援助国又は機関名 UNDP, FAO	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968~	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.にかける資料番号 FAO			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑩ 備考		⑩ 備考			方 法 論 的 分 類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) ⑮ 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑯ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボジア	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 5,000ha(第1期)の建設設計の作成をカンボジアから要請された。1970年末には終り以後建設が始まる。						

⑩

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の異なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑪

調査地域概略図

⑫

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.18	② 調査対象プロジェクト名 Nam Pong-Lam Pao	③ 援助国又は機関名 メコン事務局, 中華民国タイ政府王立かんがい庁 アジア開発	④ 調査年度又は期間(西暦) アジア開発	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考 中華民国の費用で、台省のかんがい組合の組織・運転状況を学ぶための研修旅行が組織された。 アジア開発が1970年から詳細設計のチーム派遣を実施することになっている。			⑭ 内容説明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)	
⑦ 備考 Nam Pong (Nong Wai)及びLam Paoかんがい計画のためのかんがい施設の建設を続けた。		⑪ プロジェクト地点の国名 タイ			⑮ 調査評価	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
					⑬ 性格的分類 (○印を記入) 段階的 1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 方法論 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設的设计 6 詳細 7 概略 8 経済予測 9 産期開発計画 10 社会開発計画 11 モデルファーム 12 その他	

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 8.19	② 調査対象プロジェクト名 デルタ地域開発	③ 援助国又は機関名 メコン委員会 オランダ	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968年 1969年	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農菜・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑦ 備考 マスタープラン作製 洪水調節, 築堤, 排水, かんがい諸案の比較検討		⑩ 備考 1970年からオランダによる農業生産に関する水利制御とコウ水に対する測量を開始する。			⑮ 調査評価	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名 ヴェトナム カンガディア			⑯ 調査精度 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3				

06

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

07

調査地域概略図

08

日本に行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

09

相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の去来

原 名 _____

ヤク名 _____

20

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KAJO

① 調査カード番号 8.20 ~ 8.22	② 調査対象プロジェクト名 米作セミナー	③ 援助国又は機関名 FAO イスラエル メコン事務局	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968年10月	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農産・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑦ 備考 国際米作研究所(フィリピン政府とロックフェラー財団の援助によって運営)とフォード財団からの1万ドルの寄付によってLos Baños(フィリピン)で開催		⑩ 備考			⑩ 調査評価	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑪ プロジェクト地点の国名 _____				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3				

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	期 間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実際

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
8.23	農業普及	アメリカ・イスラエル メロン委員会			③ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段階的 分類	⑤ 調査評価
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにかける資料番号 ⑩ 備考				
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス・タイ カンボディア			⑥ 方法論的 分類	⑤ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 農業開発の重要な一面を占める。 農業教育の調査を実施する UNESCO/FAO の計画があるので、農業普及員訓練計画の基礎にするため沿岸フランス語国の農業普及調査を実施するのに BDPA の援助を求める必要はなくなった。 フォスにおいてラオス政府が設立した農業開発機構にアメリカから援助している。 カンボディアではイスラエルで訓練する協定が成立した。 タイでは農業普及員が組織された。		1 2 3				

06

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の1なる項目についての説明 — 主として日次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

07

調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当否)	期間

09 相手国の受入態勢

1 受人機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の去積

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容			
8.24	肥料効果の展示	Hindustan Zinc Co. Ltd. メコン事務所			③ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段階的 分類	④ 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)		
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号					方法論 的 分 類	1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他
⑦ 備考		⑩ 備考						
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) Hindustan Zinc Co. Ltd. - メコン事務所の依頼に応じて、5トンの過リン酸を提供した。これは Prek Thnoi 実験展示場において肥料効果を示すのに用いられている。 他の因子(品種、農薬等)の条件を変えなくても平均1.25%の増収がこれらの結果で報告されている。			1 2 3					

06

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

07

調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

09 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

08 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.25	② 調査対象プロジェクト名 協同組合と資金貸出	③ 援助国又は機関名 BDPA・メコン事務局 中華民国・アメリカ	④ 調査年度又は期間(西暦) 1967年	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 10. 管理 11. その他		1. 名称 2. 言葉の種類 3. 日本語のほんやく書の有無 4. 資金の性質 5. 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考			1. 踏査 2. 予備調査 3. フィジビリティ調査 4. 実施調査 5. その他	1. (調査の目的) 2. (勧告・結論) 3. (主なるバックデータ) 4. (その他特記事項)
⑦ 備考 ラオス：Vientiane 工大に協同組合のパイロット計画についての部門設立 タイ、多目的型の協同組合の設立、開発のための法案の準備。中国から5人のチーム派遣した。		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス・タイ・ヴィエトナム			方 法 1. 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2. 実態解析 水文解析 地質 地形 3. 統計調査 4. 開発計画(提案) 5. 土木施設の設計 詳細 概略 6. 経済予測 7. 産業開発計画 8. 社会開発計画 9. モデルファーム 10. その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) タイの協同組合の数の増加 223(1964年)→718(1968年) 農業信用貸出し：約500カドル ヴィエトナム(1969年)貸出33百万ドル ラオス(1969年)農業肥料の貸出 34 百万ドル (アメリカのUSAIDが協力)		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1. 2. 3.				1. (調査精度) 2. (技術水準) 3. (用いられた主なる理論・公式) 4. (技術的特色) 5. (調査効果)

99

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査結核責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の1なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

100

調査地域概略図

101

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

102 相手国の受入態勢

1 受人機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原名 _____		
やく名 _____		

103 特記事項

調査カード

* コード番号 _____

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.26	② 調査対象プロジェクト名 土地の所有	③ 援助国又は機関名 FAO	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明	
1 流域計画		1 名称		FAO	段階的 分類	1 (調査の目的) タイ：地籍調査、土地所有形態、管理に留意した形でのタイ国における土地所有と土地開発問題に重点をおいた報告 ラオス・カンボディア、土地所有と土地開発の問題と可能性を明らかにしている。また土地所有の状況・土地と水の効果的利用の問題が検討されている。 ウイトナム 147千haのはげ地整備が1969年に計画された。	
2 主流計画		2 言葉の種類				2 (勧告・結論)	
3 支流計画		3 日本語のほんやく書の有無				3 (主なるバックデータ)	
4 舟航その他輸送		4 資金の性質				4 (その他特記事項)	
5 洪水警報と治水		4 実施機関(コンサルタント名)					
6 農業・林業及び漁業	○	5 実施機関			方法論 的 分 類	⑮ 調査評価	
7 電力市場 工業 鉱物資源		6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード				1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製	1 (調査精度)
8 社会開発と公衆衛生		7* O.T.C.Aにおける資料番号				2 実態解析 水文解析 地質 地形	2 (技術水準)
9 運用資金		⑩ 備考				3 統計調査	3 (用いられた主なる理論・公式)
10 管理						4 開発計画(提案)	4 (技術的特色)
11 その他					5 土木施設の設計	5 (調査効果)	
⑦ 備考				訂 概 略			
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名	ウイトナム・タイ・ラオス・カンボディア	6 経済予測			
(プロジェクトの種類番号) _____		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等		7 産業開発計画			
(プロジェクトの概要)		1		8 社会開発計画			
		2		9 モデルファーム			
		3		10 その他			

09

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) Land Reforms in Thailand

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書のなる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1 タイ国における土地定着問題と土地開発問題に重点をおいた包括的報告

3.2

3.3

07

調査地域概略図

08

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

09 相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原 名 _____		
やく名 _____		

09 特記事項

09

調 査 報 告 書 の 概 要

(原 語) (日本語)

1 (報告者名) Land Problems in Laos and Report on Cambodia

2 調査総括責任者氏名と地位

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目) (内容についての概要)

3.1 メコン河流域のラオス、カンボディア2国における土地所有の状況、土地と水の効果的利用の問題が検討されている。

3.2

3.3

07

調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

1 氏名 格 付 担当業務 職(当時) 期 間

08

相手国の受入憑券

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実際

原 名 _____

や く 名 _____

09

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 8.27	② 調査対象プロジェクト名 林業	③ 援助国又は機関名 USAID, インド, FAO, カナダ, オーストラリア	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)			⑧ 報告書の構成等		⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他			1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			
⑦ 備考 カナダ・オーストラリア：ラオスに対して協力 インド：林業統計 アメリカ：ラオスに対して経済産業利用調査 FAO：地域林業専門家の長期派遣			⑩ 備考 フオム・Ventiane Savanaket Pakseを含む タイ：パルプ紙工業用可能かどうかの試験のため松、竹、ユーカリを植林(タイ北東部) Pa Mong, Lam Dum Noi：森林資源調査は1968年位 未までに完了。		1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑯ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑨ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____			⑪ プロジェクト地点の国名 タイ・ラオス	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3		

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の子なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	
⋮	
⋮	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期 間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実際

原 名 _____

ヤク名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.28	② 調査対象プロジェクト名 流域管理	③ 援助国又は機関名 FAO	④ 調査年度又は期間(西暦) 1967~1968	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分期 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語の仮んやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考 1967年: Nam Pong流域 1968年: Lam Dom Noi計画 1968年: Prek Thnot流域 Nam Ngum流域				
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			⑮ 方法的分期	⑯ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

09 調査報告書の概要

(原助) ① Report on Watershed Management on the Lam Dum Noi Hydro- (日本助)
 electric Project in Northeastern Thailand, J. Turbang and
 Tum Siam tinard
 ② Report on Reservoir and Watershed Muxgement for the Nam
 Ngum Hydro-electric Project, Laos

1 (報告者名)

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

07 調査地域概略図

18 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間

19 相手国の受入奨励

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の長短 _____

原 名 _____
 やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
8.29	漁系	ノコン委員会 IBP:日本	1967~1968		⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			段階的 分類	⑮ 調査評価
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 日本IBP(国際生物プログラム)				
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑩ プロジェクト地点の国名			⑯ 調査精度	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) ノコン流域およびTonle Sap湖の漁業調査研究地点の検討		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			⑰ 詳細概略	
		1			6 経済予測	
		2			7 産業開発計画	
		3			8 社会開発計画	
					9 モデルファーム	
					10 その他	

09 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の1つある項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

07 調査地域概略図

18 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

19 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 2. 要請した便宜供与 3. 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.30	② 調査対象プロジェクト名 Pa Mong	③ 援助国又は機関名 ノコン事務局 USBR・NEA	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 USBR Pa Mongチーム 国々電力局(NEA)			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) Pa Mong貯水前調査第1期 動物用 水圏生物学, 専業農業 社会経済的問題 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	39 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要)		⑩ プロジェクト地点の国名	* 1			
		⑪ 調査が実施されるに至った理由, はいけい等				
		1				
		2				
		3				

⑯ 調査報告書の概要

(原 語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間

⑲ 相手国の受人態勢

1. 受人機関名 2. 要請した便宜供与 3. 便宜供与の夫数

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号 _____

N	NAME	INAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 8.31	② 調査対象プロジェクト名 Nam Pong	③ 援助国又は機関名 アメリカ	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにかける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) Nam Pong 貯水池野水係に関する調査(漁獲高・収量等) 2 (勧告・結論) 1) 健康魚種は減少するか漁獲量は増大する。 2) 概算としての漁獲は成立し、ときには農業からの私営も付随的に起こる。 3) 好ましくない水草が繁殖する。 4) Cyprinid (コイ科の魚)の漁獲量が減少する。 5) 水草の繁殖と人獣を制御すれば Cyprinid の漁獲は良好となる。
⑩ 備考		⑩ 備考			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細概略 6 経済調査 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑩ プロジェクト地点の国名 _____			⑪ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等	⑫ 調査評価
					1	1 (調査精度)
					2	2 (技術水準)
					3	3 (用いられた主なる理論・公式)
						4 (技術的特色)
						5 (調査効果)

16 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書のすなわち項目についての説明 — 主として目次による)

、 項 目) (内容についての概要)

3.1 _____

3.2 _____

3.3 _____

17 調査地域概略図

18 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間

19 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の1稿 _____

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.33	② 調査対象プロジェクト名 Nam Ngum	③ 援助国又は機関名 メコン事務局	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)			⑨ 報告書の構成等		⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他			1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 ⑯ 備考			
⑦ 備考			⑩ 調査対象プロジェクトの概要			
			⑩ プロジェクト地点の国名 ノム			
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)			⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいい等			
			1			
			2			
			3			

09

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 1として目次による)

項 目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

17 調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

日付氏名	格付	担当業務	職(当時)	期 間

19 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の1紙

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 8.34	② 調査対象プロジェクト名 Prek Thnot	③ 援助国又は機関名 ノコン事務局	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aに於ける資料番号			1 1 階 査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論)
⑩ 備考		⑪ 備考 1 好運種稚魚の第一歩としてマレーシアからCyprinus carpioの稚魚が贈与された。 2 貯水池漁業管理の観点からカンガディア人の漁業技術者の訓練を提案している。			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑫ 調査対象プロジェクトの概要		⑬ プロジェクト地点の国名 カンガディア			⑭ 調査評価	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 1 水貯池に稚魚を入れるために適正種を育てる養魚場を建設すること。 2 貯水池区域の植物の除去 3 漁港建設		⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	

⑨ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の子なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑩ 調査地域概略図

⑪ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑫ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑬ 特記事項 _____

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額又はドル	調査内容	
9.2 ~ 9.4	家庭用電力市場	メコン委・米国AID			⑥ 性格的分類 (○印を記入)	⑦ 内容説明
⑧ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段階的 分類	⑧ 調査評価
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他	○	1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号	SOFRELEC社 AID	1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルフレーム 10 その他		
⑩ 備考		⑩ 備考			論 的 分 類	⑨ 調査評価
⑪ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名	4カ国	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3		

⑩

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査対象責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 上として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑪

調査地域概略図

⑫

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬

相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原 名 _____		
やく名 _____		

⑭

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 9.5 ~ 9.6	② 調査対象プロジェクト名 UNIDO調査	③ 援助国又は機関名 UNIDO	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 ○ 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.に於ける資料番号			1 路 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論)
⑦ 備考		⑩ 備考			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名				⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等
						1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)

09 調査報告書の概要

(原語) Final Report of the UNIDO Mission (日本語)
on the Investigation of Industrial
Development in the Lower Mekong Basin
and its Four Riparian Countries.

1 (報告者名) _____

2 調査包括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として日次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1 計画決定の際に考慮すべきこと。	沿岸各国政府とメコン委員会とは計画決定の際相互に相手側の計画を考慮すること。
3.2 今後の産業開発の方向性	農業効率を高めるような物品を供給する産業、輸出利益を増大させる農産物加工産業、輸入産物を国内で作りあげていく産業。
3.3 工業開発促進のための諸方策の修正	管理運営上の障害の除去、合理的な料金徴収計画の作成、鉱業規則の立法化、徴税政策の再検討。
3.4 各種の電力開発の統合	個々ばらばらでなく統合した形で計画を立て、さらに電力の構成も考える。
3.5 工業促進諸活動の拡大・統合	
3.6 各種工業の新規の、または修正されたフィージビリティ調査の実施	アルミニウム工業、中規模のパルプ・紙工業、薬業・塑料工業、合成化学大工業。
3.7 その他	工業品質管理、職業訓練、統計サービス

17 調査地域概略図

18 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	幣 付	担当業務	職 (当時)	期 間

19 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実際 _____

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容						
9.7	カルウムカーバイド工業	UNDP	1967年		③ 性格的分類 (○印を記入)		④ 内 容 説 明				
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	1 路 査 2 予備調査 3 フィンビ リテイ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的)				
1 流域計画	2 主流計画	3 支流計画	4 舟航その他輸送	5 洪水警報と治水			6 農業・林業及び漁業	7 電力市場 工業 鉱物資源	8 社会開発と公衆衛生	9 運用資金	10 管 理
⑧ 備考		⑨ 備考			方 法	1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製	3 (主たるバックデータ)				
⑩ 備考		⑪ 備考					論 的 分 類	2 実態解析 水文解析 地質 # 地形 #	4 (その他特記事項)		
⑫ 調査対象プロジェクトの概要		⑬ プロジェクト地点の国名			類	3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の 設計 計 細 概 略			⑭ 調 査 評 価		
(プロジェクトの種類番号)		⑯ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査精度)			
(プロジェクトの概要)		1			2 (技術水準)						
		2			3 (用いられた主たる理論・公式)						
		3			4 (技術的特色)						
					5 (調査効果)						

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の上なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	印

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の未結 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項 _____

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 9.8	② 調査対象プロジェクト名 肥料工業	③ 援助国又は機関名 UNDIO	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容				
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)		⑭ 内 容 説 明		
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにかける資料番号			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 そ の 他		1 (調査の目的) 電気分解によるアンモニアを原料として窒素肥料製造工業の可能性の分析 2 (勧告・結論) 電力コストが1kwh当り2ミル以下。 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項) 液体アンモニアの輸入による利用によって改訂の必要がある。		
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法		⑮ 調 査 評 価		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名			論 的		1 (調査精度)		
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			分 類		2 (技術水準)		
		1 2 3			3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 そ の 他		3 (用いられた主なる理論・公式)		
							4 (技術的特色)		
							5 (調査効果)		

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 9.9	② 調査対象プロジェクト名 紙・パルプ工業	③ 援助国又は機関名 デンマーク・スウェーデン フィンランド・スウェーデン UNDIO	④ 調査年度又は期間(西暦) 1964~1965	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農菜・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			⑬ 方法論的分類	⑭ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				⑮ 調査精度 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
		1 2 3				

調査カード

*コード番号 _____

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 9.10	② 調査対象プロジェクト名 鉄鋼業	③ 援助国又は機関名 UNDIO・日本	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968~1969	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 ○ 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考 タイ・シンガポール・マレーシア 中華民国・フィリピン・インドネシアにおける可能性について日本の調査報告(1969) タイにおける精錬所について1969年に論議が行なわれた。				
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			⑮ 方法論的分類	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑭ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑮ 調査地域概略図

⑯ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑰ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑱ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 9.11	② 調査対象プロジェクト名 その他の工業	③ 援助国又は機関名 UNDIO・メコン委	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場・工業・鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考				
⑦ 備考 準備中。1969年当初に燃炭工業専門家が到着し、又鉄合金専門家の派遣も議論された。		⑩ プロジェクト地点の国名			⑪ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____		⑩ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	
---	------	--------	-------	--------	------	--

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
9.12	世界の電力市場	メコン委・日本・Resources for Future社	1967~		⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	⑬ 1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) Resources for Future社, OICA 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考 Sambor 本流計画と結合した形でカンボディアにアルミニウム工場設立のフィジビリティ調査をメコン委は求めている。日本の最終フィジビリティ調査は'69年に終り、'70年に報告書ができる予定。			⑮ 調 査 評 価	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 カンボディア				
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3				

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 9.13	② 調査対象プロジェクト名 超高压送電網	③ 援助国又は機関名 メコン委・フランス	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968年	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的区分 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 SOFRELEC			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考 超高压(交流75万ボルト、直流45万ボルト)で大量の送電をするための送電電圧検討をする専門家の提供を1968年度末にメコン委から友好諸国に交渉し、フランスが69年に受けた。			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質# 地形# 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名			⑯ 調査が実施されるに到った理由、はげしい等	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
		1 2 3				

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(日時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受人機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

ヤク名 _____

⑳ 特記事項 _____

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 9.14	② 調査対象プロジェクト名 鉱物資源 (タイ東北地域)	③ 援助国又は機関名 タイ・UNDP	④ 調査年度又は期間(西暦) 1967~1968 1963~1966	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑩ 性格的分類 (○印を記入)	⑪ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 ○ 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏 査 ② 予備調査 3 フィンビリタイ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) この地域を一時的探査・探鉱に開放することをタイ国政府は決定 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項) Loei地域の2つの銅鉱床の掘下げが決定され、鉄、石コク、亜鉛、鉛、パライト鉱ならびにCharayaphum地域の岩塩の鉱床についても手続中。
⑦ 備考		⑩ 備考			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑬ プロジェクト地点の国名 泰 国			⑭ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3	

① 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

② 調査地域概略図

③ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

④ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実際

原 名 _____

・ やく名 _____

⑤ 特記事項

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 9.15 ~ 9.16	② 調査対象プロジェクト名 鉱物資源 (ラオス)	③ 援助国又は機関名 フランス・イギリス	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1969年5月	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 ○ 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) フランス地質鉱物調査部 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 土木施設の設計 詳細 概略 5 経済予測 6 産業開発計画 7 社会開発計画 8 モデルファーム 9 その他	⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) ⑬ 1967~68乾期: 6カ所のうちの3カ所の磁気偏差部の調査 1968~1969乾期: 残3カ所 地球化学・地球物理学的方法で行なわれているが、経済的コストにひきあう鉱量は発見されていない。 弱アルカリ金属(銅・鉛・亜鉛)の鉱脈1カ所がありそうである。 ⑭ Sayaboury 近辺の Thadeus 周辺に塩基性火成岩と銅鉱脈があることが発見。Sayaboury 周辺にはマンガンとアンチモンがある。 1971年迄に5万分の1, 25万分の1の地質写真地図を完成させる。		⑪ プロジェクト地点の国名				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 10.3	② 調査対象プロジェクト名 労働力調査	③ 援助国又は機関名 ILO・寮	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調 査 内 容				
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)		⑭ 内容説明		
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 予備調査 2 現地調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他		1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)		
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法		⑯ 調査評価		
		計画名 調査機関 必要な労働者の数 熟練 非熟練 Nam Ngum ILO 600人 1,300人 Lam Dom Noi Prek Thnot 350 2,010			1 実態調査 2 実態解析 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス・カンボディア			分 類				
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 1969年の建設に従事した労働力 Nam Ngum: 1,200人(40人のタイ熟練労働者 Lam Dom Noi: 近隣から充足 Prek Thnot: 1,500人(24人のカンボディア人の技術者と技能者, 19人のオーストラリアの横濱山岳水力発電当局からの派遣技術者)		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等			略				
		1 2 3							

⑥ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑦ 調査地域概略図

⑧ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期 間

⑨ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 他国供与の状況

原 名 _____
 やく名 _____

⑩ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	JNAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	-------	-------	--------	------

① 調査カード番号 10.4	② 調査対象プロジェクト名 再入植	③ 援助国又は機関名 ノコン委	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分类 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑦ 備考 再入植の最低限の基準(以下の9項目)		⑩ 備考			⑧ 方法論的分的類	⑨ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号)		⑪ プロジェクト地点の国名				
(プロジェクトの概要) 1) 貯水地区からの移転は、補償だけでなく適正な収入を得る機会が与えられること。 2) 同一の職業訓練費用は計画の費用の一部。 3) 移住地の選択は前住地より悪くないこと。 4) 移住地の選択は経費と利益を根拠とすること。 5) 入植者の選定は入植目的に従うこと。 6) 物的計画は入植者の当面する問題の困難さを軽減する配慮がなされること。 7) 農地の規模は収入の向上と経済・社会的福祉を保障すること。 8) 土地所有の条件は期限が明確であること。 9) 数国間にまたがる計画の再入植の財政は計画の全体予算に組込まれること。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				

⑯

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の異なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑰

調査地域概略図

⑱

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲

相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実際

原 名 _____

やく名 _____

⑳

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 10.5	② 調査対象プロジェクト名 Nam Pong	③ 援助国又は機関名 ニュージーランド	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 ニュージーランド海外援助団体				
⑦ 備考		⑩ 備考			段階的 分類 方法 論 的 分 類	1 路 査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名				
⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等		⑪ プロジェクト地点の国名			1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)	
		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	

⑩ 調査報告書の概要

(原語) ————— (日本語)

1. (報告者名) _____
2. 調査総括責任者氏名と地位 _____
3. (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) ————— (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑪ 調査地域概略図

㉔ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑫ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 2. 要請した便宜供与 3. 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑬ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 10.6	② 調査対象プロジェクト名 他の再入植計画	③ 援助国又は機関名 英国	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにかける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論)
⑩ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑪ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名 ラオス・タイ カンボディア	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			⑭ 調査評価
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) Nam Ngum : 600家族 Lam Dom Noi : 1,500家族, 250万バーツ Nam Oon : 1,500家族, 550万バーツ Prek Thnot : 1968年に査定され, 1971年に1,680家族(79年開始)		1 2 3		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)		

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の子なる項目についての説明 — 主として目次による)

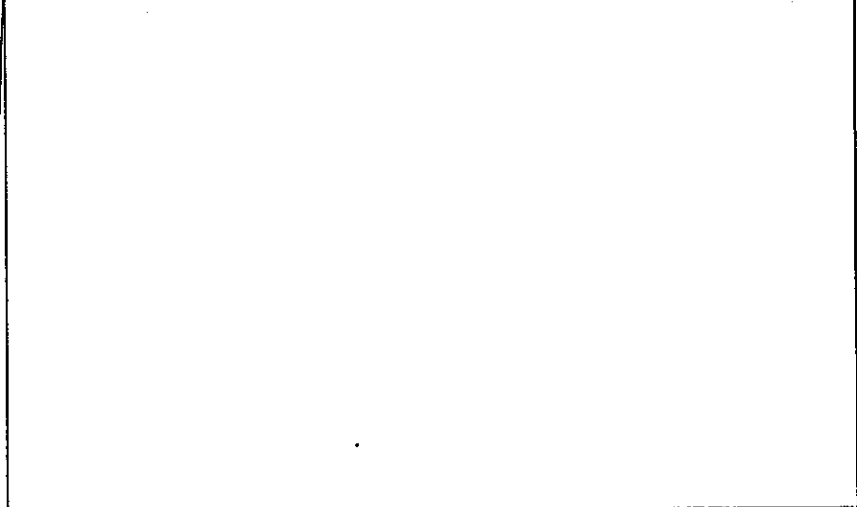
(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑰ 調査地域概略図



⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

や く 名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

		N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO		
① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名		④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル		調査内容		
10.7	記録映画 (再入植)	メコン安・汎太平洋 東南アジア婦人協会			2000ドル		③ 性格的区分 (○印を記入)		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 内容的区分		④ 内容説明		
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他		1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)		
⑦ 備考 再入植に際して諸変化に入植家族が準備できるようにと作るもの		⑧ 備考			方法的区分		⑤ 調査評価		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑨ プロジェクト地点の国名		タイ	3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 詳細概略 7 経済予測 8 産業開発計画 9 社会開発計画 10 モデルファーム 11 その他		1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)		
(プロジェクトの種類番号)		⑩ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等							
(プロジェクトの概要)		1 2 3							

⑩ 調査報告書の概要

(原語)	(日本語)
1 (報告者名) _____	
2 調査総括責任者氏名と地位 _____	
3 (報告書の子なる項目についての説明 — 主として目次による)	
(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原 名 _____		
やく名 _____		

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
10.8 ~ 10.10	社会経済調査	USBR, USALD	1967~1968		③ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 段階的分類	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑩ 備考		⑩ 備考			⑧ 方法論的分類	⑨ 調査評価
⑩ 備考		⑩ 備考				
⑪ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名			⑧ 詳細概要	⑨ 調査評価
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) USBR: Pa Mongチーム 1,500家族 PhethaburiおよびSuphan Buri地区 500家族(かんがいが農業経済に与える効果) USAID: Nam Pong(1969年末開始) タイ政府: Pa Mong 主流計画の影響をうける漁村 3451家族(7人/戸), 22%が漁業専従, 残りは半農半漁		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等			⑧ 10 その他	⑨ 5 (調査効果)

09 調査報告書の概要

(原 語) (日本語)

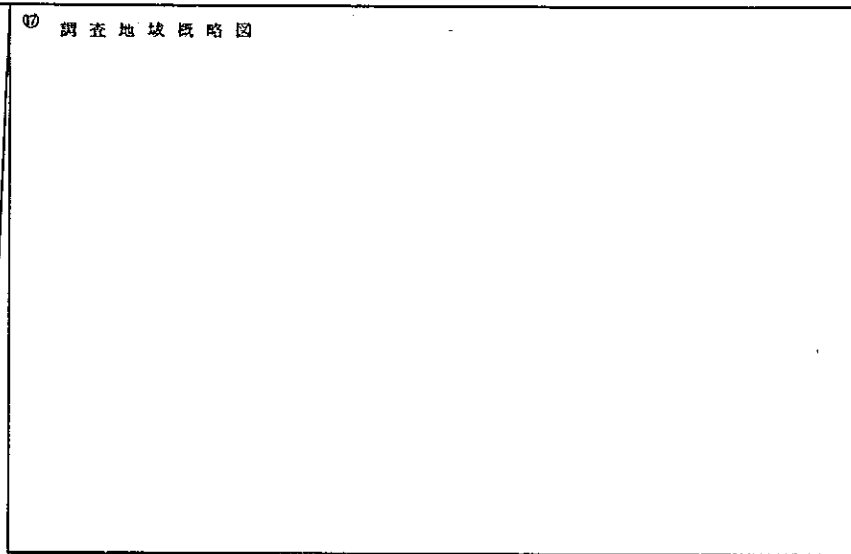
1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主な項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	
⋮	
⋮	
⋮	
⋮	
⋮	
⋮	
⋮	

07 調査地域概略図



10 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当職務	職(当時)	期 間

11 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

12 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 10.11	② 調査対象プロジェクト名 研修計画	③ 援助国又は機関名 メコン委	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的区分 (○印を記入)	⑨ 内容説明	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)	
⑩ 備考 職業訓練の計画 外国における研修		⑪ 備考			方法論的区分 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 詳細 概略 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑫ 調査評価	
⑬ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要)		⑭ プロジェクト地点の国名				1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
		⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					
		1					
		2					
		3					

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 10.12	② 調査対象プロジェクト名 研修生	③ 援助国又は機関名 中華民国、フランス、日本、オランダ、ベルギー、ドイツ、オーストリア、ニュージーランド、その他	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968, 1969	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容																																																							
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)	⑭ 内容説明																																																						
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号					段階的分類 1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の詳細 概要 6 経済予測 7 直交開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデータ) 4 (その他特記事項) ⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)																																																				
⑦ 備考 1969年度分は省略し、1968年度のみ⑥に列記(46人)		⑩ 備考 1969年度 仏、米、イスラエル、スイス、フィリピン、中華民国、ベルギー、日、蘭、英、豪																																																										
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 流域内：ラオス水文専門家がタイ国家電力庁1人1年間流域外。 <table border="1"> <tr> <th>国名</th> <th>人数</th> <th>派遣国</th> <th>期間</th> <th>テーマ</th> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>6</td> <td>中華民国</td> <td>2ヵ月</td> <td>かんがい組合</td> </tr> <tr> <td>カンガディア</td> <td>2</td> <td>ベルギー</td> <td>2ヵ月</td> <td>パイロット農場</td> </tr> <tr> <td>グイエトナム</td> <td>1</td> <td></td> <td>3ヵ月</td> <td>造船</td> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>1</td> <td>日本</td> <td>6ヵ月</td> <td>農業信用貯蓄</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>オランダ</td> <td>1年</td> <td>築港・河川水理</td> </tr> <tr> <td>ラオス</td> <td>1</td> <td>フランス</td> <td>9ヵ月</td> <td>統計学</td> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>1</td> <td>イギリス</td> <td>1年</td> <td>内陸用舟航建造</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>オランダ又はデンマーク</td> <td></td> <td>水理学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>オーストリア又はニュージーランド</td> <td></td> <td>農業経済</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>フランス</td> <td></td> <td>社会及公衆衛生</td> </tr> </table>		国名	人数	派遣国	期間	テーマ	タイ	6	中華民国	2ヵ月	かんがい組合	カンガディア	2	ベルギー	2ヵ月	パイロット農場	グイエトナム	1		3ヵ月	造船	タイ	1	日本	6ヵ月	農業信用貯蓄		1	オランダ	1年	築港・河川水理	ラオス	1	フランス	9ヵ月	統計学	タイ	1	イギリス	1年	内陸用舟航建造		1	オランダ又はデンマーク		水理学		1	オーストリア又はニュージーランド		農業経済		1	フランス		社会及公衆衛生	⑪ プロジェクト地点の国名		⑬ 性格的分類	⑭ 内容説明
国名	人数	派遣国	期間	テーマ																																																								
タイ	6	中華民国	2ヵ月	かんがい組合																																																								
カンガディア	2	ベルギー	2ヵ月	パイロット農場																																																								
グイエトナム	1		3ヵ月	造船																																																								
タイ	1	日本	6ヵ月	農業信用貯蓄																																																								
	1	オランダ	1年	築港・河川水理																																																								
ラオス	1	フランス	9ヵ月	統計学																																																								
タイ	1	イギリス	1年	内陸用舟航建造																																																								
	1	オランダ又はデンマーク		水理学																																																								
	1	オーストリア又はニュージーランド		農業経済																																																								
	1	フランス		社会及公衆衛生																																																								
⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等		⑬ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等																																																										

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 10.13 ~ 10.14	② 調査対象プロジェクト名 統計訓練センター	③ 援助国又は機関名 メコン委・ECAFE	④ 調査年度又は期間(西暦) 1967~8年	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容																								
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的区分 (○印を記入)	⑨ 内容説明																							
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号																											
⑩ 備考		⑪ 備考			段階的区分 1 踏査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 方法論 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項) ⑩ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)																							
⑫ 調査対象プロジェクトの概要		⑬ プロジェクト地点の国名 ラオス・ヴィエトナム カンボディア																											
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) ○ 1967年3~8月:メコン委・ECAFE共催 中級 ラオス10人, ヴィエトナム6人 初級 ヴィエトナム26人 ○ メコン委からカンボディアメコン委員会に統計訓練(41名)のための専門家を1人派遣 ○ 1968年:ラオス ○ 1968年:ヴィエトナムで4コースによる訓練 <table border="1"> <tr> <th>コース名</th> <th>人員</th> <th>内容</th> <th>期</th> <th>間</th> </tr> <tr> <td>第1コース</td> <td>27</td> <td>初級</td> <td>1月8日</td> <td>3月25日</td> </tr> <tr> <td>第2コース</td> <td>48</td> <td>中級</td> <td>5月13日</td> <td>7月24日</td> </tr> <tr> <td>第3コース</td> <td>32</td> <td>初級</td> <td>8月12日</td> <td>10月4日</td> </tr> <tr> <td>第4コース</td> <td>15</td> <td>抽出調査</td> <td>10月1日</td> <td>10月24日</td> </tr> </table>		コース名	人員	内容	期	間	第1コース	27	初級	1月8日	3月25日	第2コース	48	中級	5月13日	7月24日	第3コース	32	初級	8月12日	10月4日	第4コース	15	抽出調査	10月1日	10月24日	⑭ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等		
コース名	人員	内容	期	間																									
第1コース	27	初級	1月8日	3月25日																									
第2コース	48	中級	5月13日	7月24日																									
第3コース	32	初級	8月12日	10月4日																									
第4コース	15	抽出調査	10月1日	10月24日																									
		1 2 3																											

⑭

調 査 報 告 書 の 概 要

(原 語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑮ 調査地域概略図

⑯

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間

⑰ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 使官供与の尺牘

原 名 _____

やく名 _____

⑱ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 10.15	② 調査対象プロジェクト名 職務上の読み書き訓練	③ 援助国又は機関名 UNESCO	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画	○	1 名称	⑩ 備考		段階的 分類	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論)
2 主流計画		2 言葉の種類				
3 支流計画		3 日本語のほんやく書の有無				
4 舟航その他輸送		4 資金の性質				
5 洪水警報と治水		5 実施機関(コンサルタント名)				
6 農業・林業及び漁業		6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード			方法論 的 分 類	3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
7 電力市場 工業 鉱物資源		7* O.T.C.Aにおける資料番号				
8 社会開発と公衆衛生						
9 運用資金						
10 管理						
11 その他					⑫ 調査評価	
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			1 (調査精度)	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑬ プロジェクトの概要			2 (技術水準)	
(プロジェクトの種類番号)		⑭ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			3 (用いられた主なる理論・公式)	
(プロジェクトの概要)		1			4 (技術的特色)	
新森林技術の導入とそこから生ずる価値のために必要な教育の一部		2			5 (調査効果)	
		3				

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の子なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

や く 名 _____

㉑ 特記事項 _____

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
10.16	電気通信	ITU	1968		③ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			段階的 分類	④ 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論)
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) ITU 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.にかける資料番号				
⑦ 備考		⑧ 備考			⑤ 調査評価	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑨ プロジェクト地点の国名			⑤ 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 電話施設の開発と技術訓練および訓練センターをベンチヤン又はブノンペンに設立		⑩ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1				
		2				
		3				

⑩

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査結括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の異なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑪

調査地域概略図

⑫

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 10.17	② 調査対象プロジェクト名 メコン事務局における研修	③ 援助国又は機関名 メコン委	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑦ 備考 22の専門職が沿岸政府からのスタッフで占められている。(58%)		⑩ 備考			⑮ 方法論的分類	⑯ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			⑰ 詳細概略	⑱ 調査効果
		1 2 3				
					⑲ 経済予測	
					⑳ 産業開発計画	
					㉑ 社会開発計画	
					㉒ モデルフレーム	
					㉓ その他	

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

員氏名	格付	担当業務	職(当時)*	期間
-----	----	------	--------	----

⑲ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- a 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

㉑ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
10.18 ~ 10.19	セミナーと視察旅行	メコン委・ロックフェラー・フォード財団・豪・スイスアラブ	1968~1969		⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	⑮ 調査評価
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑯ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名			⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等	
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) ○ 1968年のセミナー ・7月1日~5日バンコック(メコン委)舟航改善セミナー ・10月7日~15日ロスバノス(フォード・ロックフェラー財団)米の生産セミナー ・積雪山岳地帯計画の技術的視察旅行、オーストラリア積雪山岳水力発電所主催 ○ 1969年のセミナー ・8月25日~29日バンコック法・行政セミナー 11月17日~22日ウィエンチエン 原子力エネルギーセミナー ○ 視察旅行 スイス・アラブ連合共和国 7月 スイス・水力発電 アラブ:アスワンハイダム					1 2 3	

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 10.20	② 調査対象プロジェクト名 考古学	③ 援助国又は機関名 メコン委・USBR	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968 1969	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的区分 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 / 地形 / 3 統計調査 4 開発計画(提案) 詳細 概略 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルフォーム 10 その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 水没地建設予定地周辺の考古学的調査計画の作成についての検討と Bernard Groslier 教授の助言 Pa Mong (USBRチーム) : 1969 年後半に Lam Dom Noi (ハワイ・オタゴ両大学連合チーム) : 1969 年 12 月に踏査開始		⑪ プロジェクト地点の国名				1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1 2 3				

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の手なる項目についての説明 — 主として目次による)

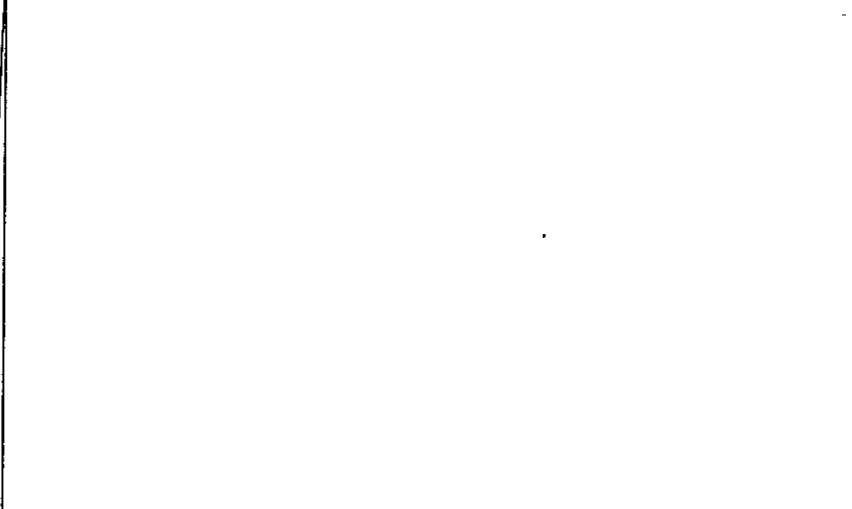
(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑪ 調査地域概略図



⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期出

⑬ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 2. 要請した便宜供与 3. 便宜供与の実績

原 名 _____

ヤク名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調 査 内 容	
10.21 ~ 10.23	公衆衛生	WHO・FAO	1966 1967 1968 1965~		⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	1 階 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			分 類	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名				
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 公衆衛生管理 衛生工学 ビルヘルツ吸虫(カンボディア・ラオス) 回虫・ねずみ駆除と衛生教育(タイ) マラリア(Nam Ngum ラオス)についてWHOから専門家が1969年6月Vientianeでの技術会議に参加 栄養調査(FAO,WHOによるタイ・カンボディアにおけるかんがい地域の栄養調査)		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	
		カンボディア・ラオス・タイ 1 2 3				

⑭ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑮ 調査地域概略図

⑯ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑰ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑱ 特記事項 _____

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
11.1 ~ 11.2	資金総額	下の⑥に記入	1968		③ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	④ 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他	○	1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号		方 法 論 的 分 類		
⑦ 備考 計画 5,472万ドル 建設 1億552万ドル } 拠出または拠出公約された資金総額 計 1億6,024万ドル		⑩ 備考			3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設的设计 6 詳細概略 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) ○印は建設分も支出 ○オーストラリア, ○オーストリア, ○ベルギー, ○カナダ, ○中華民国, ○デンマーク, ○フィンランド, ○フランス, ○ドイツ連邦共和国, ○香港, ○インド, ○インドネシア, ○イラン, ○イスラエル, ○イタリア, ○日本, ○オランダ, ○ニュージーランド, ○ノルウェー, ○パキスタン, ○フィリピン, ○スウェーデン, ○英国, ○アメリカ合衆国, ○E.C.A.F.E., ○UNOTC(B.T.A.O.), ○I.L.O., ○F.A.O., ○UNESCO, ○UNIDO, ○W.H.O., ○W.M.O., ○I.A.E.A., ○UNDP/S.F., ○W.F.P., マグサイサイ財団等。		⑪ プロジェクト地点の国名		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3		

⑯

調 査 報 告 書 の 概 要

(原 語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

、 項 目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑰

調査地域概略図

⑱

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格 付	担当業務	職(当時)	期 間

⑲ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

ヤク名 _____

㉑ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 11.3	② 調査対象プロジェクト名 計画立案と建設の資金	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考			段階的 方 法 論 的 分 類	1 1 類 査 2 予備調査 3 フィンビリティ調査 4 実施調査 5 その他 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業研究計画 8 社会研究計画 9 モデルフレーム 10 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑪ 備考 計画 5,470万ドル(34%) 建設 1億550万ドル(66%) 計 1億6,020万ドル		⑪ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) _____				⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名			⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等		
					1 2 3		

⑥ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書的主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑦ 調査地域概略図

⑧ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑨ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑩ 特記事項

調査カード

* コード番号

N	NAME	JNAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 11.4	② 調査対象プロジェクト名 沿岸国と非沿岸国の資金	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 10. 管 理 11. そ の 他		1. 名 称 2. 言葉の種類 3. 日本語のほんやく書の有無 4. 資金の性質 5. 実施機関(コンサルタント名) 6.* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7.* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考				
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			方 法 論 的 分 類	⑯ 調 査 評 価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 沿岸国 5,130万ドル(32%) 非沿岸国 1億890万ドル(68%) 計 1億6,020万ドル		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等 1 2 3				

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項 _____

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 11.5	② 調査対象プロジェクト名 贈与と借款	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			⑮ 調査評価	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名				
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 借 款 2,550万ドル (16%) 贈与および直接の予算支出 1億3,470万ドル (84%) 計 1億6,020万ドル		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等			1 2 3	

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑰ 調査地域概略図

⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 _____ 2. 要請した便宜供与 _____ 3. 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調 査 内 容	
11.6 ~ 11.8	財政方針	メコン委			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			段 階 的 分 類	⑬ 1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 論 的 分 類	1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名				
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) メコン委の財政方針 投資前業務：贈与と沿岸国からの支出 建設：借 款 1) 経済的に便益が上回るもののみ建設 2) 計画に比べ建設は莫大な資金が必要 3) 長期の利益還元期間により、還元利益の一部を建設費の償還に充当する。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			⑮ 調査評価	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
		1 2 3				

⑩ 調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項 目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑪ 調査地域概略図

18 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格 付	担当業務	職 (当時)	期 間
------	-----	------	--------	-----

⑫ 相手国の受人態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑬ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 11.9	② 調査対象プロジェクト名 補給計画	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑩ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等	⑬ 調査評価
⑭ 調査対象プロジェクトの概要		⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 補給プログラムによる補給品目 食糧品・セメント・石油製品・各種装置および部品 計340万ドル		1 2 3				

④ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑤ 調査地域概略図

⑥ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑦ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の夫積 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑧ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 11.10	② 調査対象プロジェクト名 食糧品	③ 援助国又は機関名 メコン委・WFP	④ 調査年度又は期間(西暦) 1966	⑤ 調査金額又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内 容 説 明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			段階的分類	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名				
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 食糧援助計画の縮小		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)

⑩ 調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 11.11	② 調査対象プロジェクト名 セメント	③ 援助国又は機関名 中華民国・タイ・パキスタン・イスラエル	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1969	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.にかける資料番号				
⑦ 備考		⑩ 備考				
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名			⑬ 性格的分類	⑭ 内容説明
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 中華民国 1,000トン(2万ドル相当) ウェトナム Drayling 発電所 中華民国 これまで7千トン(14万ドル相当) イスラエル 125万ドル借款(Nam Ngum用) タイ 125万ドル(Prek Thnot用)		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1 2 3				

06 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主な項目についての説明 — 主として目次による)

項目 (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

07 調査地域既略図

08 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

09 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名
- 2 要請した便宜供与
- 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	------	-------	--------	------

① 調査カード番号 11.12	② 調査対象プロジェクト名 石油製品	③ 援助国又は機関名 イラン	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1969	⑤ 調査金額円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内 容 説 明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 そ の 他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑩ 備考		⑪ 備考			方 法 論 的 分 類	⑫ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑬ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 9 回累計207千U.S.ドルの石油製品のイラン政府からの寄贈		⑭ プロジェクト地点の国名				
⑮ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等		⑯ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等				

⑨ 調査報告書の概要

1 (報告者名) _____ (原語) _____ (日本語)

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

⑩ 調査地域概略図

⑪ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑫ 相手国の受人態勢

1 受人機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑬ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 11.13	② 調査対象プロジェクト名 設備及び部品	③ 援助国又は機関名 仏・印・南・英・米 日・ニュージール ランド	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1969	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑩ 性格的 分類 段階 的 分 類	⑪ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 飲物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号 ⑩ 備考				
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 合計 176万ドル		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の1.5.1項目についての説明 — 主として日次による)

項目	内容についての概要
3.1	
3.2	
3.3	

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受人態勢

1 受人機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	
---	------	--------	-------	--------	------	--

① 調査カード番号 11.14	② 調査対象プロジェクト名 備品目録	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1969	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aに於ける資料番号 ⑩ 備考			1 路 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産別開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑪ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) ボート68隻 車輛62輛 ダイヤモンドドリル2機 渡せつ船2隻 航行改良工事・鉱物調査 水文関係の備品		⑩ プロジェクト地点の国名				⑪ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3

⑩ 調査報告書の概要

1 (報告者名) _____ (原語) _____ (日本語)

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書のすなわち項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) _____ (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実際 _____

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 11.15	② 調査対象プロジェクト名 臨時資金	③ 援助国又は機関名 ニュージーランド イスラエル インドネシア	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1968	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑩ 備考		⑪ 備考			段階的 分類 方法 論 的 分 類 1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画 (提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主たるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑩ プロジェクト地点の国名				⑫ 調査評価
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 1968年末現在 ニュージーランド 10,258ドル イスラエル 1,132ドル インドネシア 5,000ドル		⑪ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主たる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)	

09

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1. (報告者名)

2. 調査総括責任者氏名と地位

3. (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

10

調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

19 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 2. 要請した便宜供与 3. 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 11.16	② 調査対象プロジェクト名 特別会計	③ 援助国又は機関名 ~1968	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格の分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 10. 管理 11. その他		1. 名称 2. 言葉の種類 3. 日本語のほんやく書の有無 4. 資金の性質 5. 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1. 給査 2. 予備調査 3. フィジビリティ調査 4. 実施調査 5. その他	1. (調査の目的) 2. (勧告・結論) 3. (主なるバックデータ) 4. (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1. 実地調査 水文観測 地質調査 地図作製 2. 実態解析 水文解析 地質 地形 3. 統計調査 4. 開発計画(提案) 5. 土木施設の設計 詳細 概略 6. 経済予測 7. 産業開発計画 8. 社会開発計画 9. モデルファーム 10. その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 沿岸諸国 他の諸機関・私的個人からの寄付等 1968年現在 1,470ドル		⑪ プロジェクト地点の国名				1. (調査精度) 2. (技術水準) 3. (用いられた主なる理論・公式) 4. (技術的特色) 5. (調査効果)
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				
		1.				
		2.				
		3.				

00 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

07 調査地域概略図

08 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

09 相手国の受人恩勢

1 受人機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原名 _____

やく名 _____

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 12.1 ~ 12.3	② 調査対象プロジェクト名 メコン委員会	③ 援助国又は機関名 メコン委	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類(○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号				
⑩ 備考		⑪ 備考			段階的 分類 方法 論 的 分 類	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑫ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) メコン河下流域水資源計画の調査計画を協力して推進し、調査し、監督し、統制する全権を有する。 沿岸各国1名の代表から構成される政府間機構		⑬ プロジェクト地点の国名				
		⑯ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等				1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)

06

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

項目

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

07 調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

09 相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の夫続
原 名 _____		
やく名 _____		

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 12.4	② 調査対象プロジェクト名 1968年度委員会案 1969	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968 1969	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑩ 性格的分類(○印を記入)	⑪ 内容説明
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 管 理 11. その他		1. 名称 2. 言葉の種類 3. 日本語のほんやく書の有無 4. 資金の性質 5. 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1. 踏査 2. 予備調査 3. フィジビリティ調査 4. 実施調査 5. その他	1. (調査の目的) 2. (動向・結論) 3. (主たるバックデータ) 4. (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 論 的 分 類 1. 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2. 実態解析 水文解析 地質 地形 3. 統計調査 4. 開発計画(提案) 5. 土木施設的设计 詳細 概略 6. 経済予測 7. 産業開発計画 8. 社会開発計画 9. モデルファーム 10. その他	⑫ 調査評価 1. (調査精度) 2. (技術水準) 3. (用いられた主たる理論・公式) 4. (技術的特色) 5. (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要)		⑪ プロジェクト地点の国名				
34回 1968- 15~115 ハンコク (社会) 35 417~430 キャンベラ (特別) 36 75 パンコク () 37 911~913 () 38 1969- 122~127 タイゴン (社会) 39 415~428 シンガポール (特別) 40 713 ラカルノ () 41 824 ヴイエトナム (臨時) 42 911~913 パンコク (特別) 43 1028 () 44 1122 ヴイエトナム ()		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

④ 調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の手なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑤ 調査地域概略図

⑥ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑦ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑧ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	
---	------	--------	-------	--------	------	--

① 調査カード番号 12.5	② 調査対象プロジェクト名 国内メコン委	③ 援助国又は機関名 沿岸4カ国	④ 調査年度又は期間(西歴)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			③ 性格的分類(○印を記入)	④ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方法論的分類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 詳細 概略 5 土木施設の設計 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑤ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 沿岸4カ国で国内メコン委員会を設立		⑪ プロジェクト地点の国名 _____				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				

㊦ 調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

- 1 (報告者名) _____
- 2 調査総括責任者氏名と地位 _____
- 3 (報告書の主なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

㊧ 調査地域概略図

㊨ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

㊩ 相手国の受入態勢

- 1 受入機関名 _____
- 2 要請した便宜供与 _____
- 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

㊪ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 12.6 ~ 12.8	② 調査対象プロジェクト名 UNDPの機構援助	③ 援助国又は機関名 UNDP	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと) 1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他					⑦ 報告書の構成等	
					1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号	
⑩ 備考					⑪ 調査評価	
⑫ 調査対象プロジェクトの概要					⑬ プロジェクト地点の国名	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 1968.7.1~1970.12.31 UNDP. 3,111,900ドル 地域での使用料: 256,100ドル 沿岸4カ国. 287,354ドル					⑭ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3	

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の目次項目についての説明 — 主として目次による) _____

(項目) (内容についての概要)

3.1 _____

3.2 _____

3.3 _____

⑪ 調査地域概略図



⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 12.9 ~ 12.12	② 調査対象プロジェクト名 諮問委員会	③ 援助国又は機関名 諮問委員会	④ 調査年度又は期間(西暦) ~1968.69	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)			⑧ 報告書の構成等		⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他			1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.にかける資料番号			
⑦ 備考			⑩ 備考		⑮ 方法的分類	⑯ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要			⑪ プロジェクト地点の国名			
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 1970年1月以降のメンバー Mr. E. R. Black (アメリカ) Mr. P. Bourrieres (仏) Mr. A. Gaitskell (英) Sir. R. Jackson () Mr. N. Prasad (印) Mr. F. Rodriguez (比) Mr. Kanwar Sain (印、執行委員とメコン事務局長技術部長を兼任) Dr. C. H. Schaaf (米) 鈴木源吾氏 (日) Dr. V. Umbricht (スイス) Lt. Gen. R. A. Wheeler, Rtd. (米)			⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等		1 2 3	

09 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査執括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

07 調査地域概略図

08 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

09 相手国の受人態勢

1. 受人機関名 2. 要請した便宜供与 3. 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

00 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
12.13 ~ 12.15	事務局長の役職	ノコン委			③ 性格的分類(○印を記入)	④ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)			⑨ 報告書の構成等			⑧ 段階的分類
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他			1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			
⑦ 備考			⑩ 備考			⑧ 方法論的分類
⑥ 調査対象プロジェクトの概要			⑪ プロジェクト地点の国名			
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 事務局長の職務 1) 技術的・経済的援助の要請を行なうこと。 2) この要請をフォローアップすること。 3) 技術者のサービスと各種プロジェクトの監督 4) 作業計画の作成 5) 諮問委員会の助言が求められている問題に関する記述 1969年12月1日以降 Mr. W. J. van der Oord. 1969-5~1969-11迄 Dr. C. H. Schaaf			⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3			⑤ 調査評価
						1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
						1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

項目 (内容についての概要)

3.1 _____

3.2 _____

3.3 _____

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受人機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

ヤク名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	
---	------	--------	-------	--------	------	--

① 調査カード番号	② 調査対象プロジェクト名	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調査内容	
12.16 ~ 12.7	メコン事務局	メコン委			③ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他	1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関 (コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにかける資料番号					
⑨ 備考		⑩ 備考			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
⑥ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名				
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 技術・航行改善, 経済社会の3部に1970年から農業部が新設される。 1968年度末での専門ポストは38うち33はUNDPの援助計画で運営され, 5はECAFE予算である。		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	④ 内容説明
		1 2 3				

10 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1 _____

3.2 _____

3.3 _____

11 調査地域概略図

12 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

13 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____ 2 要請した便宜供与 _____ 3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

14 特記事項

調査カード

* コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 12.18	② 調査対象プロジェクト名 無線電信網	③ 援助国又は機関名 ノコン委	④ 調査年度又は期間(西暦) 1968-1969	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑧ 性格的分類(○印を記入)	
⑦ 報告書の構成等					⑨ 内 容 説 明	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農林・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 そ の 他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			段 階 1 踏 査 2 予備調査 3 フィンビィリティ調査 4 実施調査 5 そ の 他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法	⑩ 調 査 評 価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名			論	1 (調査精度)
(プロジェクトの種類番号)					的	2 (技術水準)
(プロジェクトの概要)		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			分	3 (用いられた主なる理論・公式)
ノコン委は無線電信網の運営を継続した。		1			類	4 (技術的特色)
		2				5 (調査効果)
		3				
					6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 そ の 他	

⑩ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査統括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目) (内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⑪ 調査地域概略図

⑫ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	取(当時)	期間

⑬ 相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	

① 調査カード番号 12.19	② 調査対象プロジェクト名 メコン・ドクメントセンター	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1. 流域計画 2. 主流計画 3. 支流計画 4. 舟航その他輸送 5. 洪水警報と治水 6. 農業・林業及び漁業 7. 電力市場 工業 鉱物資源 8. 社会開発と公衆衛生 9. 運用資金 10. 管 理 11. そ の 他		1. 名 称 2. 言葉の種類 3. 日本語のほんやく書の有無 4. 資金の性質 5. 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1. (調査の目的) 2. (勧告・結論) 3. (主なるバックデーター) 4. (その他特記事項)
⑩ 備考		⑪ 備考			方 法 論 的 分 類 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑫ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) ECAF E図書館内にあり、メコン開発に関係ある技術的・経済的・社会的物品を保存している。		⑩ プロジェクト地点の国名 _____ ⑪ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3				1. (調査精度) 2. (技術水準) 3. (用いられた主なる理論・公式) 4. (技術的特色) 5. (調査効果)

06

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

目次

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

07

調査地域概略図

08

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑨ 相手国の受入態勢

1 受入機関名	2 要請した便宜供与	3 便宜供与の実績
原 名 _____		
やく名 _____		

20 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO	
---	------	--------	-------	--------	------	--

① 調査カード番号 12.20	② 調査対象プロジェクト名 記録映画	③ 援助国又は機関名 ⑥ 参照	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容		
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内 容 説 明	
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 ⑩ 備考			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他		1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項) ⑨ 調 査 評 価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名					
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 汎太平洋東南アジア婦人協会: 1968年に2,000ドルの寄付 Esso: ケンカハアの岩石爆破工法('68) Shell: ノコン計画記録映画 電通映画: Nam Ngumダムサイトの開所式('67)		1 2 3					

⑯ 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____
2. 調査結果責任者氏名と地位 _____
3. (報告書的主要項目についての説明 — 主として目次による)

項目 (内容についての概要)

- 3.1 _____
- 3.2 _____
- 3.3 _____

⑰ 調査地域概略図



⑱ 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑲ 相手国の受入憑券

1. 受入機関名 _____
 2. 要請した便宜供与 _____
 3. 便宜供与の実績 _____
- 原 名 _____
- やく名 _____

⑳ 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 12.21-	② 調査対象プロジェクト名 月報	③ 援助国又は機関名 メコン委員会 諮問委員会	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑦ 報告書の構成等			⑧ 性格的分類 (○印を記入)	⑨ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業・鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号				
⑩ 備考		⑪ 備考			⑩ 方法的分類	⑪ 調査評価
⑫ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 1968年1月からメコン月報の刊行開始		⑬ プロジェクト地点の国名 _____				
		⑭ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			⑩ 方法的分類	⑪ 調査評価
		1				
		2				
		3			⑩ 方法的分類	⑪ 調査評価
		1 名称				
		2 言葉の種類				
		3 フィンビリティ調査				
		4 実施調査				
		5 その他				
		1 実態調査				
		水文観測				
		地質調査				
		地図作製				
		2 実態解析				
		水文解析				
		地質				
		地形				
		3 統計調査				
		4 開発計画(提案)				
		5 土木施設的设计				
		詳細				
		概略				
		6 経済予測				
		7 産業開発計画				
		8 社会開発計画				
		9 モデルファーム				
		10 その他				
		1 (調査の目的)				
		2 (勧告・結論)				
		3 (主なるバックデーター)				
		4 (その他特記事項)				
		1 (調査精度)				
		2 (技術水準)				
		3 (用いられた主なる理論・公式)				
		4 (技術的特色)				
		5 (調査効果)				

10

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1. (報告者名)

2. 調査陸括責任者氏名と地位

3. (報告書の主要項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

11 調査地域概略図

12 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当又務	職(当時)	期間

13 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 2. 要請した便宜供与 3. 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

14 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 12.22 ~ 12.24	② 調査対象プロジェクト名 開発共同者としての関連	③ 援助国又は機関名 ECAFE UNDP	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容										
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)					⑦ 報告書の構成等				⑧ 性格的分類 (○印を記入)		⑨ 内容説明				
									段		1 階 査		1 (調査の目的)		
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他					1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号					階		2 予備調査		2 (勧告・結論)	
										方		3 フィジビリティ調査		3 (主なるバックデーター)	
⑦ 備考					⑧ 備考					法		4 実施調査			
										論		4 実施調査		4 (その他特記事項)	
⑧ 調査対象プロジェクトの概要					⑨ プロジェクト地点の国名					的		5 その他			
										分		5 その他		3 (主なるバックデーター)	
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) ○国連はECAFEを窓口として、メコン委員会の機能を完遂するに当って、委員会とECAFE事務局は一致協力することになっている。 ○UNDPは一つの支流計画の調査と総合フィジビリティレポートを作成する役割を果たしている。					⑩ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					論		4 (調査精度)			
										類		6 統計調査		1 (調査精度)	
⑩ 備考					⑪ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					的		2 (技術水準)			
										分		7 開発計画 (提案)		2 (技術水準)	
⑪ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					類		3 (用いられた主なる理論・公式)			
										論		8 開発計画 (提案)		3 (用いられた主なる理論・公式)	
⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					⑬ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					的		4 (技術的特色)			
										分		9 土木施設の設計		4 (技術的特色)	
⑬ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					⑭ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					論		5 (調査効果)			
										類		10 経済予測		5 (調査効果)	
⑭ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					的		6 (調査効果)			
										分		11 産業開発計画		6 (調査効果)	
⑮ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					⑯ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					論		7 (調査効果)			
										類		12 社会開発計画		7 (調査効果)	
⑯ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					⑰ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					的		8 (調査効果)			
										分		13 モデルファーム		8 (調査効果)	
⑰ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					⑱ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等					論		9 (調査効果)			
										類		14 その他		9 (調査効果)	

10

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

11

調査地域概略図

18

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間
[1] 氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

19

相手国の受入態勢

1. 受入機関名	2. 要請した便宜供与	3. 便宜供与の実績
原 名 _____		
やく名 _____		

20

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO
---	------	--------	-------	--------	------

① 調査カード番号 12.25	② 調査対象プロジェクト名 その他の国連協力計画	③ 援助国又は機関名 ⑥ 参照	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等		⑬ 性格的分類(○印を記入)		
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号		⑭ 内容説明 1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)		
⑦ 備考		⑩ 備考		⑮ 調査評価		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名		⑯ 方法論的分類		
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) ECAFEとUNDPの他に次の13の国連機関が コン委員会を助けている。 UNOTC, ILO, ITU, WMO, FAO, UNESCO, UNIDO, WHO, IAEA, IBRD, WFP アジア経済開発企画研究所 アジア・ハイウェイ運輸技術部		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等		1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他		
		1		1 (調査精度)		
		2		2 (技術水準)		
		3		3 (用いられた主なる理論・公式)		
				4 (技術的特色)		
				5 (調査効果)		

09

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

10

調査地域概略図

08

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

11

相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

09

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 12.26	② 調査対象プロジェクト名 協力諸国	③ 援助国又は機関名 ④ 参照	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類 (○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的 分類 段 階 的 分 類	⑭ 内 容 説 明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農菜・林菜及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名 称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (動告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 論 的 分 類	⑯ 調 査 評 価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名			1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 計 細 概 略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
(プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) 流域外協力国(1969年現在)26カ国:豪, 加, 印, 日, ニュージーランド, パキスタン, 英, 米, 奥, ベルギー, 中華民国, デンマーク, フィンランド, 仏, 独, 香港, インドネシア, イラン, イスラエル, 伊, 蘭, ノルウェー, 比, スウェーデン, スイス, アラブ共和国連邦		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等				
		1 2 3				

06 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1. (報告者名) _____

2. 調査総括責任者氏名と地位 _____

3. (報告書的主要な項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	

07 調査地域概略図

08 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査日の編成と調査期間)

日付氏名	格付	担当業務	取(当時)	期間

09 相手国の受入態勢

1. 受入機関名 _____ 2. 要請した便宜供与 _____ 3. 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

ヤク名 _____

10 特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 12.27	② 調査対象プロジェクト名 協力機関	③ 援助国又は機関名 ⑥ 参照	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調査内容	
⑧ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.A.における資料番号			1 予備調査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデーター) 4 (その他特記事項)
⑩ 備考		⑪ 備考			1 実地調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実地解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 詳細 概略 6 経済予測 7 産業開発計画 8 社会開発計画 9 モデルファーム 10 その他	⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) _____ (プロジェクトの概要) アジア開発銀行, 世界銀行, アジア財団, Ford財団, Future 資金, ロックフェラー財団, ラマン・マクサイサイ財団, 国際コノ研究所, 汎太平洋・東南アジア婦人協会		⑪ プロジェクト地点の国名				
		⑫ 調査が実施されるに到った理由, はいけい等				
		1				
		2				
		3				

00 調査報告書の概要

(原語) (日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の手なる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)	(内容についての概要)
3.1	
3.2	
3.3	
⋮	

01 調査地域概略図

02 日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の構成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

03 相手国の受入態勢

1 受入機関名 _____

2 要請した便宜供与 _____

3 便宜供与の実績 _____

原 名 _____

やく名 _____

04 特記事項 _____

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 12.28	② 調査対象プロジェクト名 協力企業	③ 援助国又は機関名 ◎ 参照	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額円又はドル	調 査 内 容	
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類 (○印を記入)	⑭ 内容説明
1 流域計画 2 主流計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号			1 踏 査 2 予備調査 3 フィジビリティ調査 4 実施調査 5 その他	1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックデータ) 4 (その他特記事項)
⑦ 備考		⑩ 備考			方 法 1 実態調査 水文観測 地質調査 地図作製 2 実態解析 水文解析 地質 地形 3 統計調査 4 開発計画(提案) 5 土木施設の設計 6 詳細概略 7 経済予測 8 産業開発計画 9 社会開発計画 10 モデルファーム 10 その他	⑮ 調査評価
⑧ 調査対象プロジェクトの概要		⑪ プロジェクト地点の国名	⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等			1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)
(プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 下記11社が直接援助を行っている。 Bulgar Associates Inc. : 食糧調査展示 Certeza Surveying Co. : 写真測量訓練 電通映画社 Esso Oil Co. : 記録映画 Shell Oil Co. Gestetner (Eastern) Ltd. : 印刷業務 Price Waterhouse Co. Sycip Gorres Velaya and Co. : 会計検査業務 日本電気社 : 会議用電気設備 Hindustan Zinc Co. : 肥料 Imperial Chemical Industries : 岩石爆破材料						

⑩

調査報告書の概要

(原語)

(日本語)

1 (報告者名) _____

2 調査総括責任者氏名と地位 _____

3 (報告書の主たる項目についての説明 — 主として目次による)

(項目)

(内容についての概要)

3.1

3.2

3.3

⋮

⑪

調査地域概略図

⑫

日本が行ったものについて記入すべき事項

(調査団の編成と調査期間)

団員氏名	格付	担当業務	職(当時)	期間

⑬

相手国の受入態勢

1 受入機関名 2 要請した便宜供与 3 便宜供与の実績

原 名 _____

やく名 _____

⑭

特記事項

調査カード

*コード番号

N	NAME	I NAME	JMOKU	ISURVI	KASO

① 調査カード番号 12.29	② 調査対象プロジェクト名 協力国・国連機関その他	③ 援助国又は機関名	④ 調査年度又は期間(西暦)	⑤ 調査金額 円又はドル	調 査 内 容				
⑥ 調査対象プロジェクトの種類(○印を記入のこと)		⑨ 報告書の構成等			⑬ 性格的分類(○印を記入)		⑭ 内容説明		
1 流域計画 2 主河計画 3 支流計画 4 舟航その他輸送 5 洪水警報と治水 6 農業・林業及び漁業 7 電力市場 工業 鉱物資源 8 社会開発と公衆衛生 9 運用資金 10 管 理 11 その他		1 名称 2 言葉の種類 3 日本語のほんやく書の有無 4 資金の性質 5 実施機関(コンサルタント名) 6* プロジェクト調査に対し援助国又は機関が多い場合の関連調査カード番号とそのコード 7* O.T.C.Aにおける資料番号 ⑩ 備考			1 1 踏 査 2 2 予備調査 3 3 フィンビリティ調査 4 4 実施調査 5 5 その他 1 1 実態調査 2 2 実態解析 3 3 統計調査 4 4 開発計画(提案) 5 5 土木施設の設計 6 6 経済予測 7 7 産業開発計画 8 8 社会開発計画 9 9 モデルフォーム 10 10 その他		1 (調査の目的) 2 (勧告・結論) 3 (主なるバックグランド) 4 (その他特記事項) ⑮ 調査評価 1 (調査精度) 2 (技術水準) 3 (用いられた主なる理論・公式) 4 (技術的特色) 5 (調査効果)		
⑦ 備考		⑪ プロジェクト地点の国名			⑬ 方 法		⑮ 評 価		
⑧ 調査対象プロジェクトの概要 (プロジェクトの種類番号) (プロジェクトの概要) 協力プログラムは次のものによって実施される。 運用計画 プロジェクト協定書 交換文書 運営業務を行なう協力国・機関は、運営状況と運営上の問題を委員会に報告し、委員会及び河事事務局の指導と援助を仰ぐ。		⑫ 調査が実施されるに到った理由、はいけい等 1 2 3			⑬ 論 議		⑮ 価 値		

番号

実施された開発事業（工事中又は完成）

<p>(1) プロジェクトの分類</p>		<p>(9) 事業の概要</p> <p>事業規模（内容） 主なる項目について</p> <p>(i)</p> <p>(ii)</p> <p>(iii)</p>	<p>00 関係図面</p> <p>適当な縮尺にて次の図面を添付</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般平面図 ○ プロジェクト平面図 (主なる構造物の配置図) ○ 構造図 (主なる) ○ 特に必要と思われる図面
<p>(2) 開発事業の名称 (プロジェクト名)</p>			
<p>(3) 事業の前提となった 調査のカード番号</p>			
<p>(4) 事業が実施された国名</p>			
<p>(5) 工事中、完成の別</p>			
<p>(6) 完成予定期日</p>			
<p>(7) 建設資金の種類、金額、年度別</p>		<p>事業効果</p> <p>(i)</p> <p>(ii)</p> <p>(iii)</p>	<p>00 特記事項</p>
<p>(種類) (金額) (年度別)</p>			
<p>自国 関連 援助国 世銀 アジア銀 その他</p>			
<p>(8) 実施に関するコンサルタント</p> <p>国名</p> <p>コンサルタント会社名</p> <p>役割</p>			

(1) プロジェクトの分類 支流計画		(9) 事業の概要 事業規模（内容）主なる項目について (i) 高41mのロックフィルダム 1,550百万m ³ 総貯水容量 発電 24MW (ii) 年間平均出力 8,000万KWh かんがい網：25,000 ha 漁業 治水 (iii) レクリエーション 1968年9月以降Christian and Nielsen Ltd. がコンクリート作業 1969年9月：前田建設 - ダム本体 東洋棉花 - 発電・放水管 契約 三井 - ゲート・ベンストック	00 関係図面 適当な縮尺にて次の図面を添付 ○ 一般平面図 ○ プロジェクト平面図 (主なる構造物の配置図) ○ 構造図（主なる） ○ 特に必要と思われる図面
(2) 開発事業の名称 (プロジェクト名)	Lam Dom Noi		
(3) 事業の前提となった調査のカード番号			
(4) 事業が実施された国名	タイ		
(5) 工事中、完成の別	工事中		
(6) 完成予定期日			
(7) 建設資金の種類、金額、年度別		事業効果	00 特記事項
(種類) (金額) (年度別)			
自国			
国連			
援助国			
世銀			
アジア銀			
その他			
		(i)	
		(ii)	
		(iii)	
(8) 実施に関するコンサルタント			
国名 日・仏			
コンサルタント会社名 電研開発KK, SOGREAH			
役割り フィージビリティ(日), 農業士(仏)			

(1) プロジェクトの分類 支 渡 計 画		(9) 事業の概要 <u>事業規模（内容）</u> 主なる項目について (i) Vientiane北方70 kmに位置し、470 m長のコンクリート重力ダムで河床から75 mの高さ 放水路の能力9000m ³ /sec. 幅12.5 m, 高さ9.5 mのラディアルゲート 発電所 第1期 17,500KVA×2基 ターボ発電機 最終期 35,000KVA×3基 送電線 115 KV ナムナムからグイエムチャン、ノンカイ、ウドンに送電 (ii) 管理: Acres International Ltd. (カナダ) 実施設計・入札仕様書作成・工事監督: 日本工営KK (日本) 建設(送電線・発電所): 東洋棉花(間組・三井ジョイントベンチャー) 建設(Ban Theletの工所用橋梁): Christiani and Nielsen Ltd.	00 関係図面 適当な縮尺にて次の図面を添付 <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般平面図 ○ プロジェクト平面図 (主なる構造物の配置図) ○ 構 造 図 (主なる) ○ 特に必要と思われる図面
(2) 開発事業の名称 (プロジェクト名) Nam Ngum			00 特記事項
(3) 事業の前提となった調査のカード番号			
(4) 事業が実施された国名 ラ オ ス			
(5) 工事中、完成の別 工 事 中			
(6) 完成予定期日			
(7) 建設資金の種類、金額、年度別		<u>事業効果</u> (i) (ii) (iii)	
(種類) (金額) (年度別)			
自 国 国 連 援助国 7カ国(約30百万米ドル) 世 銀 アジ銀 その他			
(8) 実施に係るコンサルタント 国 名 コンサルタント会社名 日本工営KK 役割り			

番号 _____

実施された開発事業（工事中又は完成）

(1) プロジェクトの分類		<p>(9) 事業の概要</p> <p><u>事業規模</u>（内容）主たる項目について</p> <p>(i)</p> <p>(ii)</p> <p>(iii)</p>	<p>00 関係図面</p> <p>適当な縮尺にて次の図面を添付</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般平面図 ○ プロジェクト平面図 （主たる建造物の配置図） ○ 構造図（主たる） ○ 特に必要と思われる図面 																					
(2) 開発事業の名称 （プロジェクト名）																								
(3) 事業の前提となった 調査のカード番号																								
(4) 事業が実施された国名																								
(5) 工事中，完成の別																								
(6) 完成予定期日																								
(7) 建設資金の種類，金額，年度別		<p><u>事業効果</u></p> <p>(i)</p> <p>(ii)</p> <p>(iii)</p>	<p>00 特記事項</p>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>（種類）</th> <th>（金額）</th> <th>（年度別）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自国</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国連</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>援助国</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>世銀</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アジア銀</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				（種類）	（金額）	（年度別）	自国			国連			援助国			世銀			アジア銀			その他		
（種類）	（金額）			（年度別）																				
自国																								
国連																								
援助国																								
世銀																								
アジア銀																								
その他																								
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>自国</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国連</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>援助国</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>世銀</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アジア銀</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		自国			国連			援助国			世銀			アジア銀			その他							
自国																								
国連																								
援助国																								
世銀																								
アジア銀																								
その他																								
<p>(8) 実施に関係するコンサルタント</p> <p>国名</p> <p>コンサルタント会社名</p> <p>役割</p>																								

(1) プロジェクトの分類 支 援 計 画		(9) 事業の概要	(10) 関係図面 適当な縮尺にて次の図面を添付
(2) 開発事業の名称 （プロジェクト名）	セ・ドン下流	事業規模（内容） 主なる項目について	○ 一般平面図
(3) 事業の前提となった 調査のカード番号		(i) ダム：1968年度完了	○ プロジェクト平面図 （主なる構造物の配置図）
(4) 事業が実施された国名	ラ オ ス	(ii) 発電機：1969年12月 全機作動開始	○ 構造図（主なる）
(5) 工事中、完成の別	完 成	(iii)	○ 特に必要と思われる図面
(6) 完成予定期日	1969年12月		
(7) 建設資金の種類、金額、年度別			(11) 特記事項
（種類） （金額） （年度別）			
自 国 国 連 援助国 370万フラン 相互借款と贈与 12千万ヤップ 電力公社への credit. 600万フラン 世 銀 アジ銀 その他 フランス		事業効果 (i) (ii) (iii)	
(8) 実施に係るコンサルタント 国 名 コンサルタント会社名 SOPRELEC 役割			

<p>(1) プロジェクトの分類</p>	<p>支流計画</p>	<p>(9) 事業の概要</p> <p>事業規模（内容） 主なる項目について</p> <p>(i) Ubol Ratanaダム・発電所は1966年完成 発電設備 3×8.3MW かんがい面積 5,300ha 漁業（貯水池利用） 治水 レクリエーション</p> <p>(ii) ダムと発電所の建設 Philip Holzman A.G.およびSiemens Bauunion GmbH 送電線の建設 Brown Boveri CieおよびS.A. Electrificazzione Sp. A. Nong Wai 分水線の建設 タイ王立かんがい庁</p> <p>(iii) 1968年3月 Nam Pong と Nam Pung 両発電所の連けいのため69KVの送電線の結合 1968年6月 Korat において15MVのガスタービン発電装置設置 1969年半ば Udon において15MVのガスタービン発電装置設置 1970年迄に Yanhee 電力網とKoratのNam Pong電力網の連けいは完了予定 1971年迄 かんがい網の完成予定</p>	<p>(10) 関係図面</p> <p>適当な縮尺にて次の図面を添付</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般平面図 ○ プロジェクト平面図 <p>（主なる構造物の配置図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構造図（主なる） ○ 特に必要と思われる図面
<p>(2) 開発事業の名称 （プロジェクト名）</p>	<p>Nam Pong</p>		
<p>(3) 事業の前提となった調査のカード番号</p>			
<p>(4) 事業が実施された国名</p>	<p>タイ</p>		
<p>(5) 工事中、完成の別</p>	<p>ダム・発電所：完成 送電線、かんがい：工事中</p>		
<p>(6) 完成予定期日</p>	<p>1971</p>		
<p>(7) 建設資金の種類、金額、年度別</p>			<p>(11) 特記事項</p>
<p>（種類） （金額） （年度別）</p>			
<p>自国 国連 援助国 世銀 アジ銀 その他</p>		<p>事業効果</p> <p>(i) (ii) (iii)</p>	
<p>(8) 実施に関するコンサルタント</p> <p>国名</p> <p>コンサルタント会社名 調査カード 5.7～5.10の 09, 09参照</p> <p>役割</p>			

(1) プロジェクトの分類 社会開発と公衆衛生		(9) 事業の概要 <u>事業規模（内容）</u> 主なる項目について (i) ポンプ3, 貯水池8, 給水管16 km (ii) (iii)	(10) 関係図面 適当な縮尺にて次の図面を添付 <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般平面図 ○ プロジェクト平面図 (主なる構造物の配置図) ○ 構造図 (主なる) ○ 特に必要と思われる図面
(2) 開発事業の名称 (プロジェクト名)	Nam Pong (上水道)		
(3) 事業の前提となった調査のカード番号			
(4) 事業が実施された国名	タイ		
(5) 工事中, 完成の別	一部完成		
(6) 完成予定期日	1968年		
(7) 建設資金の種類, 金額, 年度別		(11) 事業効果 (i) Nam Pongの人植地区の家庭用水 (ii) Kenaf (この地区の重要穀物の一つ)の水灌け工場 (iii)	(12) 特記事項 ニュージーランド海外援助団体は, Nam PongおよびNom Sang 地域の農業の拡大, 地域発展のための配水施設拡大のため専門家の提供を続ける予定。
(種類) (金額) (年度別)			
自国 国連 援助国 ニュージーランド 金額不明 1968年迄 世銀 アジ銀 その他			
(8) 実施に関係するコンサルタント 国名 コンサルタント会社名 役割り			